脚本
先掛高校野球部

hirotsugu ko

その１

ナレータ　立っているだけでも汗が滲むほどの蒸し暑い夏の日のこと…
先掛高校（さきがけこうこう）野球部一年生の二人組は、せっせと草むしりに精を出していた。その一人の名は、東屋大吉（あずまや　だいきち）と言い、もう一人の名は、六井太（むつい　ふとし）と言う。二人ともバカが付くほどに、野球一筋に生きる男たちであった。

東屋大吉　いい加減、嫌になってくるぜ…抜いても抜いても、どんどん生えてきやがる。
（東屋が、愚痴をこぼしながら、ため息をつく）

六井太　僕ら二人だけじゃ、とてもじゃないけど追いつかないよ。

ナレータ　ずんぐりむっくりの六井が、全身から汗を滝のようにかきながら、そうぼやいた。

東屋大吉　あの一件以来、みんな辞めちまったからな。野球部を…

六井太　でも、例の問題を起こした上級生たちは、まだ居座っているけどね…
（二人が、二年生らがたむろしている部室を見る）

東屋大吉　少しは手伝えっつうんだ。どうせ、部室で麻雀しているか、エロビデオでも見ているだけなんだろうからな！
（東屋の表情が、次第に厳しくなる）

東屋大吉　野球部がこんな状態になったのは、全部あいつらのせいだ。あいつらが、暴力事件さえを起こさなかったら…
（そう、声を詰まらせ、二人は大きく項垂れる）

ナレータ　二人が項垂れるのも無理はない。彼らの先輩にあたる二年生らが他校との暴力事件を起こしたことから、その処分として一年間の公式戦への出場停止と一切の交流試合の停止となったからだ。その影響で、絶望した三年生たちは夏を迎える間もなく引退し、同学年の仲間たちも、また野球部を去ってしまったのだった。だが、暴力事件を起こした張本人である彼らは、その野球部に居座り、練習もロクにすることなく、ゆすりやたかり等の悪行を繰り返し、残った一年生の二人組を奴隷のごとくコキ使って、思うがままの日々を送っていたのであった…

六井太　もう、終わったことだ。仕方がないさ…
（六井は、こみ上がる怒りを押し殺しながら、そう吐き捨てる）

東屋大吉　しかし、いつまでもこんなことをやっていても埒が明かないってもんだ。野球の練習をしようぜ、野球の…

六井太　そうは言っても、僕たち二人じゃな…それに、上級生たちは、まったくやる気がないし…

東屋大吉　完全に野球を舐めてやがる…あいつらは！
（東屋は、むしった草を地面に思い切りたたきつける）

東屋大吉　こんな状態じゃ、処分が解かれても、他校とまともに試合なんかできないぜ。野球部として、まったく機能してないじゃないか…この部は！

六井太　あいつらが居座っている限り、この部はどうしようないな…
（二人は、互いに目を合わせる）

東屋大吉　どうやら…この野球部を立て直すには、まず最初にあいつらを追い出さないといけないようだぜ。

六井太　しかし、どうやって、追い出す気だ？

東屋大吉　そうだな…暴力に訴えても、余計に野球部の印象が悪くなるだけだからな…まあ、それ以前に、たった二人じゃ、勝ち目はないぜ。
（東屋は、腕組みして考えを脳裏に巡らせる）

六井太　だったら、野球の試合で決着つけると言うのは、どうだ？

東屋大吉　おいおい…こっちの人数は、たった二人だぞ。試合にすらならないぜ。
（東屋は、その提案にあきれる）

六井太　今の状況で、野球部へ入部しようと考える奴は、誰一人いないからどうすることもできないが、来年になれば新入生が入って来る…

東屋大吉	そうか…なるほど！
	（東屋は、それは名案だと言わんばかりに相づちをつくが、何を思ったのか、すぐにげんなりする）
東屋大吉	でも、来年になるまで、こんな生活を続けないといけないのか。とほほ…
六井太	仕方ないだろ…それ以外に、方法が思いつかないんだから…
東屋大吉	確かにそうだな…
	（東屋は、気持ちを改めると、急に立ち上がる）
東屋大吉	よし…野球部再興のためだ。俺は、どんな困難にも負けず、耐えて耐えて耐え抜いてやるぜ！
六井太	うん…がんばろうな…東屋くん！
ナレータ	こうして、二人は心の中に志を刻み、野球部の再興を誓ったのだった…

その２

ナレータ　　そして、二人が待ち望んでいた来年の春が訪れたのであった…
東屋大吉　　ついに、待ちに待った日が来たぜ！
（二人は、喜び勇みながら教室を出る）
六井太　　しかし、ほんとにつらかったよな…あの上級生らの絶え間ないいじめの日々を思うと…
（走りながら彼らは、感傷的になる）
六井太　　だが、それもこれまでだ！
（その言葉に、二人は笑顔を取り戻す）
東屋大吉　　そうだ…これからが、ほんとの新生野球部の始まりだぜ！
ナレータ　　二人は猛ダッシュで校舎を後にし、グランドに踊り出た…と、その時、野球部の部室の前に立つ入部希望者らしき姿を見て、目が点になって固まった。
東屋大吉　　ひ、一人…一人しかいないぞ…
六井太　　マ、マジで…
（絶句している二人に気付いた新入生が近づく）
赤平哲平　　赤平哲平（あかひら　てっぺい）と言います。宜しく、お願いします。
（赤平は、元気よく名を名乗る）
東屋大吉　　こちらこそ、よろしくな…赤平くん。
（東屋は、赤平と握手を交わす）
六井太　　しかし、たった一人か…やはり、あの暴力事件が、未だに尾を引いているんだろうな…
（六井が、ため息をつく）
東屋大吉　　仕方がないさ…それでも、入部をしてくれる奴がいてくれたんだ。感謝感激ってもんだろう。
六井太　　でも、これじゃあ、あの上級生らをぎゃふんと言わすことができないよ…
東屋大吉　　もう、いいさ…そんなことは…どっちにしても、奴らは今年で引退だから、来年がある。
（東屋が、親指を立てて片目をつぶる）
六井太　　来年か…また、気が長い話になってきた…
東屋大吉　　おいおい…まさか、ここまで来て辞めるなんて言う気じゃないだろうな。
六井太　　そうじゃないけど、何だか腑に落ちないよ…
（六井は、げんなりする）
赤平哲平　　何だか、込み入った話になってきましたね…でも、僕が知っている限りでは、今年の一年生の中に野球経験者が、まだ他にもいたと思いますよ。彼らを説得したらどうなんですか？
東屋大吉　　いや、だめだろう…結局、この野球部には人気がないから、やっては来ないさ。そんなことを言ったら、俺たちの同学年の連中だって、似たようなものだしな…
六井太　　しかし、そんなことを言っていたら、きりがないと思うよ。一年も棒に振ったんだ。やるだけやってみようよ。
（東屋が、顎をしゃくりながら、そっぽを向くと、部室の窓周辺を見て何かに気付く）
東屋大吉　　あれ…こんなところに、貼り紙が？
（東屋の声に、六井と赤平は反応する）
東屋大吉　　悪の限りを尽くす腐れ野球部に、天誅を下す…なんだこりゃ？
ナレータ　　と、その時、あらぬ方向から部室の窓に向かって、野球ボールが飛んできたのであった…
東屋大吉　　あ、危ない…伏せろ！
（東屋の一声で、六井たちは、すぐさま地に伏せる…そして、その飛んできたボールは、見事に部室の窓に命中し、ガラスの破片が辺りに飛び散る）
東屋大吉　　なんなんだ。一体…
ナレータ　　東屋は、ボールの飛んで来た方向に目を向けた…すると、遠くの方で一人の男がバットを肩にかけて立っていたのだった…

東屋大吉　まさか、あんな離れたところから、ノックして来たのか…
（東屋が、自分の目を疑っていると、部室の中から上級生たちが、どっと出てくる）
上級生Ａ　どこのどいつだ。この俺様たちに、喧嘩を売ってきた野郎は！
（上級生が、キョロキョロと辺りを見渡す）
不破光一　ははは…どこを見ている。こっちだ、こっち！
（不破が、上級生を挑発する）
上級生Ｂ　てめえか…！
（上級生たちの怒りが頂点に達っする…）
不破光一　野球部に、はびこる外道どもが…思い知ったか！
上級生Ｃ　ぬう…言わせておけば！
（上級生たちが、一丸となってバットを持った男に向かっていく）
不破光一　そう簡単に捕まってたまるかよ…
（バットを持った男は、それを見るやいなや走って逃げ出す）
上級生Ｄ　追え…絶対に逃がすな！
（部室は、もぬけの殻となり、東屋たちだけが、取り残される）
東屋大吉　あんな遠くから、この窓を狙ってノックして来たのか…すごい、バッティングコントロールだぜ…
ナレータ　その男の類まれなるバッティングセンスに、東屋は、ただただ呆然とさせられたのであった…

その３

ナレータ　東屋は、六井と赤平の説得により、新入部員獲得のため動く決意を固めたのだった…

六井太　赤平の話だと、元野球経験者は全部で五人いるそうだ。一人目は、猿渡匠（さるわたり　たくみ）と言う男で、攻守ともに優れた奴で、プロを目指していたこともあったようだ。二人目は、馬万里蛮（ばばんり　ばん）。とても器用な男で、すべてのポジションをやっていたことがあるらしい。三人目は、満場健（まんば　けん）で、失明をしている訳でもないのに何故か眼帯をしているが、カンが鋭くピッチャーの投げる球種をほぼ読み当てることができるそうだ。四人目は、平間浩（ひらま　ひろし）。お調子者で、三振が多いのが玉に瑕だが、勝負強さには定評があるらしい。五人目は、細井丞（ほそい　すすむ）と言う俊足の持ち主で、盗塁をさせたらピカイチとのことだ。しかし、彼は陸上部に入ったって話だから、説得するのは容易でないかもしれないな…

東屋大吉　そして、この前、野球部の窓ガラスにボールを打ち込んだ謎の男…全員揃えば、九人になるな…

六井太　その男については、赤平からの情報はないが…

東屋大吉　関係ないさ…あれだけのバッティングコントロールがあれば、申し分はないってもんだぜ。
（東屋が、にんまりする）

東屋大吉　しかし、面白くなってきたな。なんだか、凄そうなメンツじゃないか…こりゃあ、本当に上級生らをやっつけて、野球部を復活できそうだぜ！

六井太　復活できそうだぜじゃないだろ…復活させるんだろ！

東屋大吉　おっと…そうだったな…
（その指摘に、東屋は頭をかく）

六井太　しかし、遅いな…赤平の奴。待ち合わせの時間は、とっくに過ぎているんだけどな…

東屋大吉　ああ、そうだな…多分、例の細井って奴と油売っているのかもな…

六井太　はあ…それは、どう言う話だ？

東屋大吉　あれ、知らないのか…赤平の奴、一人で細井を説得するって言っていたぞ。仲が良いらしいからな…
（六井が、ぎょっとする）

六井太　なんだって…よりによって、細井の説得に、あいつ一人で行ったのかよ！

東屋大吉　クラスメートでもあるから、俺に任せろと言っていたぜ。

六井太　それは、やばいって…変にこじれちゃったらどうするんだよ！
（と、その時、東屋らの目の前に、赤平と共にひょろんと背の高い男が仲良く現れる）

六井太　あ、あれ、赤平…それに？

赤平哲平　先輩、細井を説得して来ましたよ。

六井太　ええっ…最も説得が困難と思われた奴を、そんなあっさりと！
（口をパクパクさせ、硬直する六井をよそに、細井はにっこり笑う）

細井丞　はじめまして、細井丞です。赤平の話に心を動かされましたので、陸上部を辞めて野球部に入る決心をしました…今後とも、宜しくお願いします！
（東屋が、笑顔を見せる）

東屋大吉　こちらこそ宜しくな…細井！

細井丞　ええ…力を合わせて、部の再興をしましょう！
（東屋と細井が、がっちりと握手する）

東屋大吉　よし、この調子で残りの奴らも全員、野球部へ入れてやるぜ！

ナレータ　赤平のファインプレーにより、幸先の良いスタートを切る事のできた東屋たちであった…

その４

ナレータ	幸先よく細井をメンツに加えた東屋たちは、意気揚々と猿渡のいるクラスに乗り込んだ。
赤平哲平	おーい…猿渡…！
	（猿渡匠が、その声に気がついて振り向く）
猿渡匠	おお、赤平じゃないか。どうかしたのか…それに、横にいる人たちは？
赤平哲平	野球部の東屋さんと六井さんだ。
猿渡匠	や、野球部…
	（猿渡匠は、眉をひそめる）
東屋大吉	野球部の東屋だ。猿渡くん、ちょっと話がある…
猿渡匠	…
ナレータ	東屋は、猿渡に自らの意気込みを話した。
猿渡匠	あの野球部を変える…本気っスか？
東屋大吉	ああ、そうだ…俺たちは、大きな志をもって、野球部を再興することに決めたんだ…ここは一つ、騙されたと思って力を貸してくれないか…猿渡くん。
	（猿渡は、躊躇する）
猿渡匠	誘ってくれてうれしいっスけど…やっぱ、辞めておきます。
六井太	なんで？
	（六井が、猿渡に迫る）
猿渡匠	俺は、もう野球をやらないって決めたんです…
細井丞	それは、一体どう言うことだ。
	（猿渡は、静かに天を仰ぐ）
猿渡匠	前から思ってたんスよ、俺の力じゃ、プロ野球には通用しないって…それに、もう高校生だし、現実を見ないといけないなって思っていたところだったんスよ…
細井丞	おい、おい…マジかよ。それは…
猿渡匠	もう、忘れたいんスよ…終わりにしたいんスよ、野球を…
赤平哲平	猿渡…お前…
	（辺りは、シーンと静まり返る）
六井太	本当に…本当に野球を諦める気なのか！
猿渡匠	いいんスよ…所詮は、夢だったんです。プロへの道は、そんな甘いもんじゃないからな…
	（と、その時、急に東屋が激しい剣幕となった）
東屋大吉	逃げているんじゃねえよ。お前！
猿渡匠	何んだと！
	（猿渡が、むっとする）
東屋大吉	結局、お前は逃げているだけじゃないか。勝手に、マイナス思考になりやがって！
猿渡匠	け…喧嘩売っているのか…。てめえっ！
	（猿渡が、東屋に食ってかかる）
東屋大吉	俺はよう…先輩らのおかげで、今まで野球をやりたくても、やれなかったんだ。それに引き換え、お前は、今の今まで何の束縛も無く野球をやれていたんだぜ…それを、見す見す自分から放棄しやがるなんて、野球を馬鹿にするんじゃねえよ！
猿渡匠	プロに行けなかったら意味が無いんだよ…だったら、もっと楽な道を選んだ方が賢いだろうが！
東屋大吉	お前の考えは、本当に甘いな…野球だろうが何だろうが、どんなことでもプロの世界は厳しいのさ。そんな半端な気持ちじゃ、何をやっても成功しやしないって言いたいんだよ！
猿渡匠	ぬうっ…
	（猿渡は、言葉を詰まらせる）
東屋大吉	諦めんなよ、猿渡…中途半端な生き方ばかりしてちゃ、男がすたるってもんだぜ。夢に向かって、突

っ走ってきた野球なんだろ！

猿渡匠　…

（猿渡は、沈黙する）

六井太　ごめんな、猿渡…ぎゃあぎゃあ言うが、お前のためを思って、こいつは言っているんだ。堪忍してくれよ。

（と、その時、猿渡は、顔を起こして東屋をじっと見る）

猿渡匠　東屋さん、ありがとうございます…俺、なんだか目が覚めましたよ。

（猿渡が、大きく息を吸って吐き出す）

猿渡匠　俺を野球部に入れて下さい…今まで、散々やって来た野球を捨てるなんて勿体無いっスからね。それに何だか、もう一度野球に賭けてみたくなったっスよ。お願いします、先輩！

東屋大吉　おお、これからも共にがんばろうぜ！

ナレータ　こうして、東屋たちは、猿渡の獲得に成功したのであった…

その５

ナレータ　猿渡を仲間にした東屋たちは、とあるパン工場に訪れていた。そして、受付の方に、快く応対してもらうと、応接室に通されたのだった…

工場長　よく、おいでになられた…まあ、そこへかけてください…

（工場長が、丁寧に挨拶する）

東屋大吉　突然、押しかけてすみません…うちの高校の人間が、ここでバイトしているって聞いたもので…

工場長　馬万里くんには、伝えているよ。もう少ししたら、やって来ることだろう。

東屋大吉　はい。お世話になります…

（数分後、馬万里が姿を現す）

馬万里蛮　よう、猿渡じゃないか…おっと、俺がバイトしていることは、くれぐれも先生には、黙っていてくれよ。

猿渡匠　大丈夫…ちくりゃ、しねえさ。

（猿渡が、小さく笑う）

馬万里蛮　それよりも、どうしたんだ。こんなところまで…

猿渡匠　まあな…ちょっと、お前に話があるんだ。

（馬万里が、怪訝そうな顔をする）

猿渡匠　俺は、東屋さんに説得されて野球部に入ることにしたんだ。

（猿渡が、東屋を紹介する）

東屋大吉　野球部の東屋だ。よろしく…

馬万里蛮　ええ…こちらこそ…

（馬万里が、少しおどけた様子で挨拶する）

東屋大吉　早速で悪いんだけど、うちの野球部に入ってくれないか？

（馬万里が、きょとんとする）

東屋大吉　俺は、昨年の汚名を晴らすために野球部を立て直すことにした…だが、そのためには、お前の力が必要なんだ。

馬万里蛮　誘ってくれるのはうれしいが…俺はこの通り、パン工場でバイトを始めた身だ。将来は、この工場に勤めようと思っているしな…

東屋大吉　そこを何とか、考え直してくれないか…

馬万里蛮　いや…それは、できないよ…パン屋になるのが、俺の夢でもあるしな…

（辺りは、シーンと静まり返る）

工場長　馬万里くん。確か、君は野球をやっていたんだっけな…だったら、もっと野球を続けた方がいいんじゃないのか？

馬万里蛮　しかし、工場長…

工場長　君が、パンに興味をもって、懸命に働いてくれることは、とても光栄に思っているよ。しかし、君はまだ高校生だ…もっと、たくさんの友だちと共に心を分かち合いながら、学業に、スポーツに打ち込んだ方が、お前のためになると思うぞ。

（馬万里は、沈黙する）

工場長　パン工場で働きたければ、いつでも来なさい…君ならば、こちらも喜んで受け入れるよ。

馬万里蛮　工場長…

（馬万里が、うつむいていた顔を持ちあげる）

馬万里蛮　俺は…野球じゃ飯は食えないと思って、以前から興味のあったパン作りをしようと思いました。でも、本当は、野球がしたいです…

（馬万里が、東屋に向き直る）

馬万里蛮　東屋さん…俺にもう一度、野球をやらせてください。

東屋大吉　よく、わかったぜ…

（二人は、がっちりと握手する）

工場長	ははは…めでたし、めでたしだな。わしも陰ながら、お前らのことを応援するから、がんばれよ！
東屋大吉	ありがとうございます…工場長。
ナレータ	こうして、また一人、心強い仲間が加わったのであった…

その６

ナレータ　　その頃、満場健と平間浩の二人は、とある繁華街のパーラーでパチンコに興じていた…
満場健　　よし、来た来た来た…花びら大全開！
平間浩　　くそ、またそっちが来やがったか！
満場健　　ははは、見たかこの眼力を…この台は、絶対大当たりするってピンと来ていたんだ。よし、この調子で打ち止めにしてやるぜ！
平間浩　　けっ…クソが。まだ、こっちだってわかんねえっつうの！
満場健　　無駄だぜ…お前には才能がねえっつうの！
平間浩　　なめてんじゃねえぞ、てめえっ…ええい、このクソ台が。とっとと、かかりやがれっ！
ナレータ　　二人が夢中になっているのを目撃した東屋たちは、ズカズカと彼らに近づいていった。
満場健　　おう、馬万里じゃねえか…それに、知らないメンツも含めてお揃いって、どう言う風の吹き回しだ。まさか、梁山泊みてえに、チームでも作ったのか？
馬万里蛮　　相変わらずだな、二人とも…
（馬万里が、苦笑いする）
東屋大吉　　実は、お前らの力を借りたいと思っているのさ。
満場健　　俺たちの力？
（東屋は、満場と平間に事情を説明する）
満場健　　はあっ？
平間浩　　マジで！
（二人は、互いに顔を見合わせる）
猿渡匠　　ああ、大マジなんだよ…俺たちは、決起することにしたんだ。
平間浩　　おいおい…猿渡まで、どうしてしまったんだ。
猿渡匠　　目が覚めたんだよ。俺は、自分の可能性を確かめたくなったんだ。
（再び二人は、互いに顔を見合わせる）
満場健　　けっ…馬鹿馬鹿しい。
平間浩　　そうそう…俺も馬鹿だが、お前はもっと馬鹿だ！
満場健　　それ、意味わかんねえって…お前！
（満場は、高笑いする）
馬万里蛮　　とにかく、力を貸してくれよ…人数が足らないんだから頼むよ。
満場健　　うぜえよ…俺達は、そんな事している暇は無いんだ！
猿渡匠　　パチンコやっているだけのくせに、そんなセリフが言えるのかよ…
満場健　　馬鹿野郎…俺たちは、ギャンブルに人生を賭けているんだ。その内、億万長者になって、有意義な生活をエンジョイするのさ。さあ、わかったんだったら、とっとと失せろ！
（東屋が、ため息をつく）
東屋大吉　　可哀相な奴らだぜ。
平間浩　　な、なんだお前は！
（平間が激昂する）
東屋大吉　　ギャンブルで儲かったなんて話は、聞いた事は無いぜ。
満場健　　ふざけんな、お前に何がわかるってんだ…俺は、俺の人生を歩んでいるだけだ。別に俺が死のうが生きようが、お前には関係ないだろうが！
東屋大吉　　命を軽んじるんじゃねぞ…確かに、お前らが死のうが生きようが勝手な話だ。だが、つまらん人生を送ってつまらん死に方して、それで本当に満足できるのかよ！
平間浩　　うるせえよ。一々、説教するんじゃねえ！
東屋大吉　　ギャンブルで生きる…そりゃ大いに結構な事だ。だが、その前にお前らには真剣にその道で大業を成す意思が、これっぽちも見えて来ねえんだよ！

満場健　　何っ！
東屋大吉　　軽々しく死ぬなんて言葉を吐くんじゃねえ…今のお前らには、似合ってねんだよ。その言葉が！
平間浩　　ぬうっ…
（二人は、言葉を詰まらせる）
馬万里蛮　　お二人さんよう…俺たちは、大義とプライドを賭けて体張っているんだ。まあ、そう言う点では、覚悟の仕方が違うってことだな…
平間浩　　大義とプライド…そして、覚悟…
（少しの間、二人は無言となるが、互いに見合わせてからそっぽを向くと、毒づき始める）
満場健　　けっ…えらそうに説教しやがって、何様のつもりだっつうの！
平間浩　　まったくだぜ…完全に、やる気が失せちまったじゃねえか！
（二人は、東屋に向き直る）
満場健　　確かによう…覚悟が足りなかったかもしれねえな、俺達はな…
平間浩　　ああ、そうだな…俺も覚悟は足りないが、お前はそれ以上だな…
満場健　　お前は、本当に言っている意味がわかんねえよ…ったく…
（満場が、大きくため息をつく）
満場健　　実際のところ、俺たちは、その場しのぎをしていたに過ぎなかったんだな…
東屋大吉　　満場、平間…
満場健　　おい、このお節介野郎が…俺たちにも、その計画に混ぜろよ！
平間浩　　おうよ…お前に、俺の熱いソウルを見せてやるぜ！
ナレータ　　こうして、新たに満場と平間が仲間になったのであった…

その７

ナレータ　翌日、東屋たちは、部室の窓をノックで狙撃した男の行方を追っていた…
東屋大吉　ようやく、見つけたぜ…
（東屋たちが、その男に接近する）
不破光一　なんだ？
（不破が、不快そうなツラで、東屋たちを見つめる）
東屋大吉　俺は、野球部の東屋って言うものだ…お前に、話がある。
不破光一　ふっ…どうせ、俺を仲間に引き入れようって魂胆だろ…
東屋大吉　なぜ、それを…
（その答えに、東屋は驚く）
不破光一　折角なんで、自己紹介させてもらうぜ…俺の名は、不破光一（ふわ　こういち）。昨日からのお前らの行動は、陰から見させてもらった…
東屋大吉　そうか…ならば…
不破光一　だが、俺は、実力の無い奴らとつるむ気はないんでね…お前らの実力がどれほどか見せてもらえるか。
（東屋が、ニヤリと笑う）
東屋大吉　いいだろう…
ナレータ　東屋たちは、ゾロゾロと群れを成しながら、グランドへと向かった…

ナレータ　グランドに到着するやいなや不破は、こう口火を切った。
不破光一　ルールは簡単だ…お前が投げて、俺が打つ。 俺を三振させれば、お前の勝ちだ。
だが、俺が打ち返したら、俺の勝ちだぜ…いいな！
（不破が、おもむろにバットを構える）
東屋大吉　わかったぜ。おい、むっちぃー（六井の通称）…キャッチャーをやってくれ！
（六井が、心配そうに近寄る）
六井太　おい、大丈夫なのかよ…大体、お前はピッチャーじゃなかったんだろう。ちゃんと投げられるのかよ…
東屋大吉　まあ、任せておきな…それに、こんなところでパカスカ打たれたんじゃ、到底上級生らには、勝てないしよ…
（東屋が、小さく笑う）
不破光一　来い！
東屋大吉　じゃあ、行くぜ…
ナレータ　東屋は大きく振りかぶり、第一球目を投げた…と、思ったその瞬間、ボールは六井のミットの中へえぐり込んだのであった…
ズドーン！（六井がボールを受けた音）
ゴロゴロゴロ…（球の勢いに押されて六井が後ろへ転がる音）
不破光一　なっ…何っ！
（不破が、表情を引きつらせる）
猿渡匠　た…球が見えなかった…
（猿渡たちは、唖然とする）
六井太　うげえ、げほっげほっ…なんて、球を投げるんだ東屋くんは…凄すぎる…
東屋大吉　ずっと隠していて悪かったな、六井…まあ、これが俺の実力ってとこだぜ。それよりどうした、不破…なんだか、腰を抜かしているようだが…
不破光一　や、野郎！
（不破の表情が、厳しくなる）
ナレータ　東屋は、第二球目を投げた…

不破光一　　おのれ！
ナレータ　　不破は、渾身のスイングをしたが、むなしく空を切った…そして、六井は、再び吹っ飛ばされた…
馬万里蛮　　おおっ…すげえ。凄すぎるぜ、東屋さん！
六井太　　くう…効くなあ…。ちくしょう！
不破光一　　ば、ばかな…あ、有り得ん…
ナレータ　　不破は、全身から汗が吹き出る感覚を覚えた…そして、たったの三球で、あっさりと勝負はついたのであった。
不破光一　　まいったぜ…あんな速い球を見たのは、初めてだ…
（不破は、頭をかきながら東屋に近寄る）
不破光一　　約束だ…これからも、宜しく頼むぜ！
東屋大吉　　おう…こちらこそ、よろしくな！
ナレータ　　こうして、先掛高校野球部の改革を志す九人の高校球児たちが、揃ったのであった…

その８

ナレータ　東屋たち九人の反乱分子は、強い決意と共に上級生が居座る野球部の部室に向かった…
上級生Ａ　なんだ…てめえら！
東屋大吉　今日は、お話があって参りました！
ナレータ　東屋たちは、部室に入るやいなや、連判状と果たし状を叩きつけた。
東屋大吉　俺たちは、先掛高校野球部の再興を果たすため、先輩らに反旗を翻します！
上級生Ｂ　なんだと！
六井太　先輩らは暴力事件を起こし、野球部を一年間の出場停止処分に追い込みました。その結果、当時の三年生や他の志ある者は部を去って行きました。しかし、先輩らはその当事者でありながら、責任を取るどころか悪行をエスカレートさせて、野球部を崩壊へと導きました。
東屋大吉　これでは、全く合点がいきません！
（そう言って、東屋は上級生を睨みつける）
東屋大吉　そこで、我々は先輩らとの試合を望みます。どちらか負けた方が、野球部を去ると言う条件で決着を付けたいと思います！
（東屋たちは、そう言って頭を下げる）
上級生Ｃ　何を舐めたこと抜かしとんじゃ。貴様ら、自分で何を言っているのか、わかっとるのか！
不破光一　俺達との試合に逃げる気か…意外と根性ねえんだな、先輩たちよう！
上級生Ｄ　ふざけやがって…そこを動くな！
（と、その時、ふいに主将が立ち上がる）
主将　うろたえるな、バカタレらが…見っとも無い真似をするな！
（主将は、怒号を発すると共に周囲を睨みつける）
主将　いいだろう…売られた喧嘩は、買ってやるのが相場だからな。
六井太　ほ、本当ですか？
主将　ただし、条件は少し変えるぞ。俺たちが勝った時は、貴様らはとことん奴隷となってもらうからな…覚悟しておけよ。
赤平哲平　ええっ！
主将　なんだ…怖気づいたのか、ガキ供…
（ここで、ふいに平間浩がキレる）
平間浩　けっ…上等だ、ボケ…そんぐれえの条件、余裕で飲んでやんよ！
細井丞　ちょっと…何を言っているんですか！
（主将が高笑いする）
主将　よし、決まりだな。試合は一週間後…場所は、このグランドだ。文句は、ないな！
東屋大吉　こちらこそ、お願いしますよ…先輩。
（東屋たちは、そう約束すると、颯爽と部室を後にする）
主将　くっくっく…飛んで火にいる夏の虫とは、まさにこの事だ。俺たちと貴様らでは格が違うってことを、死ぬほど見せてやるぜ…わはははは！
ナレータ　東屋たちが部室を去った後、上級生たちの嘲り笑い声が響いたのであった…
六井太　本当に大丈夫か…上級生らの奴、相当自信がありそうだったぞ。
東屋大吉　ここまで来たら、後には引けねえよ！
平間浩　そうだ…その通りだ！
満場健　あのなあ、お前ら…勝手に上級生らの条件を飲むんじゃねえよ。もし、負けたらどうしてくれるんだ…この馬鹿！
平間浩　何いっ！
馬万里蛮　おいおい…喧嘩している場合じゃねえだろ。
（馬万里が、二人の間に入って仲裁する）

猿渡匠　負けねえよ…あんな連中に、負けてたまるかよ！

東屋大吉　そうだ、その意気だぜ…こんなところで負けていて、野球部を復活できるかよ。俺たちの力で再興するんだ…この先掛高校野球部を！

（その言葉に、六井は心を動かされる）

六井太　うん…がんばろう。東屋くん、そしてみんな！

東屋大吉　よっしゃ…いくぞ、新生先掛高校野球部。ファイト、オー！

全員　おおっー！

ナレータ　東屋たちは、大きな掛け声と共に、夕日に向かって駆け出して行ったのであった…

その９

ナレータ　　こうして、東屋たちは、念願であった上級生たちとの一戦にこぎ着けたのだが、彼らを取り巻く周囲の状況は、日を増すごとに深刻なものへとなっていたのだった…
（場面は、先掛高校の校長室）

校長　　本当に野球部の連中はなっとらん。過去の暴力事件に対する反省が、全くない！
（校長が、野球部に対して憤慨する）

教頭　　彼らの素行は増々酷くなる一方です。他の生徒に対して暴力をふるったり、ゆすりやたかり、その果てには万引きまでしたりと、ちょくちょく耳にしますからな…
（教頭が、最近の野球部上級生たちの罪状を並べる）

校長　　PTAや周囲の住民の皆さまからのクレームが、後を絶たない状況だ…もはや、野球部を廃部にするしか方法があるまい…
（校長は、その場に居合わせていた一人の生徒に目を向ける）

校長　　お前は、どう思う…ミチルよ…

ナレータ　　この出鬼杉ミチル（できすぎ　みちる）と名乗る生徒は、校長の息子であり、今の生徒会長を務める優秀な若者であった。

出鬼杉ミチル　　お父様の言う通りだと思います…これ以上、当校に傷がつきますと学校の存続自体も危ういものとなりましょう…処分するしかありません。

校長　　うむ…よく言ってくれた。さすが、わしの息子だ。

ナレータ　　こうして、学校の方針は、本格的に野球部を廃部にする動きとなってしまったのであった…

ナレータ　　その頃、東屋は教室に仲間を集め、ポジションと打順のオーダーを黒板に記しながら発表していた…
１番・ショート　馬万里蛮
２番・セカンド　猿渡匠
３番・レフト、不破光一
４番・ピッチャー、東屋大吉
５番・キャッチャー、六井太
６番・サード、満場健
７番・ファースト、平間浩
８番・ライト、細井丞
９番・センター、赤平哲平

東屋大吉　　細井は足が速いけどバッティングが悪いから、１番バッターは馬万里を起用することにした。細井はライトに入って、その足を生かした守備をしてもらうよ…２番は、攻守共にテクニシャンの猿渡に任せる。３番は、バッティングコントロール抜群の不破で、４番が、とりあえず俺…怪力のむっちぃーが５番で、俺のボールを受けてくれ。６番はカンの冴える満場で、サードのきつい打球へのカンにも十分働かせてくれよ…７番は一発屋の平間で、お前の勝負強さを期待する。８番は、細井…そして、９番がいぶし銀の赤平だ。当日は、このオーダーで行くつもりだ！

平間浩　　けっ…何んでお前が勝手に仕切っているんだよ…

満場健　　まったくだぜ…

ナレータ　　平間と満場は、すかさず毒づいた…そして、それは全員が思ったことであった。だが、誰一人として反対しなかったのである…理由はわからないが、東屋を中心に据えると期待が持て、なんとなく纏まってしまうからだった…と、ふいに、出鬼杉が教室に入ってきた。

出鬼杉ミチル　　部室がもぬけの殻なので、どこへ行ったのかと思えば、ここに居たのか。上級生どもは、居ないようだが…

ナレータ　　出鬼杉は、そう吐き捨てると、東屋をきっと見据えた…

その１０

ナレータ　出鬼杉は、部室にて野球部員たちにある通達をしようとしたのだが、その日に限って、上級生たちは外へ遊びに出ていたため、彼らに会うことができず、いらいらしていたのであった…

東屋大吉　何の用だ？

出鬼杉ミチル　まあ、いい…まずは、お前たちに話すとしようか。

ナレータ　出鬼杉は、校長室で決まった学校の方針を東屋たちに伝えた…

東屋大吉　は、廃部だと！
（東屋たちは、思わず仰天する…）

出鬼杉ミチル　学校側としては、野球部の存続はもはや不可能と判断した…覚悟を決めるんだな…

東屋大吉　ちょっと待てくれよ…俺たちは、野球部の再興と言う志を胸に、ここまでやってきたんだぜ。本当にこれから何だよ、野球部が変わるのは！

出鬼杉ミチル　女々しいぞ。決まったことに対して、あれこれとうだうだぬかすな…とにかく、さっさと荷物をまとめて、すぐに出て行く準備でもするんだな！
（出鬼杉が、教室を去ろうとする）

東屋大吉　お前は、それでいいのかよ…

出鬼杉ミチル　どういう意味だ…

東屋大吉　お前は、俺たちと同じ元野球部員だろうが…上級生の専横が原因で、辞めていった部員の一人じゃないか…野球部が無くなって、それで本当に本望なのかよ…
（出鬼杉が、眉をひそめる）

出鬼杉ミチル　俺の野球人生は、もう終わったんだよ…あの暴力事件と共にな…
（出鬼杉は、振り返ることなく立ち去る）

赤平哲平　東屋さん…あの人は、一体…

東屋大吉　そうか…お前たちが、知らないのは無理もないな…
（東屋は、大きくため息をつく）

東屋大吉　奴は元野球部で、中学生の時は、俺が通っていた中学校と別の学校だったが、その野球部のキャプテンとして、全国大会で優勝へと導いた名キャッチャーでもあるんだぜ…
（その話を聞いて、新入生たちが騒然となる）

猿渡匠　そ、そんな凄い奴だったのか…

平間浩　なるほど…あのフケ顔は、伊達じゃないってことか…

馬万里蛮　がはは…それは、俺も一瞬だけ、思ったぜ。あのフケ顔は、高校生じゃありえないっつうの！

不破光一　そんな風に言えたツラはしてないだろ…無精ひげヅラに、福笑いヅラのお前らが！？
（不破が、思わずつっこみを入れる）

六井太　しかし、困ったことになったぞ…まさか、廃部なんて…

細井丞　そうですね…これでは、上級生たちと勝負をしている場合じゃありませんよ。

東屋大吉　とにかく、こんな話に折れたらダメだ…抗議しようぜ！

満場健　賛成だ…俺たちの正当性を、存分に訴えてやろうぜ！

不破光一　一番素行の悪い、お前が言うなよ…この極悪人が！？
（不破が、再びつっこみを入れる。すると、新入生たちは、にわかにもめ始める）

東屋大吉　よし…明日にでも、抗議しに行くぞ…って、お前ら喧嘩するな！
（状況が急変したことを察知した東屋が、ふいに声を荒げる）

馬万里蛮　誰が、福笑いじゃボケ！

平間浩　無精ひげは、男らしいだろうが…てめえ！

満場健　極悪人で悪かったな…クソが！

不破光一　うるせえ…てめえら、まとめて俺の打球の餌食にしてやるぜ！
（その光景を、東屋と六井は唖然としながら見守る）

六井太　　　　　こりゃあ、先が思いやられるな…
ナレータ　　　　その様子を見て、東屋と六井は、ため息をつきながら、大きく項垂れたのだった…

その１１

ナレータ　その夜のこと…出鬼杉は、家に帰るやいなやベッドに横になった…
出鬼杉ミチル　ふっ…元野球部員か…
（出鬼杉が、小さく笑う）
出鬼杉ミチル　親父は校長で、俺は生徒会長だ…もはや、昔とは状況が違うんだ。俺は、もう野球を捨てないといけない人間となったのだ…
（出鬼杉が、じっと天井を見つめる）
出鬼杉ミチル　しかし、あの事件さえなければな…
ナレータ　出鬼杉は、そう考えると無性にむなしさを感じた…
出鬼杉ミチル　俺は、一度は全国大会で優勝した男だ。未練が無いわけが無いだろうが…ほんとは、もっと野球がしたかったぜ…
（出鬼杉が、ため息をつく）
出鬼杉ミチル　奴らのことだ。このままでは、終わるまい…ならば、野球で解決するしかないかもしれん…俺自身が、野球と決別するためにも…
（出鬼杉が、むくっと起き上がる）
出鬼杉ミチル　親父の奴は、もう帰って来たかな？
ナレータ　出鬼杉ミチルは、そう言って、自分の部屋を出ていった…

ナレータ　次の日のこと…東屋率いる野球部軍団は、抗議をするために校長室へ向かおうとした…と、その時、目の前から出鬼杉ミチルが歩いて来た。
出鬼杉ミチル　やはり、来たか…
東屋大吉　そこをどけ…出鬼杉！
（東屋が横を通り抜けようとすると、それを出鬼杉ミチルが制する）
出鬼杉ミチル　待てよ…お前には、話がある…
東屋大吉　何っ？
（東屋が、眉をひそめる）
東屋大吉　話って、何だ？
出鬼杉ミチル　お前らに猶予を与えてやろうと思う…
東屋大吉　ほ、本当か…その話は…
（東屋が、すかさず出鬼杉の話に食いつく）
出鬼杉ミチル　ただし、条件がある…それは、俺が作った野球チームと勝負して、お前らが勝つことだ。負ければ、即廃部決定だがな…
（出鬼杉が、ニヤリと笑う）
六井太　出鬼杉の作った新チームと試合だと！
（六井は愕然とするが、東屋は目に闘志の炎を燃やす）
東屋大吉　わかった。どの道、その試合を断れば、即廃部にする気だろうからな…その勝負、受けて立つぜ！
平間浩　イエーイ…試合だ、試合だ。まさに、神のおぼしめしだぜ！
不破光一　お前は、少し黙っとれ！
出鬼杉ミチル　どうやら、決まりのようだな…試合は、３日後…グランドで行うことにしよう…
東屋大吉　いいぜ…俺たちの恐ろしさを、嫌になるほど味あわせてやるから覚悟しておきな！
（東屋たちは、そう言い残して出鬼杉ミチルから去る）
出鬼杉ミチル　ふっ…相変わらず、威勢のいい奴だ。
（と、その時、背後から出鬼杉に声をかける者が現れる）
J・ハワード　ははは…あいつらは、野球部を去った俺たちを相手に勝てるとでも思っているのかよ…実力の上では、俺

たちよりも劣っていたあいつらがよ…

ナレータ　　　在日アメリカ海軍の軍人を親父に持つプロレスラーのような体格をした金髪の白人Ｊ・ハワード（ジョニー　ハワード）は、大きく高笑いをした。

出鬼杉ミチル　しかし、お前が仲間に加わってくれたのは、ほんとに心強いぜ…頼りにしているぞ…

Ｊ・ハワード　任せておきな！

（ジョニーが、親指を立てる）

Ｊ・ハワード　しかし、俺たち野球部を退部したメンバだけじゃ、頭数が少々足りないが、その辺りはどうなっているんだ？

出鬼杉ミチル　心配はいらん…助っ人は、ちゃんと用意している…

（出鬼杉が、不敵な笑みを浮かべる）

出鬼杉ミチル　久しぶりの試合だな…心なしか、何だか燃えてきたぜ！

ナレータ　　　出鬼杉は、そう言うと、心に秘める闘志の炎を燃え上がらせたのであった。

その１２

ナレータ　　　そして、出鬼杉率いる反野球部連合との試合の日は訪れた…
東屋大吉　　　よし…締まっていこうぜ！
全員　　　　　えい、えい、おー！
ナレータ　　　東屋たちは、勇んでグランドへ向かった…すると、グランドには、たくさんの人が溢れかえっているではないか…
馬万里蛮　　　何なんだ…この凄い人だかりは？
平間浩　　　　おお…これはもしや、俺の勇姿を見に来たギャラリーたちか！
不破光一　　　お前、そんなに有名人だったっけ？
ナレータ　　　野球部存続を左右する決戦だと噂を聞きつけた野次馬どもは、興味半分、冷やかし半分で集まってきたのであった…と、その時、群衆の中から出鬼杉たちが、姿を現したのだった…
六井太　　　　むう…出鬼杉の奴。人数が足らないからと言って、他の体育会系の連中を集めてきたな…
猿渡匠　　　　確か、あの人がサッカー部で、あの人はバレー部…そして、ラグビー部にテニス部…
満場健　　　　おい、おい…中には、えらい爺さんが混じっているぞ…OBか何かかよ…
馬万里蛮　　　もしかして、あのクリクリ坊主は、中学生じゃないのか…
不破光一　　　ふっ…俺たちをバカにしやがって…散々な目に遭わせてやるぜ！
東屋大吉　　　よし…その意気だ！
（出鬼杉たちが、東屋たちに近寄る）
出鬼杉ミチル　覚悟は、いいな…お前ら！
J・ハワード　キル、ユー…OK？
（ジョニーが、東屋に対して、首をかき切るジェスチャーをする）
東屋大吉　　　上等だぜ！
ナレータ　　　東屋は、彼らの威嚇に怯むことなくファック・ユーをした…

ナレータ　　　１回の表、（攻撃）出鬼杉チームvs東屋チーム（守備）
（出鬼杉チームの１番バッターがバッターボックスに入ると、マウンド上から、東屋が周囲を見渡して声を張る）
東屋大吉　　　しまっていくぞ！
全員　　　　　おおー！
（仲間の声を受けながら、東屋はバッターに向き合う）
東屋大吉　　　いくぜ！
ナレータ　　　東屋は、大きく振りかぶって第一球目を投げた…すると、ボールは、目にも止まらぬ速さで、キャッチャーミットに突き刺さった…
主審　　　　　ストライーク！
ナレータ　　　それを見たギャラリーたちは、東屋の投球を見て、一斉に静まり返った…
出鬼杉ミチル　130km／時ぐらいと言ったところだな…なかなか、やるな…
J・ハワード　わははは…そうこなくっちゃな！
（ベンチでそれを見ていた出鬼杉とジョニーが、ニヤリと笑う）
ナレータ　　　こうして、１番バッターは、あえなく三球三振で終わったのだった…
出鬼杉ミチル　丸込…バットを短く持って、当てることに専念しろ…
丸込一彦　　　はい。先輩。
ナレータ　　　出鬼杉チームの２番バッターである丸込一彦（まるこめ　かずひこ）は、出鬼杉の指示通りにバットを短く持って、打席に立った…
東屋大吉　　　また、いやに小っこいクリクリ坊主だな…

（東屋が、怪訝そうな顔をする）

ナレータ　丸込は、現在中学三年生だが、攻・走・守が揃った選手だったため、今回の試合に助っ人として呼んでいたのであった…

東屋大吉　中坊なんかに、舐められてたまるか！

（東屋が、第一球目を投げる）

丸込一彦　くっ…

（丸込は、大きく振り遅れる）

主審　ストライーク！

丸込一彦　ダメだ…バットを短く持っても、まったく追いつかない…

（丸込が、ごくりと生唾を飲む）

ナレータ　そして、息を付く間もなく、東屋は第二球目を放った。その球に対し、丸込は、またしても空振りした。

丸込一彦　この人の速球は、別格だ…今の僕では、到底歯が立たない…

ナレータ　こうして、東屋は丸込に対してもあっさり三振を取り、瞬く間にツーアウトにしたのであった…

その１３

J・ハワード　やれやれ、しょうがねえな…
（ジョニーが、おもむろに立ち上がってバットを掴む）
J・ハワード　先輩が、お手本を見せてやるぜ！
（ジョニーが、白い歯を見せる）
東屋大吉　ジョニーか…久しぶりだな…
（東屋大吉が、小さく笑う）
東屋大吉　勝負だ！
（東屋が、第一球目を投げる）
主審　ストライーク！
J・ハワード　ふう…なかなか、やるな…
東屋大吉　おらあっ…さっきまでの元気は、どうした！
（東屋が、第二球目を投げる）
J・ハワード　球が速いだけじゃ、ピッチャーは勤まらないぜ！
（ボールが、バックネットへ突き刺さる）
主審　ファール…
出鬼杉ミチル　ジョニー…ホームラン製造機の異名が泣くぞ！
J・ハワード　けっ…わかっているさ…
（ジョニーが、ペッと唾を吐く）
東屋大吉　打てるものなら、打ってみやがれ！
（東屋が、第三球目を投げる）
J・ハワード　ゴー、トゥー、ヘヴン！
ナレータ　ジョニーは、そのボールをバットの芯でとらえた…すると、ボールは、空高く舞い上がり、場外へと導かれていったのであった…
審判　ホームラン…
東屋大吉　ちっ…やられた！
（東屋大吉が、悔しがる）
J・ハワード　どうだ…見たか、これが俺の実力だ！
（ジョニーが、東屋に対して、ファック・ユーをする）
六井太　なっ…なんて、ハイレベルな戦いだ…
（六井が、呆然と立ち尽くす）
出鬼杉ミチル　よし…続くぜ、ジョニー！
東屋大吉　むう…ミッチー（出鬼杉の通称）の出番か…
（東屋の表情が、険しくなる）
東屋大吉　くらえ、俺の渾身の一球を！
（東屋が、第一球目を投げる）
出鬼杉ミチル　ははは…甘いぜ、東屋！
ナレータ　出鬼杉は、そのボールを見事にとらえてはじき返した…そして、ボールは、ぐんぐんと飛距離を伸ばし、またしても場外へ消えていったのであった…
J・ハワード　やったぜ…連続ソロアーチだ！
丸込一彦　さすが、出鬼杉さんだ…バンザーイ！
東屋大吉　や、やられた…
（東屋が、マウンド上で項垂れる）
源五郎　がははは…じゃあ、この調子でトリプルソロアーチといこうかのう！
出鬼杉ミチル　期待していますよ。げんさん！

ナレータ　出鬼杉の声援を受けた源五郎（みなもと　ごろう）は、豪快に笑いながらマスコットバットを軽々と素振りをした…

不破光一　誰だ…あのおっさん？

（年齢層が急に上がったことに対して、不破が顔を引きつらせる）

出鬼杉ミチル　今年で還暦を迎える通称、げんさんの登場だ…げんさんは、この町内の八百屋さんだが、実は昔にノンプロで活躍をしたことがある経歴を持つ凄い人だ。悪名高き先掛高校野球部にお灸をすえるために、わざわざ来てくださったと言う訳だ…ありがたく、思いな！

（出鬼杉が、不敵な笑みを見せる）

源五郎　さあ、かかって来い…悪たれども！

東屋大吉　ぐっ…現役の俺が、じじいなんかに負けてたまるかよ！

（東屋が、大きく振りかぶる）

東屋大吉　これ以上、点は取らせないぜ！

ナレータ　東屋は、出鬼杉の挑発に乗ることなく、見事にげんさんを三球三振させたのであった…

源五郎　むう…してやられたか！

東屋大吉　よし…げんさんを押さえたぜ！

（東屋が、拳を作って喜ぶ）

源五郎　なかなか面白い、坊主だ…こりゃあ、来年の公式戦が楽しみになってきたわい…

ナレータ　げんさんは、この若き獅子に対して、顔のしわをくしゃくしゃにしながら笑い、今後の彼の活躍に期待したのだった…

その１４

ナレータ　１回の裏、（攻撃）東屋チームvs出鬼杉チーム（守備）
出鬼杉は、自身のポジションであるキャッチャーの立ち位置にたどり着くと、チームメイトに向き合って激励した。
出鬼杉ミチル　さあ、締まって行くぜ！
（出鬼杉の掛け声を受けたチームメイトたちが、一斉に声を大にする）
馬万里蛮　ピッチャーは、ハンドボール部か…ここは、野球部の意地にかけて、１発大きい奴をお見舞いしてやるぜ！
東屋大吉　頼んだぞ…馬万里！
（馬万里が、力強くバッターボックスに入る）
出鬼杉ミチル　軽く捻ってやろうぜ…
（出鬼杉が、ピッチャーにサインを出す）
ナレータ　出鬼杉チームのピッチャーは、躊躇することなく、第一球目を投げた…すると、ボールは、気持ち良くスピードに乗り、難なくキャッチャーミットに収まった…
主審　ストライーク！
馬万里蛮　なかなかやるな…
ナレータ　馬万里は、気を取り直して相手ピッチャーに立ち向かったが、うまくタイミングを取れないまま、三振したのだった…
猿渡匠　結構、あなどれないかもしれないな…
（猿渡が、静かに打席に入る）
出鬼杉ミチル　配球に関しては、俺に任せろ…お前は、リラックスして強気でどんどん投げて来い…
（出鬼杉が、不敵な笑みを浮かべる）
ナレータ　そして、相手ピッチャーの第一球目が、猿渡を襲う。
猿渡匠　くっ！
ナレータ　猿渡は、ボールをとらえたが、打ちあげてギャラリーの中へボールを放り込んでしまった…
主審　ファール…
猿渡匠　いやなところを、つきやがるぜ…
（猿渡が、思わず顔を歪ませる）
出鬼杉ミチル　ふっふっふ…
ナレータ　そして、猿渡に対しても三振させ、早くもツーアウトにしたのであった…
不破光一　どうなっているんだ…そんな、打てない球でもあるまい…
（不破が疑心暗鬼になりながら、打席に入る）
出鬼杉ミチル　不破か…確か、こいつの弱点は…
（出鬼杉ミチルが、冷静にサインを出す）
ナレータ　相手ピッチャーは、指示通りに第一球目を投げた…。
不破光一　うおっ！
（不破光一が、大きく空振りする）
不破光一　くそ…俺の苦手なコースをつきやがって！
（不破が、そう言ってバットを構え直す）
出鬼杉ミチル　さあ、三者三振といこうか！
ナレータ　そして、予告通りに不破光一を三振させて、この回をあえなく終わらせたのであった…
不破光一　あのピッチャーは、なかなか手ごわいぞ…気を付けた方がいいぜ…
（バッターボックスから戻って来た不破の発言に、猿渡が反論する）
猿渡匠　ほんとに、そうなのかな…
東屋大吉　どう言うことだ？

（東屋が、身を乗り出す）

猿渡匠　確かに良い球を放ることは認めるが、俺たちがやられた真の原因は、出鬼杉の巧みな配球術のような気がするぜ…

東屋大吉　何っ…

猿渡匠　出鬼杉は、一度は全国を制覇した名キャッチャー…俺たちの考えなど遠く及ばないほどの戦術で、ピッチャーの投球をコントロールしているってことだ…そう、俺たちの本当の敵は、奴の頭脳なんだ…

東屋大吉　奴の頭脳との戦い…

ナレータ　それを聞いた東屋たちは、途端に背筋が凍る思いをしたのだった。

その１５

ナレータ　　２回の表は、東屋の気迫ある投球で、出鬼杉チームの６、７、８番バッターを三球三振でシャットアウトし、再び東屋チームの攻撃となった…

２回の裏、（攻撃）東屋チームvs出鬼杉チーム（守備）

東屋大吉　　よし、俺からだな…一発、目の覚める奴を打つぜ！

（東屋が、勇んで打席に入る）

出鬼杉ミチル　さあ、どうやって料理するかな…

（出鬼杉が、サインを出す）

ナレータ　　ピッチャーの放った第一球目は、ストライクゾーンをわずかに外れてキャッチャーミットに収まった…

主審　　ボール…

東屋大吉　　一球目は、様子をみてきたか…

（東屋が、そう言って再びバットを構え直す）

出鬼杉ミチル　逃げるな…自分の力を信じて、投げろ！

（出鬼杉が、攻めのサインを出す）

ナレータ　　ピッチャーの投げる第二球目に、東屋は大きく空振りしてしまった。

主審　　ストライーク！

東屋大吉　　ちっ…

（東屋が、バットを強く握りしめる）

出鬼杉ミチル　よし…その調子で、どんどん投げろ…

ナレータ　　ピッチャーは、迷うことなく第三球目を投げた。

東屋大吉　　もらった！

ナレータ　　東屋は、そのボールを見事にとらえた…すると、ボールは、ライナー性の当たりでレフトへ向かった…

六井太　　やった…

ナレータ　　しかし、その打球はレフトの真正面でとられ、あっさりアウトになってしまったのだった…

猿渡匠　　あ、あれ…

（今の当たりがアウトになったことに、猿渡匠は目を疑う）

東屋大吉　　真正面かよ…運が無かったぜ…

（東屋が、軽く舌打ちをしながらベンチへ戻る）

六井太　　さあ、打つぞ！

出鬼杉ミチル　さて、次はどうするかな…

ナレータ　　ピッチャーの放つ第一球目を、

六井太　　よし…いただき！

ナレータ　　怪力自慢の六井が、そのボールをとらえて、はじき返した…そして、打球は、またしてもライナー性の当たりで、左中間へと飛んで行った…

細井丞　　おお…レフトとセンターが守っている真ん中へ飛んだぞ！

ナレータ　　細井は、ヒットを予感したが、あっさりとセンターにとられてしまった…

六井太　　ああ…あれを良く取ったな、あのセンターは…

（六井が、ため息をつく）

満場健　　よっしゃー。俺に任せろ！

（満場が、バットを軽く振って打席に入る）

東屋大吉　　しかし、さっきの当たりは、本当に惜しかったな…

六井太　　仕方がないさ…守備がいいんだよ…

（ここで、猿渡がふいに口を開く）

猿渡匠　　ほんとに、そうなのかな…

東屋大吉　　どう言うことだ？

（東屋が、怪訝そうな顔をする）

猿渡匠　見ていると、打球が飛んでいく前に、守備が動いているんだ…まるで、打球が飛んでいく方向を、予め計算しているかのように…

東屋大吉　えっ…

（東屋が、思わず息を飲む）

出鬼杉ミチル　無駄だ…既に、お前らは俺の術中にはまっている…

ナレータ　満場は力強く打ち返したが、セカンドの真正面で、そのライナー性の当たりを難なくとらえたのであった…

主審　スリーアウト、チェンジ！

満場健　くそ…あの当たりを取るかよ…

（満場が、悔しがりながらベンチへ戻ってくる）

東屋大吉　た、確かに、動いている…

（東屋が、その状況に驚愕する）

猿渡匠　出鬼杉は、ピッチャーのリードだけでなく、内野や外野の配置に至るまで指示を出しているようだぜ…

ナレータ　猿渡の言葉を受けて、六井は唸った…

六井太　ほんとに凄いんだね、出鬼杉って…僕なんてリードすら、満足に出来ないよ…ほとんど、東屋くんのボールを受けているだけだもんね…

東屋大吉　何の自慢になってないぞ、このキャッチングマシンが！

（東屋は、ため息をつく）

ナレータ　と、ヒートアップする序盤戦の匂いを嗅ぎつけたのか、誘われるかのように現野球部の主将と上級生たちが、賑わうギャラリーたちに混じっていた…

上級生Ａ　俺たちとやり合う前に、断りも無く他の連中と試合なんざしやがって…

（上級生が、ぺっとつばを吐く）

上級生Ｂ　どうします…こんな試合、つぶしてやりますか？

主将　いや、待て…ここは、奴らがどれだけの実力を持っているか、見極めてやろうじゃないか…

ナレータ　主将は、そう大きく構えると、最後までこの試合を見届けようとしたのであった…

その１６

ナレータ　３回の攻防は、両チームとも三者凡退に終わり、試合は中盤戦へと移行していったのだった…
４回の表、（攻撃）出鬼杉チームvs東屋チーム（守備）
J・ハワード　ははは…景気のいい奴を、また打ってやるぜ！
（ジョニーが、勇んでバッターボックスに入る）
東屋大吉　この回は、ジョニーからか…
（東屋の表情が、険しくなる）
東屋大吉　そう何度も、打たれてたまるか！
（東屋が、第一球目を投げる）
J・ハワード　アイ、アム、ア、グレイト！
ナレータ　ジョニーは、そのボールをとらえると、難なくライト前にはじき返した…そして、彼が出塁したことで、ノーアウト・ランナー1塁となった…
東屋大吉　相変わらず、シャープな振りをしてやがるぜ…
（東屋が、軽く舌打ちをする）
出鬼杉ミチル　さあ、この回で追加点を稼いでいくとするか…
（出鬼杉が、静かにバッターボックスに入る）
東屋大吉　勝負だ…ミッチー！
（東屋が、第一球目を投げる）
出鬼杉ミチル　うらあ！
ナレータ　出鬼杉は、そのボールをジャストミートさせた…そして、ボールはセンター前へと飛んでいったのであった…
東屋大吉　二人とも、初球狙いでいけいけムードかよ…
（東屋が、袖で額の汗を拭う）
源五郎　がはははは…ノーアウト１・２塁か…こりゃあ、増々血がたぎってきたわい！
（源がバットをぶんぶん振りながら、打席に向かってくる）
東屋大吉　やばいな…元ノンプロのおっさんか…
（東屋が、使っていたロージンパックを叩きつける）
東屋大吉　だが、これ以上、追加点をやるわけにはいかないぜ！
（東屋が、第一球目を投げる）
源五郎　そりゃあ！
ナレータ　げんさんは、豪快にバットを振り、レフト前へと打球を運んだのだった…
丸込一彦　やった…ノーアウト満塁だ！
（出鬼杉チームが、大いに沸き立つ）
東屋大吉　くそっ！
（苛立った東屋が、思わずマウンドを蹴る）
ナレータ　と、その時、六井がタイムをかけ、東屋チームのメンツがマウンドに集まってきた。
六井太　そう、かっかするな…
東屋大吉　すまん…しかし、ノーアウト満塁となった以上、追加点は覚悟しないといけないぜ…
猿渡匠　そんな悲観的にならないでくださいよ。今度、打球がきたら、死んでも取ってやるさ！
満場健　そうだ…俺たちに任せておけ！
東屋大吉　お前ら…
六井太　うん…みんなで力を合わせて乗り切ろう！
（東屋チームは、気合を入れ直して各ポジションへと散って行く）
東屋大吉　ここで、俺が腐っちまったら終わりだぜ…
（東屋が、次の打者をきっと睨む）

東屋大吉　　いくぜ！
ナレータ　　東屋が、これでもかと第一球目を投げた…
主審　　ストライーク！
六井太　　よし、その調子だ！
（六井が、声をかけながら東屋に返球する）
東屋大吉　　さあ、どんどん攻めるぜ！
ナレータ　　東屋が、立て続けに第二球目を投げた…すると、その球威に押された打者は大きく空振りした。
主審　　ストライク、ツー！
六井太　　いいぞ、さっきのは最高の球だったぜ！
（六井が、声をかけながら東屋に返球する）
東屋大吉　　よし、これでとどめだ！
ナレータ　　東屋が、力一杯に第三球目を投げた…だが、打者は、そのボールを見事にとらえてはじき返し、レフト方向へ飛ばした…
不破光一　　任せろ！
（不破がバックして、その打球を捕球する）
J・ハワード　カモン、ベイビー…タッチアップだぜ！
（ジョニーが、ホームに向かって走る）
不破光一　　そう簡単には、ホームを踏ませないぜ！
ナレータ　　不破は、キャッチャーに目がけて、思い切り返球した…すると、ボールは、矢のごとくダイレクトに六井へ向かっていった…
出鬼杉ミチル　むう…あの野郎、いい肩をしているな！
（出鬼杉が、その返球を見て唸る）
J・ハワード　はじき飛ばしやるぜ、このデブ野郎！
六井太　　押し倒せるものなら、押し倒してみな！
ナレータ　　ジョニーは、ヘッドスライディングをかましてきた。だが、それに怯むことなく六井は、仁王立ちで大きく構えた。その結果、ホームベース上では、激しいぶつかり合いを伴うクロスプレーとなったのだった…
主審　　アウト！
猿渡匠　　やった！
（その気迫あるプレーに、猿渡がガッツポーズする）
J・ハワード　オウ、シット！
（ジョニーが、悔しそうにホームベースを叩く）
東屋大吉　　ありがとな…六井。そして、みんな…
ナレータ　　仲間たちの好プレーに触発された東屋は、次のバッターを三球三振させて、この回を０点に抑えたのであった…

その１７

ナレータ　　その後、膠着状態が続き、試合は６回の表を迎えたのであった…
６回の表、（攻撃）出鬼杉チームvs東屋チーム（守備）
主審　　ストライーク、バッターアウト！
ナレータ　　この回の先頭打者である丸込が三振し、ジョニーの打順となった…
J・ハワード　ははは…今度も、バシッと打ってやるぜ！
（ジョニーが、威勢よく打席へ入る）
東屋大吉　　タイム！
（東屋が、ふいに試合を中断させ、六井を呼ぶ）
東屋大吉　　ジョニーに対して、まともに投げていたら勝ち目はない…あれを絡めて投げるぞ…
（六井が、顔を歪める）
六井太　　それは、やめてくれよ…僕は、いつも反らしちゃうんだから…
東屋大吉　　とにかく、直球だけじゃ太刀打ちできないんだ…何とかして、捕球してくれ…
（不服そうに、六井が自身のポジションに戻る）
出鬼杉ミチル　一体、何を企んでいるんだ。あいつらは…
（出鬼杉が、眉をひそめる）
東屋大吉　　よし…いくぜ、ジョニー！
（東屋が、第一球目を投げる）
J・ハワード　何かと思えば、スローボールか！
ナレータ　　ジョニーは、笑いながらボールをとらえようとした…と、その時、ボールの軌道が変化した…そのおかげで、ジョニーは大きく空振りした…
主審　　ストライーク！
J・ハワード　なんだと…曲がった！
出鬼杉ミチル　むう…カーブか…味な真似を！
（出鬼杉が、驚愕する）
六井太　　はは…と、捕れた。やった…
（六井が、ほっと胸をなで下ろす）
東屋大吉　　言っておくが、俺の武器は速球だけじゃないぜ！
（東屋が、第二球目を投げる）
J・ハワード　ノー！
ナレータ　　ジョニーは、さっきのカーブとの緩急の差に戸惑い、東屋の速球に対して空振りした…
主審　　ストライク、ツー！
J・ハワード　おっ…おのれ！
（ジョニーが、赤鬼のような表情になって怒りを示す）
東屋大吉　　さて、お次はどっちを投げようか…
（東屋が、第三球目を投げる）
J・ハワード　ぬおっ…ぬかった！
ナレータ　　頭に血が上っていたジョニーは、やってきたカーブを待ち切れず、思わず振り抜いてしまった…そのため、バットに当たったボールは高く打ち上がってしまったのだった。
猿渡匠　　オーライ…
（猿渡が、あっさりとセカンドフライを処理する）
J・ハワード　オー、マイ、ゴッド！
（ジョニーが、悔しさのあまり、バットをへし折る）
出鬼杉ミチル　カーブと絡めての緩急の差で翻弄してくるとは、なかなかやるな…
（出鬼杉が、不敵な笑みを浮かべながら、打席に入る）

東屋大吉　お前も二の舞にしてやるぜ…ミッチー！

（東屋が、第一球目を投げる。出鬼杉が、そのカーブを見送る）

主審　ストライーク！

出鬼杉ミチル　なるほど…なかなか、角度のあるカーブだな…

（出鬼杉が、眉をひそめる）

東屋大吉　そして、お次は自慢の速球だぜ！

（東屋が、第二球目を投げる。出鬼杉が、その速球を見送る）

主審　ストライク、ツー！

六井太　よし…このまま、三球三振にさせてやろうぜ！

（六井が、威勢よく東屋に投げ返す）

東屋大吉　さあ、最後だ！

（東屋が、第三球目を投げる）

出鬼杉ミチル　全国レベルの俺が、カーブごときで倒せると思ったら、大間違いだぜ！

ナレータ　出鬼杉は、そのカーブに対して、タイミングを見計らって打ち返した…

東屋大吉　うっ…

ナレータ　その打球は、ライト前へ落ち、出鬼杉は出塁を果たしたのであった…

東屋大吉　さすが、ミッチー…一筋縄では、いかないようだな…

（東屋大吉が、小さく笑う）

ナレータ　しかし、次のげんさんが、東屋のピッチングの前にあえなく敗れ去ったため、出鬼杉チームは、追加点を入れることはできなかったのであった…

その１８

ナレータ　そして、試合は７回の裏に達したのであった…
（攻撃）東屋チームvs出鬼杉チーム（守備）の７回の裏

ナレータ	そして、試合は７回の裏に達したのであった… ７回の裏、（攻撃）東屋チームvs出鬼杉チーム（守備）
馬万里蛮	ここまで、やられっ放しだからな…そろそろ仕返しをしないと… （馬万里が、バットを軽く振ってから打席に入る）
馬万里蛮	さて、どうやって打ち崩すか…
ナレータ	と、その時、馬万里が何かをひらめいた…
出鬼杉ミチル	俺の頭のコンピュータに、狂いはない…
ナレータ	出鬼杉がサインを出し、それに応じてピッチャーは第一球目を投げようとした…と、その時、馬万里は急にヘン顔をして見せた。そのため、笑わされたピッチャーの投球は、大いに乱れたのであった…
馬万里蛮	いただき！
ナレータ	馬万里は、そのボールをジャストミートさせ、はじき返した…そして、ボールは出鬼杉の予期せぬ方向へ飛んでいったのだった…
出鬼杉ミチル	なっ…何っ！
ナレータ	逆をつかれた守備陣は、懸命にボールを追って拾ったが、馬万里に出塁を許すハメとなったのだった…
馬万里蛮	ついに、突破口を開いたぜ！ （馬万里が、ベース上でガッツポーズする）
出鬼杉ミチル	あのヘン顔は、どう考えても反則級のおかしさだぜ！ （出鬼杉が、歯ぎしりする）
猿渡匠	このチャンスは、確実にものにしないとな… （猿渡匠が、セフティーバントの構えを取る）
出鬼杉ミチル	そうは、させるか… （ピッチャーが、第一球目を投げる）
猿渡匠	外してきたか…だが、俺には通用しないぜ！
ナレータ	猿渡は、そのボールを見事にとらえて、ファールラインぎりぎりに転がした…
東屋大吉	うまい！
ナレータ	こうして、馬万里は２塁への進塁を果たし、東屋チームは、ワンアウト２塁となった…
不破光一	点を取るなら、この場面しかないな… （不破が、表情を引き締めて打席に立つ）
不破光一	奴らは、俺たちの打つ方向を計算している…ならば、驚異的な俺のバッティングコントロールで、かく乱させてみせるぜ！ （ピッチャーが、第一球目を投げる）
不破光一	いくぜ！
ナレータ	不破がタイミングを外して、ボールをはじき返すと、その打球は、出鬼杉の思惑を大きく外れる方向へ飛んでいった…そして、誰もいない場所へボールが点々と転がったのだった…
出鬼杉ミチル	ぬう！ （出鬼杉が、地団駄を踏む）
東屋大吉	ワンアウト１・３塁…ここで、打たなかったら男がすたるぜ！ （東屋が、バットを力強く構える）
出鬼杉ミチル	くそ…そう簡単にひっくり返されてたまるか… （ピッチャーが、第一球目を投げる）
東屋大吉	まだ、俺たちは、終わっていない… （東屋が、大きく空振りする）
主審	ストライーク！
出鬼杉ミチル	残念だったな…

ナレータ　出鬼杉は、小さく笑って、ピッチャーに返球した…そして、間髪を入れることなく第二球目が迫ってくる…
東屋大吉　まだ、何も始まってないんだ…
（東屋が、大きく空振りする）
主審　ストライク、ツー！
六井太　うわあ…何やっているんだ、東屋くん！
（六井が、苦悩の表情を浮かべる）
出鬼杉ミチル　無駄だ…お前たちは、この試合で全てが終わるのだ…
（ピッチャーが、第三球目を投げる）
東屋大吉　俺たちは、野球をやるんだ…だから、絶対に勝つ！
ナレータ　東屋は、そのボールを見事にとらえた…そして、そのボールは、空高く伸びあがって、ぐんぐん飛距離を伸ばし、場外へと消えていったのであった…
六井太　やった…逆転スリーラン・ホームランだ！
（六井が、大きくバンザイする）
出鬼杉ミチル　ま、まさか…ここにきて、ホームランを打たれるとは…
（出鬼杉が、大きく項垂れる）
主将　あいつら…
ナレータ　歓喜の渦に包まれる東屋チームを見て、野球部の主将は、ため息混じりの言葉をこぼしたのであった…

その１９

六井太　よし…僕も続くぞ！
ナレータ　勢いづいた六井は、意気揚々とバッターボックスへ向かった…
出鬼杉ミチル　これ以上、打たれてたまるかよ…
ナレータ　しかし、出鬼杉の巧みなサインの前に、六井はあっさり三振してしまったのだった…
満場健　ほんと、とろい奴だな…むっちぃーは…
（満場が、ため息をつきながら、バッターボックスへ入る）
出鬼杉ミチル　カンの鋭い片目野郎が出てきたな…ある意味、一番厄介な相手だぜ…ここは、俺の心を読まれない様にかく乱させるか…
ナレータ　出鬼杉は、満場に対してしゃべりかけた…
出鬼杉ミチル　さて、次はどうしようかな…まず、第一球目は外角低めで様子見とするかな…
満場健　（囁き戦法か…）ふ～ん、そっか…じゃあ、遠慮なく狙っちゃおう！
（満場が、白い目で出鬼杉を見る）
出鬼杉ミチル　むむっ…こやつ…そう言っておきながら、別のコースを狙ってやがるな！
（出鬼杉が、サインを送る）
ナレータ　ピッチャーが、第一球目を投げた…すると、ボールは、外角低めを突いてきたのだった…
満場健　引っ掛かったな、出鬼杉！
出鬼杉ミチル　な…なんだと？
ナレータ　満場は、バッターボックスの内側に寄り、フルスイングをした…
出鬼杉ミチル　し…しまった！
ナレータ　打球はライト方向へ流れ、ポトリと落ちた。こうして、出鬼杉との駆け引きに勝った満場は、悠々と出塁を果たしたのであった…
出鬼杉ミチル　くうお…裏の裏をかかれた！
（出鬼杉が、大きく唸る）
平間浩　よっしゃ…またしても、追加点のチャンスだぜ！
（平間が、景気よくバッターボックスへ入る）
出鬼杉ミチル　まあ…そうは言っても、このバカで終わりだけどな…
（ピッチャーが、第一球目を投げる）
平間浩　ドッカーン！
ナレータ　平間浩は、そのボールを大きくはじき返した…すると、ボールは、迷うことなく場外へと消え去っていったのだった…
馬万里蛮　やったぜ…ツーラン・ホームランだ！
（馬万里が、拳を作って雄叫びをあげる）
出鬼杉ミチル　ば、ばかな…何故…
（出鬼杉が、眉をピクピクさせる）
平間浩　見たか、俺の実力を…イエーイ！
ナレータ　平間は、グリコのキャラクターを彷彿させるかのようなガッツポーズで、周った…
東屋大吉　平間の場合、当たれば、ほぼホームランになる波の激しい男だ…扱いにくいと言えば、扱いにくいがな…
（東屋が、苦笑いする）
出鬼杉ミチル　５点目か…悪夢でも見ているのか…
ナレータ　と、出鬼杉は、大喜びをしてはしゃぐ東屋たちの姿を目にした…
出鬼杉ミチル　ちっ…バカ騒ぎしやがって…
ナレータ　出鬼杉は、強がって毒づいて見せたが、徐々に妙な羨ましさが募っていったのだった。
出鬼杉ミチル　いいな…野球って…
ナレータ　その後、細井が三振したため、２－５で東屋チーム優勢のまま、９回の表を迎えることになったのであ

った…

その２０

ナレータ　　９回の表、（攻撃）出鬼杉チームvs東屋チーム（守備）
出鬼杉ミチル　まだ、スコアは２－５だ…最後まで諦めず全力で行こうぜ！
出鬼杉チーム　おおー！
（ジョニーが、気合を入れ直して打席に入る）
J・ハワード　今度は、惑わされないぜ…
東屋大吉　このまま逃げ切らせてもらうぞ…ジョニー！
（東屋が、第一球目を投げる）
J・ハワード　カーブが、何度も通用すると思うなよ！
ナレータ　ジョニーは、そのボールをとらえてはじき返した…すると、ボールは、やや浅めの右中間に落下しようとした…
猿渡匠　ヒットにはさせん！
ナレータ　猿渡は、そのボールに対して、果敢にダイビングキャッチした…
審判　アウト！
J・ハワード　ホワイ…あのあたりが、アウトだと！
（ジョニーが、思わず悲鳴をあげる）
東屋大吉　サンキュー…猿渡！
ナレータ　東屋は、ファインプレーをくり出した猿渡に対して、大きく声を掛けた。
出鬼杉ミチル　これが、最後の打席になるかもしれないな…
（出鬼杉が、強くバットを握りしめる）
出鬼杉ミチル　この一打に、全てを賭ける…
ナレータ　出鬼杉は、かっと目を見開いた…
東屋大吉　ミッチー…勝負だ！
ナレータ　東屋は、大きく振りかぶって第一球目を投げた…ボールは、快音を立てて、キャッチャーミットに突き刺さった…
主審　ストライーク！
出鬼杉ミチル　ほんと、いい球だぜ…
（出鬼杉が、表情を厳しくさせる）
東屋大吉　次は、緩急の差をつけるか…
（東屋が、第二球目を投げる）
出鬼杉ミチル　カーブで、緩急の差をつける気だな…
ナレータ　出鬼杉は、タイミングを見計らって、スイングをした…しかし、ボールは思ったよりも曲がったため、バットの芯を外した…打球は、そのままバックネットへと突き刺さった…
主審　ファール…
出鬼杉ミチル　さっきよりも、鋭利に曲がった…
（出鬼杉が、冷や汗をかく）
東屋大吉　俺の球は、常に進化し続けているんだぜ…このメンツと共にな…
（東屋が、返球を受ける）
出鬼杉ミチル　面白い…ならば、俺はお前よりも上回るスピードで成長してやるぜ…
（出鬼杉が、バットを構え直す）
東屋大吉　次は、これでどうだ…
（東屋が、第三球目を投げる）
出鬼杉ミチル　また、最初に戻って速球か…芸が無さすぎだぜ！
ナレータ　出鬼杉は、そのボールをとらえたが、またしても前に飛ばすことができず、バックネットへと運んでしまった…

主審　　　　　ファール…
出鬼杉ミチル　まさか、球速も上がり続けているのか…今のだと、140km/時ぐらいは出ている気がする…
（出鬼杉が、動揺する）
東屋大吉　　　しかし、速球だとミッチーには通用しない…かと言って、カーブもタイミングを合わされてしまうし…ならば、まだ誰にも一度も見せたことのない、覚えたてのあれに賭けてみるか…
ナレータ　　　東屋は、目を光らせた…
六井太　　　　うん…何だか、嫌な予感が…
ナレータ　　　六井は、何か良からぬものを察知した。
東屋大吉　　　ミッチー…この球が打てるか！
（東屋が、第四球目を投げる）
出鬼杉ミチル　この出鬼杉ミチルを舐めるなよ！
ナレータ　　　出鬼杉は、フルスイングでそのボールに臨んだ…と、その時、ボールは急に球威を失い、落下を始めた…
出鬼杉ミチル　フォークだと！
ナレータ　　　出鬼杉は、大きく空振りをした…そして、ボールはワンバウンドし、六井の股間に当たった…
六井太　　　　おひょー！
主審　　　　　ストライーク、バッターアウト！
東屋大吉　　　やったぜ…ついに、ミッチーを打ち取ったぜ！
ナレータ　　　東屋は、ガッツポーズを取ろうとしたが、六井が悶絶している姿を目の当たりにしたため、慌ててかけつけた…
東屋大吉　　　だ、大丈夫か…むっちぃー！
六井太　　　　ひ、ひどいよ…東屋くん。いきなり、フォークなんて、無茶ぶりをするにもほどがあるよ。ああ…ぼ、僕の大事な息子たちが…息子たちが！
東屋大吉　　　ほんと、悪かった…だから、しっかりしてくれ！
六井太　　　　うう…人生は、美しい…
ナレータ　　　六井は、そう言って気絶をしてしまった…
出鬼杉ミチル　東屋…
ナレータ　　　出鬼杉は、東屋に声をかけた…
東屋大吉　　　ちょっと、待ってくれよ…今、ほんとに大変なところなんだ…
出鬼杉ミチル　お前らは…やっぱり、これからも野球をやり続けるべきだよ…
東屋大吉　　　えっ…
ナレータ　　　東屋が、その言葉を聞いて振り返った時、既に出鬼杉はベンチへと向かって歩き始めていた…
東屋大吉　　　ミ…ミッチー…
ナレータ　　　東屋は、出鬼杉の哀愁を漂わせる背中を、じっと見つめた…

その２１

ナレータ　この後、東屋は、源五郎をピッチャーフライで仕留めたため、９回の裏を待たずして、この試合を制したのであった…

満場健　勝った…勝ったぞー！

平間浩　イエーイ…俺イエーイ…俺たちイエーイ！

ナレータ　東屋チームはマウンドに集結し、喜びを分かち合った…

源五郎　うむ、うむ…なんとも、微笑ましい光景じゃのう…これからもがんばれよ、お前たち…

ナレータ　源五郎は、彼らを見つめながら感涙した…と、その時、その輪に向かって、出鬼杉が歩み寄っていった…

出鬼杉ミチル　完全に、こちらの負けだ…お前らが、こんなすばらしいチームだとは思わなかったぜ…なぜ、もっと早く気が付かなかったのだろうな…

ナレータ　出鬼杉の言葉に、東屋は俊敏に反応した…

東屋大吉　何を言っているんだ…ブランクがあるのに、ここまで俺たちを苦しめたミッチーは、脱帽ものだぜ…今では、お前と試合ができて、ほんと良かったと思っているよ…

出鬼杉ミチル　俺も、最後にお前と試合できて、本当に良かった…おかげで、いい思い出ができたよ…

ナレータ　出鬼杉が、そう言った瞬間、東屋はとっさに声を上げた…

東屋大吉　ミッチー…また、一緒に野球をやらないか…

出鬼杉ミチル　えっ…

東屋大吉　俺は、お前と一緒に野球がやりたいんだ…そして、甲子園を目指したいんだ…

出鬼杉ミチル　あ、東屋…

ナレータ　出鬼杉は、静かに俯いた…

出鬼杉ミチル　しかし、俺は自己都合で勝手に部を飛び出し、お前たちに酷いことばかりしてきた…そんな、俺を許してくれるのか…

ナレータ　出鬼杉の言葉を聞いた東屋は、六井たちを見回した…すると、彼らは、一同に笑顔を返したのだった…

東屋大吉　ほら…みんな、そんなの気にしてないってよ。むしろ、野球部に入って欲しいくらいだって、言っているぜ…

出鬼杉ミチル　み、みんな…

ナレータ　出鬼杉は、必死に涙を堪えた…

東屋大吉　昨日の敵は、今日の友だ…野球部の再建を、一緒に手伝ってくれよ…結構、大変なんだからよ！

ナレータ　東屋は、出鬼杉に手を差し伸べた…

出鬼杉ミチル　あ…ありがとう…本当にありがとう、みんな…

ナレータ　出鬼杉は、その手をぐっと掴んだ…

Ｊ・ハワード　ははは…ならば、仕方がないな…これからは、たっぷりと世話になるぜ…エブリワン！

六井太　うん…こちらこそ、宜しくな。ジョニー…

ナレータ　こうして、出鬼杉とジョニーは、元の鞘に戻ったのであった…

東屋大吉　後は、丸込って言ったな…

ナレータ　東屋は、ふいにクリクリ坊主の中坊に声をかけた…

東屋大吉　来年は、先掛高校野球部に来いよ…他校なんかに、行ったりするんじゃねえぞ！

丸込一彦　えっ…

東屋大吉　たっぷりしごいてやる…ありがたく、思えよ…

丸込一彦　はい…こちらこそ、宜しくお願いします！

ナレータ　丸込は、笑顔でそう答えた…

六井太　また、東屋くんたら…うまいこと言って、人材を確保しようとするんだから…

東屋大吉　一言、余計なんだよ…てめえは…

ナレータ　東屋のつっこみに対して、彼らは大きく笑い合った…と、その時、ギャラリーの中で彼らを見守り続けて

きた現野球部の主将と上級生たちが、彼らの目の前に立ちはだかった…

東屋大吉　しゅ…主将…

（東屋大吉が、目を丸くする）

主将　いい試合だったぜ…ありがとうな…

ナレータ　主将は、そう声をかけると、一息を付いてから言葉を発した。

主将　俺たちは、この日限りで引退することにした…だから、お前たちとの決闘は、キャンセルさせてもらうよ。

東屋大吉　えっ…

ナレータ　突然の話に、東屋たちは騒然となった…

主将　俺たちは、本当に間違っていた…何故、お前たちのように純粋に野球をすることができなかったのか、恥ずかしい限りだぜ…

ナレータ　主将の目に薄らと光る物が浮かぶ…

主将　これからは、東屋…お前が、キャプテンだ…頼んだぞ！

ナレータ　込み上がってくるものを抑え、そう力強く声をかけると、主将と上級生たちは、静かにその場を去っていったのであった…

東屋たち　先輩、ありがとうございました！

ナレータ　突然の別れに彼らは少し戸惑ったが、気持ちよく送り出してやろうと、東屋たちは、声を大にして、そう叫んだのであった…

（ここで、場面は校長室に切り替わる）

校長　うむ…これで、野球部の存続は決定だな…

ナレータ　校長は、校長室からその光景を目の当たりにしながら、小さく頷いた…

教頭　い…いいんですか…

校長　あんなすばらしい野球部は、絶対に潰してはならん…むしろ、学校をあげて応援するべきだろう…

ナレータ　校長は、そう言うと、今までに見せたことの無いはつらつとした姿を見せる息子を、微笑ましく見守ったのであった…

こうして、彼らの熱き物語の幕は切って落とされたのだった…

その１

ナレータ	それから数日後のこと…
東屋大吉	もう、こんなに暗くなっちまったか…今日も良く練習したぜ…
六井太	うん…段々、本格的な部活になってきたね…
東屋大吉	ああ、まさにこれだよ…俺が求めていたものは…
ナレータ	部活帰りの夜道、二人は充実感に満ちた毎日に感謝した。と、その時、何者かに声をかけられた…
藤谷譲二	久しぶりだな…東屋…
ナレータ	藤谷譲二（ふじたに　じょうじ）は、東屋に笑顔を送った…
東屋大吉	おお…藤谷じゃないか…
六井太	誰だ…？ （六井が、怪訝そうな顔をする）
東屋大吉	こいつは中学生の時、一緒に野球をやっていた同級生なんだ…今は、俺たちと同じ東東京地区の赤葉高校（あかばこうこう）の野球部にいるよ。
六井太	あ…赤葉高校…あの名門校かよ…凄い！ （六井が、目を丸くする）
東屋大吉	話は風の便りで聞いているぜ…最近、レギュラーに昇格したんだってな…おめでとう。
藤谷譲二	ありがとうな…でも、お前も先高（先掛高校の通称）の野球部の主将になったそうじゃないか。二年生で主将こそ、凄いことだぜ。
東屋大吉	何を言っているんだ…色々とあって、大変だったんだぞ…これから先、一体何が起こることやら…
藤谷譲二	ははは…そんなことを言っていると、中学生の時に名キャッチャーだったお前もかたなしになるってもんだぞ…黒岩と名コンビのな…
東屋大吉	黒岩か…久しぶりにその名を聞いたぜ… （東屋が、小さく笑う）
六井太	黒岩って、誰だ…？
東屋大吉	俺たちの中学校に、黒岩誠（くろいわ　まこと）と言う速球派の剛腕投手がいたんだ…親父さんの仕事の都合で引っ越してしまったので、今は西東京地区にある上陵高校にいるよ。
ナレータ	そう言うと、東屋はおもむろに空を見上げた。
藤谷譲二	まあ、元気だせよ…大吉…がんばって続けていれば、その内にいいことがあるさ…
東屋大吉	随分と簡単に言ってくれるな… （東屋が、苦笑いする）
藤谷譲二	とにかく、めげずにがんばれよ…そんでもって、公式戦で会おうぜ…
東屋大吉	ああ…そうだな…
ナレータ	東屋と藤谷は固い握手を交わし、お互いの地区予選での健闘を祈ったのであった…

その２

ナレータ　そして、夏が訪れ、地区予選が始まった…先掛高校野球部は、部室にて、明日から始まる地区予選に向けて、最後のミーティングを行っていた…

東屋大吉　みんな、ついに待ちに待った日が来たぞ…この公式戦で、今日までがんばってきたことを全てぶつけていこうぜ！

全員　おおー！

平間浩　イエーイ、念願の公式戦だぜ…やっぱ、試合をやらなきゃ野球じゃないぜ！
（平間が、無邪気にはしゃぐ）

不破光一　おい、そんなに浮かれんなよ…ガキか、てめえは！
（不破が、つっこみを入れる）

赤平哲平　はしゃぐのは無理もないよ…高野連の処分が終わったのは、つい最近なんだ。この試合が、俺たちにとって最初の試合になるからな…
（その言葉に、一同はしみじみした思いで一杯となる）

満場健　しかし、ついていないぜ…初戦の相手が、あの名門・赤葉高校だとはな…

細井丞　確かにそうだな…赤葉高校は、なんと言っても甲子園の常連校だもんな…

馬万里蛮　まあ、いいさ…勝ち負けはともかく、いい試合をしようぜ…

猿渡匠　そうだな…胸を借りるつもりでいくか…何事も経験を積むことが、大事だからな…

出鬼杉ミチル　こらこら、お前ら…始めから、そんな弱気でどうするんだ。試合をするからには、勝ちを意識して臨まないとダメだぜ…

六井太　そうだね。学校では、まだ悪名高き野球部ってことになっているしね…何とかこの初戦を突破して、ぐっと株をあげていこうな…

J・ハワード　イエース、ウィーキャン！

出鬼杉ミチル　よし…気合いが入ったところで、スタメンの発表といくぜ…

ナレータ　出鬼杉は、オーダー表を提示した。

１番・ショート、馬万里蛮
２番・セカンド、猿渡匠
３番・キャッチャー、出鬼杉ミチル
４番・ピッチャー、東屋大吉
５番・センター、ジョニー・ハワード
６番・レフト、不破光一
７番・サード、満場健
８番・ファースト、平間浩
９番・ライト、六井太

出鬼杉ミチル　まあ、こんなところだな…

東屋大吉　ふむ、ふむ…なるほど…なかなか、いいんじゃないか…って、キャプテンは俺だぞ…お前が、独断と偏見で勝手に決めるな！
（東屋が、思わずノリつっこみをする）

六井太　そうだよ…大体、何で僕がライトになっているんだよ！

出鬼杉ミチル　まあ、お前ら落ち着いて話を聞けよ…六井は、まずリードすらできないだろ…その時点で、キャッチャーをやる資格がねえだ、このたわけ…だが、六井は肩がいいから、バックホームの時とかを考えると外野がいいかと思ってライトにコンバートした…

六井太　そういう訳か…最近、何故か外野まがいの守備練習をさせられていると思っていたが…

不破光一　　　今頃気付いたんかい…ほんと、トロい奴だな…

出鬼杉ミチル　細井は、その自慢の走力を有効に使いたい…代走が必要な場面で登場してもらい、どんどん盗塁して相手チームを引っ掻き回して欲しい…

細井丞　　　　わかりました…走る事なら、任せて下さい！

東屋大吉　　　まあ、いいか…よし、みんな…このオーダーで、地区予選の大舞台に乗り込もうぜ…俺たち新生先掛高校野球部の意地を見せてやるぞ！

全員　　　　　おおー！

ナレータ　　　先掛高校野球部一同は心を一つにして、大きく応えたのであった…

その３

ナレータ　　そして、決戦の当日が訪れた…先掛高校野球部の相手である赤葉高校野球部たちは、試合前のウォーミングアップに精を出していた…

藤谷譲二　　まさか、初戦の相手が東屋たちだとはな…

（藤谷が、頭をかく）

藤谷譲二　　俺も５番・センターで、スタメンで登場だし、ようやく手に入れたレギュラーだからな…自分のためにも、容赦なしでやらせてもらうぜ…

（藤谷が、目に闘志の炎を灯す）

監督　　おい、お前たち…そろそろ、相手チームとの交替の時間になるから、切り上げる準備をしろ！

ナレータ　　赤葉高校の監督は、大声でそう指示した…

藤谷譲二　　楽しみにしているぜ、お前との勝負を！

ナレータ　　藤谷は小さく笑いながら、ベンチへと戻っていったのだった…

ナレータ　　そして、お互いのウォーミングアップが終わり、試合の火蓋は切って落とされたのだった…

１回の表、（攻撃）先掛高校vs赤葉高校（守備）

馬万里蛮　　さあ…最初から飛ばしていくぜ！

（馬万里が、勇んでバッターボックスに入る）

東屋大吉　　ついに、始まったな…

ナレータ　　東屋は、ゴクリと唾を飲んだ…と、その時、赤葉高校のピッチャーが、第一球目を放った…ボールは、快音を立ててキャッチャーミットに収まった…

主審　　ストライーク！

（馬万里が唖然とする）

馬万里蛮　　は、速い…もしかすると、うちのキャプテンより速いんじゃないか…

（同様に、先掛高校野球部たちも表情を強張らせる）

満場健　　ウォーミングアップの時よりも、遥かに速いぜ…

細井丞　　あんな凄い球は、見たことがありませんよ…

不破光一　　こりゃあ、マジでカスリもしないかも知れないな…

（先掛高校野球部たちの間で、動揺が走る）

藤谷譲二　　東屋よ…全国レベルを舐めてもらったら、困るぜ…頂点へ昇りつめると言うのは、口だけでは通用しないからな…

（藤谷が、真剣な眼差しで先掛高校ベンチを見つめる）

主審　　ストライーク、バッターアウト！

馬万里蛮　　くそっ！

ナレータ　　馬万里は、あっさりと三振してしまったのであった…そして、続く猿渡も同様に三振してしまい、出鬼杉も凡打で打ち取られてしまったのであった…

その４

ナレータ　　１回の裏、（攻撃）赤葉高校vs先掛高校（守備）
東屋大吉　　確かに、全国レベルを甘く見過ぎていたようだぜ…
ナレータ　　東屋は、マウンド上で大きく振りかぶり、練習球を放った…ボールは、矢のように飛んでいき、出鬼杉のキャッチャーミットに突き刺さった…
出鬼杉ミチル　よし、いいぞ…絶好球だ！
監督　　ほう…なかなかいいボールを放るな…
（監督が、サングラスを直しながらつぶやく）
監督　　球速にして、130km／時強といったところか…まあ、打てない球ではない…
（監督が、１番バッターに声をかける）
監督　　ちょっと、脅かして来い…
（１番バッターが、大きく頷く）
東屋大吉　　さあ、いくぞ！
ナレータ　　東屋は、第一球目を投げた…ボールは、さっきよりも速度を増してキャッチャーミットに収まった…
主審　　ストライーク！
藤谷譲二　　さっきよりも早くなったな…
（藤谷が、腕組みする）
出鬼杉ミチル　その調子だ！
（出鬼杉が、東屋にボールを投げ返す）
東屋大吉　　どんどん、かっとばすぜ！
ナレータ　　東屋は、第二球目を投げた…すると、１番バッターは、そのボールをチップさせ、一塁側の観客席へ運んだのであった…
主審　　ファール…
六井太　　あの東屋くんのボールを、あっさりと当てた…
（六井が、うろたえる）
東屋大吉　　さすが、赤葉高校だな…
（東屋の表情が険しくなる）
東屋大吉　　ならば、これならどうだ！
ナレータ　　東屋は、第三球目を投げた…すると、１番バッターは、そのボールに対してフルスイングで臨んできた…そして、ボールは難なくはじき返されて、三遊間を抜けていったのだった…
藤谷譲二　　よし…やったぜ！
（藤谷が、思わず歓声をあげる）
東屋大吉　　くそ…
監督　　どうやら、そこまで手堅くやる必要もなさそうだな…思いっきり、かっとばしてこい！
（監督が、２番バッターに対して指示を出す）
東屋大吉　　今度こそ…
ナレータ　　東屋は、第一球目を投げた…それに対して、２番バッターは、難なくそれをミートさせて、センター前に運んだのであった…
監督　　これで、ノーアウト１・３塁…まあ、こんなところだろう…
（監督が、ニヤリと笑う）
東屋大吉　　く、くそ！
ナレータ　　東屋は、懸命にボールを投げたが、カウント２－０で、またしても赤葉高校のバッターにとらえられてしまい、あえなく１点を先取させてしまったのだった…
六井太　　そんな…東屋くんのボールが、いとも簡単に打たれていく…
出鬼杉ミチル　落ち着け…まだ、１点を取られただけだぜ…

東屋大吉　　くぬぅお！

ナレータ　　東屋は、力を込めて、渾身の一球を放った…しかし、４番バッターは怯むことなく、そのボールをとらえて、ついにライトスタンドに叩き込まれたのであった…

六井太　　ス、スリーランホームラン…

ナレータ　　ボールの行方を追っていた六井は、その末路を目撃するやいなや呆然と立ち尽くした…そして、東屋は、完全に沈黙してしまったのであった…

その５

ナレータ　その後、赤葉高校の容赦ない攻撃が続いた…そして、気づいた時には、既に１０点を失っていたのであった…

満場健　ちくしょ…勝負になんねえよ！
（満場が、苛立ってグラブを投げ捨てる）

猿渡匠　やはり、赤葉の壁は厚い…これが、全国レベルの実力か…

馬万里蛮　強すぎるぜ…とても、かなう相手ではない…

不破光一　なんとか、ツーアウトまでは追い込んだのに、そこから満塁にされて、さらに点をどんどん入りてきやがる…底が、まるで見えてこない…
（不破が、歯ぎしりする）

六井太　耐えろ、東屋くん…がんばり抜くんだ！
（六井が、胸に込み上がってくる思いを必死に堪える）

東屋大吉　何がなんでも、アウトを取らないと…

ナレータ　東屋は、第一球目を投げた…それに対して、赤葉高校のバッターは、無理をすることなく、それをとらえてはじき返した…だが、打球は不運なことに東屋の真正面に向かった…

東屋大吉　おっと…
（東屋が、その打球を真正面で捕球する）

主審　スリーアウト、チェンジ！

満場健　ようやく、終わったぜ…
（満場が、ほっと胸をなで下ろす）

監督　今のは、アンラッキーだったが、もはや勝負は見えてきたようなものだ…

ナレータ　監督は、サングラスの奥で大きく高笑いしたのであった…

ナレータ　２回の表、（攻撃）先掛高校vs赤葉高校（守備）

東屋大吉　取られた分は、絶対取り返してやる…
（東屋が、表情を引き締めてバッターボックスに入る）

監督　奴は、確実に仕留めろ…チームの４番が、三振すれば精神的ダメージは大きいからな…

東屋大吉　おし、こい！

ナレータ　赤葉高校のピッチャーの第一球目に対して、東屋大吉はフルスイングで臨んだが、大きく空振りをしてしまった…

主審　ストライーク！

馬万里蛮　キャプテンが、空振りしたぞ…

猿渡匠　ああ…完全に振り遅れているぜ…
（先掛高校野球部たちが、冷や汗をかきながら、状況を見守る）

東屋大吉　くそ！

ナレータ　東屋は、第二球目に対しても大きく空振りをしてしまった…

主審　ストライク、ツー！

東屋大吉　か、かすりもしないとは…

ナレータ　東屋は、自分の不甲斐なさに、無性に腹が立った…

監督　どうやら、ここまでのようだな…

ナレータ　監督がそう言った瞬間、東屋は大きく空振りをして、地面に転んでしまったのであった…

主審　ストライク、バッターアウト！

細井丞　キャ…キャプテンが、三振してしまいましたよ…

ナレータ　その瞬間、先掛高校野球部のベンチに暗いムードが漂った…

東屋大吉	ちくしょ！
ナレータ	東屋の咆哮が、場内に鳴り響く…
監督	所詮、我々の敵ではなかったか…
ナレータ	監督は、静かに目を閉じた…そして、続くジョニー、不破もあえなく凡打で打ち取られたのであった…

その６

ナレータ　その後、試合はさらに一方的なものとなった…そして、５回を迎えた時には、２１－０と大きく点差が開いていたのであった…

六井太　もはやこれまでか…

ナレータ　六井は、コールド試合になることを覚悟した…それに対して、東屋は激高した。

東屋大吉　縁起でもないこと言うな…まだ、この回が残っている。この回で、何とか点を取って、次の回につなげるんだ！

ナレータ　しかし、完全に意気消沈した先掛高校野球部のメンバは、その言葉に応えることはできなかった…その様子に、東屋はベンチを蹴飛ばした…

東屋大吉　元気を出せ、お前ら…最後の最後まで、諦めるんじゃない。さあ…トップバッターは、すぐに打席に向かえ！

六井太　この回は、東屋くんからだろ…

東屋大吉　あ…

ナレータ　東屋は、顔を真っ赤にしながら、バットを持って打席に向かった…

監督　お前ら…まさか、手を抜いているんじゃないだろうな…

ナレータ　赤葉高校ベンチにて、監督は選手たちに、そう問い正した…すると、温存のために、前の打席で交替させられた藤谷が、監督に聞き返した…

藤谷譲二　どう言うことです？

（藤谷が、怪訝そうな顔をする）

監督　１回では１０点も取っているのに、２回は７点、３回は４点しか取れず、４回に至っては、三者凡退と言う結果になっているじゃないか。

藤谷譲二　た、確かにそうですが、我々は手を抜いた覚えはありません…

ナレータ　と、その時、監督の目が光った…

監督　もしや、あの東屋という男…この試合を通して、急速に成長をしているのかもしれんな…

藤谷譲二　ま、まさか…

（藤谷が、ぎょっとする）

監督　配球術は幼稚だし、コースのつき方も甘い…だが、奴は２年生だ。来年になったら、バケる可能性は十分あるだろうな…

ナレータ　監督は、ニヤリと笑うと、すぐさま打席に立つ東屋を見つめた…カウントは、既に２－０となり、彼は完全に追い込まれていた…

東屋大吉　何がなんでも打ってやる…三振だけは、してたまるか…

（ピッチャーが、第三球目を投げる）

東屋大吉　ぬうわあ…

ナレータ　東屋が、思い切りバットを振り抜いた…すると、ボールはバットに当たって空高く舞い上がったのだった…

藤谷譲二　なっ…

（藤谷が、思わず立ち上がる）

塁審　ファール…

ナレータ　残念なことに、打球はポールを割ってしまったが、観客席を越えて場外に消えていったのであった…

藤谷譲二　何て、パワーだ…

（藤谷が、呆然と立ち尽くす）

東屋大吉　くそ…もうちょっと中に入っていれば…

ナレータ　東屋は、悔しがった…しかし、次の投球で東屋は三振してしまうと、続く先掛高校野球部員たちも三振してしまったため、赤葉高校は５回裏を待たずして、２１－０のコールド勝ちを決めたのであった…

猿渡匠　ま、負けた…完敗だ…

（猿渡が、がっくりと肩を落とす）

六井太　　こんな一方的に負けるなんて…

ナレータ　　六井は、顔をくしゃくしゃにしながら涙を流した…

東屋大吉　　ほら、みんな…くやしい気持ちはわかるが、最後に整列するぞ。

ナレータ　　悔しさを堪えながら、東屋は野球部のメンバにそう促した…

出鬼杉ミチル　　東屋の言う通りだ…いこうぜ、みんな…

ナレータ　　出鬼杉が、そう言ってベンチを後にすると、他の部員たちもそれに続いて歩き始めた…

主審　　礼！

両校　　ありがとうございました！

ナレータ　　両校の選手たちは、挨拶を交わして自軍のベンチへ戻っていった…

藤谷譲二　　今回は、残念だったな…だが、最後の土壇場でお前の底力を見た気がするぜ…何だか、もう来年が楽しみになってきた気がするぜ…

ナレータ　　藤谷は、小さく笑って、帽子のつばを直した…

こうして、先掛高校野球部の復帰初戦は大惨敗と言う結果に終わったが、この経験は、彼らにとって貴重な経験となったのであった…

その１

ナレータ　　そして、月日は流れた…
桜の花は満開となり、東屋大吉は三年生となった…

東屋大吉　　おお…結構、集まっているな…

ナレータ　　東屋は、部室の窓から新しく入部してくる一年生たちの姿を見つめた…

六井太　　あそこにいるのは、丸込じゃないか…やっぱり来てくれたんだ。

細井丞　　まさに、キャプテンの仁徳のたまものですね…

東屋大吉　　そんなにおだてるなよ…

不破光一　　その通りだぜ…キャプテンは、おだてるとすぐ図に乗るから、気を付けた方がいいぞ…

東屋大吉　　一言多いんだよ、てめえは！
（部室に笑い声が、こだまする）

出鬼杉ミチル　　寒い中を一年生たちは待っているんだ…さっさと着替えて、出迎えるぞ…

東屋大吉　　そうだったな…すまん、すまん…

ナレータ　　東屋は、そう答えると、部室のドアを開けて彼らのもとへ向かった…

ナレータ　　そして、主将の挨拶が始まった…

東屋大吉　　俺が、キャプテンの東屋だ…
（東屋が、一呼吸を置いて話を続ける）

東屋大吉　　我が部が、２年前に暴力事件を起こしたことは知っていると思う…それ故に、俺たちは野球部を再建するために日々努力を重ねている最中だ…
（東屋が、咳払いする）

東屋大吉　　さらに、俺たちは汚名を晴らすだけでなく、もっと高い理想を持って野球をやっていきたいと考えている…簡単に言えば、地区予選を突破して甲子園を目指しているのだ…そして、全国一の高校になろうと思っている…
（東屋が、表情を引き締める）

東屋大吉　　俺たちのやっている練習は、並たいていのものではない…だが、俺は人間やってできないことはないと考えている…故に、お前たちも歯を食いしばって、俺たちについて来て欲しい…

ナレータ　　東屋は、一年生たちとぐるりと見渡した…

東屋大吉　　みんな…俺たちと共に野球をやろうぜ！

ナレータ　　東屋が、そう言って挨拶を終わらせた時、一年生たちから大きな拍手が起こった…

出鬼杉ミチル　　なかなか、いいスピーチだったぞ…
（出鬼杉が、東屋を褒める）

東屋大吉　　少しは、見直しただろ…

出鬼杉ミチル　　調子に乗るな…たわけが…

ナレータ　　先掛高校野球部たちは、再びどっと笑った…
こうして、新戦力たちを加えた先掛高校野球部は、夏の公式戦に向けて、力強く走り出したのであった…

その２

ナレータ　あるの日のこと…
出鬼杉は、部室に集まった先掛高校野球部たちに交流試合の話を持ち出した。
東屋大吉　交流試合だと…一体、どこなんだ！
（東屋が、興奮気味に出鬼杉に聞く）
出鬼杉ミチル　相手は、鯉昇大学付属高校（りしょうだいがくふぞくこうこう）と言う広島県にある学校だ…
六井太　鯉昇大学付属高校だって…確か、甲子園に何度か出場している学校じゃないか！
（先掛高校野球部たちが、騒然となる）
出鬼杉ミチル　そうだ…我が野球部が、今よりももっと強くなるためには、より強いチームと戦い、経験を積んでいくことが必要だと思っている…
赤平哲平　むう…確かに、そうなんだけどな…
猿渡匠　けど、面白そうだな…なんたって、あの鯉昇大学付属高校だろ…くうっ、何だか燃えてきたぜ！
（一同が、一斉に活気づく）
細井丞　…で、試合は、いつ何です？
出鬼杉ミチル　試合は、３日後だ！
（その話を聞いて、一同は仰天する）
満場健　は、早っ…何でお前は、いつもそんなにスピーディで強引なんだ？
出鬼杉ミチル　タイム・イズ・マネーだ…俺たちの目標は甲子園に出場し、優勝することにあるのだ。一秒たりとも、無駄にはできん！
赤平哲平　むう…確かに、そうなんだけどな…
不破光一　お前、さっきからそのセリフしかしゃべらんな…
（つっこみ屋の不破が、いつものようにつっこむ）
馬万里蛮　まあ、いいさ…強いチームと戦えるチャンスなんて、なかなか無いからな…腕が鳴るってもんよ…
東屋大吉　よし、その意気だ…みんな、強行スケジュールだが、持ち前のガッツで勝利をもぎ取ってやるぞ！
全員　おおっ！
ナレータ　こうして、先掛高校野球部たちは、士気を高め、３日後の遠征試合に臨んだのであった…

ナレータ　そして、３日後…
先掛高校野球部たちは、鯉昇大学付属高校と交流試合を行うため、新幹線で広島に向かった…
（広島駅に到着した一同が、新幹線を下車して改札口を抜ける）
平間浩　うおおっ…広島だぜ。カキだ、お好み焼きだ、激辛つけ麺だ…じゃんじゃん飲んで歌って踊って、喰らいつくしてやるぜ。もちろん、おみやは、伝家の宝刀・もみじ饅頭で決まりだ…イエーイ！
ナレータ　いつものことながら、先掛高校野球部きってのお調子者である平間が、到着するやいなや大はしゃぎを始めた…
猿渡匠　おい、旅行じゃないんだから、そんなに浮かれている場合じゃないだろ！
不破光一　まあ、こいつは、気失うくらいバットで殴らねえとコリやしねえよ…何なら、俺がやってやろうか？
細井丞　ははは…気持ちはわかりますが…
（と、そんなやり取りの中、赤平が夢中になって、路面電車の写真を撮りまくる）
赤平哲平　このレトロ感が、たまらないですね…東京に居たんじゃ、中々お目にかかれないですからね…
馬万里蛮　しゃあないな…てっちゃん（赤平の通称）は、無類の鉄道マニアだからな…
満場健　けっ…どいつも、こいつも夏休み気分でいやがる…
（東屋が、ため息をつく）
東屋大吉　こら、こら…いい加減にしないと、置いていくぞ！
ナレータ　東屋は、そう部員たちを促すと、その味わい深い電車に乗り込んで、対戦相手の高校へと向かったのだ

った…

その３

ナレータ　　その頃、鯉昇大学付属高校野球部たちは、母校で対戦相手が来るのを、今か今かと待ち構えていた…
犬茂正人　　久々の交流試合だな…
ナレータ　　鯉昇大学付属高校野球部キャプテンでキャッチャーの犬茂正人（いぬしげ　まさと）は、エースである三次幸太郎（みつぎ　こうたろう）に話かけた。
三次幸太郎　ようやく、１年間の謹慎が解けての交流試合だもんな…気が早やって、しょうがないぜ！
犬茂正人　　そうだよな…早いもので、あれからもう１年が経ったんだよな…
（すると、ふいに三次が顔色を曇らせる）
三次幸太郎　もう二度と過ちはおかさないぜ…監督の為にも…
ナレータ　　そう言うと、隣にいた山岸浩市（やまぎし　こういち）が、厳しい顔になって口調を荒げた。
山岸浩市　　けっ…当たり前だ…あんな馬鹿なこと、二度とするかよ！
ナレータ　　その言葉を聞いて、三次は真顔で頷いた。
三次幸太郎　期待しているぞ、山岸…
ナレータ　　三次は、１年前の出来事を振り返った…
（１年前の回想…）
キャプテン　今日も球が、よく走っているな…
ナレータ　　当時の鯉昇大学付属高校キャプテンが、三次を激励した…
三次幸太郎　ええ…ここ最近、本当に調子いいんスよ…
キャプテン　うむ…この分だと今年の夏は、お前に投げてもらった方が、いいかも知れぬな…
三次幸太郎　ほ、本当ですか！
（三次が、目を輝かせる）
犬茂正人　　さすが、幸太郎だな…俺も負けないように、がんばらないとな…
（犬茂が、頭をかきながら、そうぼやく）
犬茂正人　　でも、キャプテン…この分だと、今年は優勝するかも知れないっスね…
キャプテン　そんなに甘かねえぞ…甲子園は…
（と、キャプテンが、何かに気付く）
キャプテン　おい、山岸たちはどうした？
犬茂正人　　奴らは、またサボリですよ…
キャプテン　またか…あいつらは、本当に素行の悪い奴らだな…
（キャプテンが、ため息をつく）
ナレータ　　山岸は、三次と同学年で、入部した時からスラッガーとしての資質があったが、自らの才能に過信し、天狗になっていた…しかも、同じ野球部員で気の合う悪友たちとつるんでは、練習をさぼり、堕落した毎日を送っていたのであった…
犬茂正人　　キャプテン…あいつらを退部にできないのですか。噂では、外でタバコを吸っていたところを目撃した生徒もいるみたいなんスよ。
キャプテン　だが、あいつのバッティングセンスは、本物だ…後は、奴の心がけ次第なのだから、目が覚めるまで待ちたいと監督は言っておられるのだ。嫌な奴だが、我がチームの攻撃の要となる男ゆえ、我慢するしかあるまい…
ナレータ　　と、その時、野球部員の一人が血相を変えて走ってきた…そして、キャプテンにそれを告げると、一同の背筋が凍りついたのだった…
キャプテン　山岸らのタバコが現行犯で見つかって、警察に補導されただと！
三次幸太郎　あ、あのバカ野郎！
キャプテン　おい…待てよ、三次！
ナレータ　　三次は怒りに任せて、山岸たち警察署へと走った…
キャプテン　お前たちは…奴を追ってくれ。俺は、監督を呼んでくる！

犬茂正人	わかりました…
ナレータ	こうして、犬茂たちは、急いで三次を追いかけたのだった…

その４

ナレータ　そして、警察署に乗り込んだ三次は、山岸を見るやいなや彼をぶん殴った…
三次幸太郎　てめえっ…よくも、やってくれたな！
（それに対して、山岸も激高する）
山岸浩市　うんなろ…やりやがったな、てめえ！
警察官　こらっ…やめんか、お前ら！
（警察官が、二人の取っ組み合いを制する）
犬茂正人　はあ、はあ…やっと追いついたか…
ナレータ　と、犬茂らが、息を切らしながら署内に駆け込んできた…
犬茂正人　三次…気持ちはわかるが、これ以上、騒動を大きくするようなことはするな…
三次幸太郎　く、くそ…
ナレータ　と、その時、キャプテンと監督である古賀則男（こが　のりお）が到着した…
古賀則男　警察の皆様方…この度は、本当にご迷惑をおかけしました。全ては、監督である私の責任です。心より深くお詫び申し上げます…
（監督が、深く頭を下げる）
警察官　監督どの…これからは、もっと厳しくご指導願いますよ…
古賀則男　本当に、申し訳ありませんでした…
三次幸太郎　監督…
（三次が、真摯な眼差しで監督を見つめる）
古賀則男　さあ、帰るぞ…
犬茂正人　か、監督…俺たちの処分は…
古賀則男　今は余計な事は考えるな…行くぞ…
ナレータ　監督は、そう言うと、足早に警察署を出ようとした…と、その時、監督が、ふいにつまづき、転んでしまったのだった…
キャプテン　だ、大丈夫ですか…監督…
（その問いかけに、監督は小さくため息をつく）
古賀則男　どうやら、持病の緑内障が悪化してきているようじゃ…だんだん、目が霞んできて良く見えぬようになったわい…
山岸浩市　監督…緑内障だったのですか…
キャプテン　バカ野郎…練習をさぼって、フラフラしていたから、そんな事情すら知らなかったんだろうが…少しは反省しろ！
（キャプテンの目が潤む）
三次幸太郎　俺たちは、間違いなく謹慎処分を食らうだろう…そして、今年一杯は、もはや絶望的だ…
（三次が、目をそむけてうつむく）
ナレータ　そして、鯉昇大学付属高校野球部の処分は、三次の予想通り、１年間の出場停止処分と言う過酷なものとなった…当時のキャプテンたち、３年生はその時点で野球部を去る事になり、残った者たちも野球部を見捨てて他の部へと転籍していったのであった…
山岸浩市　今回は、本当に済まなかった…先輩たちに対しても、お前たちにも、そして監督にもな…
ナレータ　３年生たちのいなくなった野球部の部室で、山岸は自らの愚かさに痛感し、そして、悔いた…
犬茂正人　先輩が、言っていましたよ…俺たちも、見て見ぬふりをせず、もっとお前らを注意するべきだったと…
（山岸たちが、崩れ落ちる）
山岸浩市　本当にバカだった…俺は…
ナレータ　山岸たちは、大粒の涙を流して床を叩いた…と、その時、監督が静かに部室へ入ってきたのだった…
古賀則男　先輩たちが去った部室は、広く感じるかね…
（監督が、部室内を見渡す）

古賀則男　山岸は、やってはならない事をやってしまった。それは、人の夢を潰す行為で、とても許される事ではない…しかし、後悔するがゆえに、そのまま心を閉ざしては決してならないぞ。

山岸浩市　か、監督…

古賀則男　お前達が背負った十字架は、決して軽いものではないが、先輩たちの為にも、お前らは夢を受け継ぎ、それを成し遂げる強い心を持って、これからを臨まなければならないぞ…心してがんばるのじゃ…よいな…

山岸浩市　うっ…ううっ…

（山岸が、監督の言葉にうな垂れる）

三次幸太郎　無論、その覚悟はできております…見ていてください！

ナレータ　三次の瞳の奥に、炎が灯った…それは、先輩たちの無念を晴らす為でもあると同時に、こんな状況下でも自分たちを最後まで見捨てなかった監督に報いる為でもあったからだ…

（回想が終わる）

ナレータ　三次の回想を一緒に振り返っていた犬茂は、静かに目を開けて、部員たちに声を発した…

犬茂正人　みんな…もしかしたら、今日の試合を最後に、監督の目が失明するかもしれない…そうなったら、監督は辞任をすると言い出すと思うんだ…だから、今までに受けた監督からのご恩に報いる為にも、堂々と有終の美を飾ろうじゃないか…

三次幸太郎　百も承知だぜ…

ナレータ　こうして、鯉昇大学付属高校野球部たちは、固く、心を一つにしたのであった…

その５

ナレータ　　それから間もなくして、先掛高校野球部達が到着すると、粛々と交流試合が始まったのだった…
１回表、（攻撃）先掛高校vs鯉昇大学付属高校（守備）
馬万里蛮　　華々しく、先陣を切らせてもらうぜ！
（馬万里が、入念に素振りをしてから打席に向かう）
東屋大吉　　頼んだぞ！
（先掛高校野球部ベンチから歓声があがる）
犬茂正人　　さあ、しまっていくぞ！
ナレータ　　犬茂は、部員たちに発破をかけると、キャッチャーマスクを深くかぶってポジションに着いた…
三次幸太郎　俺たちの成長ぶりを存分に見て下さい…監督…
犬茂正人　　幸太郎…お前の力を持ってすれば、問題など何も無いぜ。さあ、来い！
ナレータ　　三次は大きく振りかぶって、第一球目を投げた…すると、ボールは、鋭くキャッチャーミットに突き刺さったのだった…
主審　　　　ストライーク！
馬万里蛮　　ぬう！
（その投球を目の当たりにした馬万里が、冷や汗をかく）
六井太　　　凄い速球だ…
東屋大吉　　上等だぜ…
（先掛高校野球部たちが、どよめく）
犬茂正人　　じゃあ、次は緩急の差を付けてやるか…
（三次が、第二球目を投げる）
ナレータ　　それに対して、馬万里は、鋭利に曲がるカーブをファールチップにした…
三次幸太郎　うまく、カットしやがったか…
（三次が、不敵な笑みを浮かべる）
犬茂正人　　幸太郎は、ただの速球派投手ではない…変化球も自在に操れる天才ピッチャーなのだ…さあ、次で止めをさしてやるぞ…
三次幸太郎　OK…
（三次が、第三球目を投げる）
馬万里蛮　　直球か…球速だけで、俺を抑えられると思うな！
ナレータ　　馬万里は、タイミングを合わせてバットを振った…しかし、ボールは急に失速して鋭く落下した…
（馬万里のバットが、空を切る）
主審　　　　ストライーク…バッターアウト！
東屋大吉　　ああ…な、何て落差のあるフォークだ…
（先掛高校野球部たちは、三次の実力に背筋が凍る）
三次幸太郎　さあ、ワンアウトだ…俺達のサクセスストーリーの始まりだぜ！
ナレータ　　三次は、そう声をあげ、部員たちの士気を高めた…
古賀則男　　ほほう…
（監督が、にっこりと微笑む）
猿渡匠　　　こっちも負けていられるか！
（猿渡が、勇み足で打席に入る）
犬茂正人　　どんどん行こうぜ…幸太郎…
三次幸太郎　任せておけ…
ナレータ　　三次は、第一球目を投げた…猿渡は、そのボールをミートさせようとしたが、ボールは急に失速したため、バットの芯でボールをとらえることができず、ファールチップとなった…
猿渡匠　　　チェンジアップだったか…

（猿渡が、額から汗を滲ませる）
三次幸太郎　そりゃあ！
（三次が、第二球目を投げる）
猿渡匠　よし…高めのストレートだ！
ナレータ　しかし、ボールは微妙に変化をしてバットをかすめた…
主審　ファール…
猿渡匠　今度は、スライダか…
（猿渡が、顔を歪ませる）
犬茂正人　うまく術中にはまってくれたぜ…
（犬茂が、サインを出す）
三次幸太郎　待っていました…
ナレータ　三次は、第三球目を投げた…すると、ボールは、目にもとまらぬスピードでキャッチャーミットに突き刺さったのだった…
主審　ストライーク…バッターアウト！
満場健　また、三振かよ…
ナレータ　先掛高校野球部たちのどよめきが、より大きくなった…

その６

出鬼杉ミチル　いかんな…ここは、何とか流れを変えていかないとな…
ナレータ　出鬼杉は、表情を硬くしながら打席へ向かった…
犬茂正人　ここは、一球外してみるか…
（三次が、サインの通りに、外角低めにボールを外す）
主審　ボール…
出鬼杉ミチル　スピードがあるので、思わず手を出したくなるが、俺には通用しないぜ…
（出鬼杉が、苦笑いする）
犬茂正人　さすがに引っ掛からないか…
ナレータ　犬茂は、緩急を付けるようサインを出した…
三次幸太郎　わかった…
（三次が、第二球目を投げる）
出鬼杉ミチル　この緩急の差か…二人がやられたのは…
（出鬼杉が、切れの良いカーブをカットする）
主審　ファール…
犬茂正人　カットしたか…だが、次でさらに緩急を付けてやるぜ…
ナレータ　犬茂は、容赦なくサインを送った…
三次幸太郎　よしっ…
（三次が、第三球目を投げる）
出鬼杉ミチル　速球だが、少し遅い…チェンジアップだな…
ナレータ　出鬼杉は、減速するタイミングを見計らってミートさせた…ボールは高く上がったが、３塁線を割ってフェンスに当たったのだった…
塁審　ファール…
三次幸太郎　やるな…
（三次が、不敵な笑みをこぼす）
三次幸太郎　だが、そう簡単には、打たせないぜ！
（三次が、第四球目を投げる）
出鬼杉ミチル　絶好球だ！
ナレータ　出鬼杉は、バットを思い切り振ってボールをミートさせた…
犬茂正人　な、何い！
ナレータ　犬茂は、マスクをはぎ取って立ち上がった…しかし、ボールは空高く舞い上がりすぎて失速を始めた…
三次幸太郎　センター！
山岸浩市　オーライ！
ナレータ　センターの山岸が、その詰まったボールを難なくとらえた。
審判　アウト！
出鬼杉ミチル　ちっ…少し、タイミングが遅れてしまったか…
ナレータ　出鬼杉は、舌を鳴らして顔を歪ませたのだった…

ナレータ　１回裏、（攻撃）鯉昇大学付属高校vs先掛高校（守備）
犬茂正人　向こうは三者凡退で意気消沈しているはずだ…その隙に、ガンガン攻めて行こうぜ！
（犬茂が、部員たちに対して声を張る）
東屋大吉　そう簡単に勢いに乗せてたまるかよ…三者凡退にされた仇を、返させてもらうぜ…
ナレータ　東屋は、そう言って表情を引き締めた…そして、鯉昇大学付属高校の１番バッターと２番バッターを難なく三振させたのであった…

東屋大吉　　　俺たちもお前らと同じような時期があった…だが、あくまでこれは勝負の世界だから、同情はしても手加減はしないぜ…

ナレータ　　　そして、東屋は、続く３番バッターも三球三振させ、見事に１回表のカリを返したのであった…

山岸浩市　　　くそっ…こっちも三者凡退かよ。

犬茂正人　　　すいません、監督…

古賀則男　　　まだ、１回が終わったばかりじゃから、焦る事はないぞ…目は見えなくなっても、お前達のがんばっている姿は、頭の中で生き生きしておるわい…

犬茂正人　　　えっ…

ナレータ　　　鯉昇大学付属高校野球部たちは、一斉に息をのんだ…

三次幸太郎　　ま、まさか…監督…

古賀則男　　　わしを気遣う必要はないぞ…これからは、お前たちがどれだけがんばるかなのじゃからな…（監督が、目を閉じたまま静かに笑う）

犬茂正人　　　か、監督…

ナレータ　　　犬茂は、目から溢れんばかりの涙をこぼしたのだった…

その７

ナレータ　２回表、（攻撃）先掛高校vs鯉昇大学付属高校（守備）

三次幸太郎　監督…俺たちは、本当に感謝しております。俺たちが立ち直れたのは、監督が最後まで俺達を見捨てずに、ずっと見守ってくれたからです。だから、俺たちはこの初陣を必ず勝ってみせます…
（三次が、東屋を睨む）

東屋大吉　望むところだぜ…
（東屋が、バットを強く握りしめる）

三次幸太郎　これが俺の生き様だ！

ナレータ　三次が、第一球目を投げた…すると、ボールは、勢い衰える事なくキャッチャーミットへ突き刺さった…

主審　ストライーク！

犬茂正人　いいぞ…ナイス・ピッチ！

ナレータ　犬茂は、三次を激励した…そして、彼は、東屋を凡打で打ち取ると、続くジョニー、不破を見事に三振させ、三者凡退としたのだった…

三次幸太郎　しかし、野球は本当に楽しいぜ…俺に取って、まさに野球は天職そのものだ！

ナレータ　三次は、マウンド上で野球ができる喜びを存分に味わっていた…

古賀則男　ほっほっほ…生き生きしておるのう…

ナレータ　監督の脳裏には、野球を心の底から楽しむ鯉昇大学付属高校野球部たちが、生き生きとプレーをする姿が浮かんでいたのであった…

ナレータ　２回裏、（攻撃）鯉昇大学付属高校vs先掛高校（守備）

山岸浩市　さあ、ここで真打ちの登場だぜ！

ナレータ　山岸は、気合い十分でバッターボックスに入った…

東屋大吉　鯉昇大学付属高校のスラッガーのお出ましか…
（東屋が、第一球目を投げる）

山岸浩市　もらったぜ！

ナレータ　山岸は、ボールを捕らえると、それを高く舞い上がらせた…

出鬼杉ミチル　むう！

ナレータ　出鬼杉は、マスクをはぎ取ってボールの行方を追った…ボールは、レフト方向へ飛んでいたが、途中で３塁線を割ってフェンスに当たった…

塁審　ファール…

東屋大吉　ふう…なるほど、恐れ入ったぜ…
（東屋が、胸を撫で下ろす）

三次幸太郎　山岸は、やっぱり天性のスラッガーだ…その山岸が、改心して猛練習の日々を送ったのだから、まさに鬼に金棒だぜ…
（三次が、腕組みをしながら呟く）

山岸浩市　さあ、来い…今度こそ、ホームランにしてやるぜ…

東屋大吉　まったく、自信過剰な奴だ…ぐうの音も出なくさせてやるぜ！

ナレータ　東屋は、第二球目を投げた…すると、ボールは、途中で鋭く変化し、大きく曲がった…

山岸浩市　ぬうっ！
（山岸が、スイングを途中で止める）

主審　ボール…

出鬼杉ミチル　選球眼も良さそうだな…こいつは、手強いぜ…

ナレータ　出鬼杉は、サインを出した…

東屋大吉　　　オーライ…
（東屋が、第三球目を投げる）
山岸浩市　　　さっきと同じボールか…
ナレータ　　　山岸は、バットを振るのを止めた…しかし、ボールの勢いは急に衰えたもの、大きくは曲がることはなく、キャッチャーミットへ収まった…
主審　　　　　ストライーク！
山岸浩市　　　チェンジアップか…計られたぜ…
（山岸が、唸る）
東屋大吉　　　さあ、次はこいつで、どうだ！
（東屋が、第四球目を投げる）
山岸浩市　　　これは、間違いなく２球目に投げてきたカーブ…もう、通用はしねえぞ！
ナレータ　　　山岸は、ボールを見送った…
主審　　　　　ボール…
東屋大吉　　　これで、カウント２－２か…
出鬼杉ミチル　そう、心配するな…もっと自分の投球に自信を持てよ…
ナレータ　　　出鬼杉は、東屋にボールを投げ返した…
東屋大吉　　　よし、これで勝負だ…
（東屋が、第五球目を投げる）
山岸浩市　　　低めの直球だな…頂きだぜ！
ナレータ　　　山岸は、そのボールをとらえようとしたが、微妙に変化した…
山岸浩市　　　チェ、チェンジアップ…
ナレータ　　　山岸は、タイミングを外されながらも、そのボールをとらえて弾き返した…
猿渡匠　　　　ヒットにさせてたまるか！
ナレータ　　　猿渡は、ライナーで飛んできた打球へ果敢に飛び着き、逆シングルでとらえた…
塁審　　　　　アウト！
山岸浩市　　　あ、あの当たりをとるとは…恐るべし、先高…
ナレータ　　　山岸は、猿渡のファインプレーに脱帽した…
出鬼杉ミチル　いい仕事だぜ、猿渡！
東屋大吉　　　助かったぜ…ありがとうな！
猿渡匠　　　　バックがしっかり守ってやるから、安心して投げろよ…キャプテン！
ナレータ　　　猿渡は、東屋に声を掛けながらボールを返した…そして、この後、東屋は、続く５番、６番バッターを難なく三球三振させ、失点を許すことなく、この回を終了させたのだった…

その８

ナレータ	５回表、（攻撃）先掛高校vs鯉昇大学付属高校（守備）
六井太	景気のいい奴を一本頼むぞ！
東屋大吉	おうよ！
ナレータ	東屋は、何回か素振りをした後、バッターボックスへと入った…
三次幸太郎	４番からか…
	（三次が、ロージンパックを捨てる）
三次幸太郎	最初は、こいつだ！
ナレータ	三次は、第一球目を投げた…すると、ボールは、唸りを上げながらキャッチャーミットへ景気よく収まった…
主審	ストライーク！
東屋大吉	ほんと、いい球だぜ…
	（東屋が、顔をしかめる）
犬茂正人	いいぞ…その調子だ！
ナレータ	犬茂が、声をかけながら三次に返球した…
三次幸太郎	次は、これをくらえっ！
	（三次が、第二球目を投げる）
東屋大吉	内角低めか…
ナレータ	東屋は、ボールの軌道を読んでバットを合わせていった…しかし、ボールは、彼のバットを通過して、キャッチャーミットに収まった。
主審	ストライク、ツー！
東屋大吉	くそ！
出鬼杉ミチル	あれなんだよな…通常、空振りする時は、ボールはバットの下を通過するが、ボールがバットの上を通過すると言うことは、ボールにそれだけ勢いがあると言うことになる。つまり、三次のボールは、初速から終速までスピードが落ちていないと言うことだ…
ナレータ	出鬼杉は、固唾を飲んで勝負の行方を見守った…
東屋大吉	恐るべし…だが、このままじゃ終わらないぜ…
ナレータ	東屋は、三次を睨みつけ、闘志を燃やした…
三次幸太郎	ふっ…だいぶ熱くなっているようだな…
東屋大吉	さあ、来い！
ナレータ	東屋は、鋭い表情でバットを構えた。と、次の瞬間、三次の第三球目が放たれた…
東屋大吉	うりゃあ！
ナレータ	東屋は、そのボールをフルスイングで応戦した…しかし、ボールは途中で球威を失い、変化してきた…
東屋大吉	ちっ…カーブか…
ナレータ	東屋は、途中でバットの軌道を変え、ボールをカットした…
塁審	ファール…
三次幸太郎	うまく、逃げやがったな…
	（三次が、眉をひそめる）
東屋大吉	あの速球から急に変化球を投げられたんじゃ、目がまったく追いつかないぜ…なんて、ピッチャーだ…
	（東屋が、大きくため息をつく）
犬茂正人	よし、次はこれでいくぞ…
三次幸太郎	了解…
	（三次が、第四球目を投げる）
東屋大吉	そう簡単に、惑わされてたまるかよ！
ナレータ	東屋は、フルスイングで応戦し、ボールを当てた…しかし、ボールは前には飛ばず、バックネットへ突き

刺さった。
主審　　　　ファール…
三次幸太郎　粘りやがるな…
（三次が、舌打ちする）
東屋大吉　　しかし、凄い球威だ…並みのバッターじゃ、到底打ち返せないぜ…
（東屋が、気合を入れて構え直す）
三次幸太郎　さあ、次でジ・エンドにしてやるぜ！
（三次が、第五球目を投げる）
東屋大吉　　さっきより少し球威がない…変化球か…
ナレータ　　東屋は、ミート打法でそのボールに臨んだ。すると、ボールは、彼の予想通り、変化してきた。
東屋大吉　　とらえたぜ…
（東屋が、そのボールを前方に打ち返す）
三次幸太郎　ぬうっ…
ナレータ　　三次は、ライナーで目の前に飛んで来たボールを真正面でキャッチした…
審判　　　　アウト！
東屋大吉　　くそっ…真正面かよ！
（東屋が、地面を思い切り蹴る）
東屋大吉　　しかし、次は絶対ホームラン打ってやるから、覚悟しとけよ…
三次幸太郎　ふっ…上等だ…
ナレータ　　三次は、ニヤリと笑った…

その９

ナレータ　試合は、投手戦の模様を見せ、両校とも無得点のままの状態が続いていった…そして、８回まで、縺れていったのであった…
８回表、（攻撃）先掛高校vs鯉昇大学付属高校（守備）

東屋大吉　今度こそ…打つ！
（東屋が、バットを強く握りしめる）

三次幸太郎　初勝利をあげるまでは、気を抜くなど毛頭ないぜ…

ナレータ　三次は、大きく振りかぶって、第一球目を投げた…

東屋大吉　おらあ！

ナレータ　東屋は、雄叫びをあげながらボールに食らいつこうとしたが、ボールは減速して落下した為、大きく空振りをして転倒した…

主審　ストライーク！

六井太　おい、大丈夫か…もっと落ち着いていけ！
（六井が、東屋に発破をかける）

東屋大吉　く、くそ…
（東屋が、体を起こして立ち上がる）

三次幸太郎　ぼうっーとしていると、そのうち三振するぜ！

東屋大吉　そうは、いくか！

ナレータ　三次の第二球目に対し、東屋は、いとも簡単に見逃してしまった…

主審　ストライーク、ツー！

六井太　い、いかん…

東屋大吉　おのれ…
（東屋が、歯ぎしりする）

三次幸太郎　さあ、２－０で追い込んだぜ…これで、止めだ！
（三次が、第三球目を投げる）

東屋大吉　このやろう！

ナレータ　東屋は、フルスイングでボールをとらえようとしたが、ボールは急に失速した…

東屋大吉　しまった…フォークだったか…

ナレータ　東屋は、そのボールをぎりぎりのところでカットし、何とかファールで逃げることができた…

東屋大吉　ふう、あぶねえ…
（東屋が、袖で汗を拭う）

三次幸太郎　うまく、カットしやがったな…しかし、次はこれでどうだ…
（三次が、第四球目を投げる）

東屋大吉　今度こそ…

ナレータ　東屋は、そのボールをとらえようとしたが、ボールは変化し、沈みながら横へ反れようとした。

東屋大吉　ぬうおっ！

ナレータ　東屋は、そのカーブもカットし、ファールとした。

三次幸太郎　さすがに、やるな…
（三次が、不敵な笑みを浮かべる）

ナレータ　こうして、東屋は、粘り強いバッティングでファールの山を築き、延々と彼らの勝負が続いていったのだった…

三次幸太郎　ほんとに、しつこい野郎だぜ…

ナレータ　ついに、三次が、息を切らし始めた。

犬茂正人　これで、２０球目か…しかし、こんなところで根負けするなよ…
（犬茂が、キャッチャーミットを構える）

三次幸太郎　これで、最後だ！
ナレータ　三次は、東屋に対して、渾身の一球は放った…
東屋大吉　もらった！
ナレータ　東屋は、三次の放ったボールを、ついにとらえた…そして、白球をぐんぐんと勢い良く遠くへと飛ばしたのであった…
審判　ホームラン！
六井太　よっしゃー…ついに、待望の1点を奪取だ！
ナレータ　先掛高校野球部たちは、その景気のいい当たり見て、一斉に沸いた…
三次幸太郎　くそ、最後の土壇場で持ってかれたか…どうやら、まだまだ俺も修行が足りないようだぜ…
ナレータ　そして、試合は東屋のソロホームランが、今回の最初で最後の得点となり、１－０で、先掛高校が鯉昇大学付属高校をくだしたのであった…
犬茂正人　今日は、本当にありがとう…いい試合だったよ…
三次幸太郎　今度は、甲子園で逢おうな…その変わり、次は負けないぜ！
出鬼杉ミチル　ああ…俺達も今よりも、もっと努力して、臨ませてもらうよ…
東屋大吉　本当に、いいチームだな…投・打が揃っているし、なんと言ってもチームワークがあるからな…必ず、甲子園でまた戦おうぜ！
ナレータ　両校は、お互いの健闘を讃え合った…
古賀則男　よくやったぞ、お前達…今日の日は、お前達が巣立って行く最高の日となったわい…これからも困難にぶつかることはあるじゃろうが、めげずにがんばるのじゃぞ…
ナレータ　監督は、ベンチに座ったまま、心の奥底で鯉昇大学付属高校野球部たちに声を掛けた…
犬茂正人　監督…
ナレータ　その声が届いたのか、犬茂は監督の方に向き直った…
三次幸太郎　お前も聞こえたか、監督の声が…
ナレータ　すると、鯉昇大学付属高校野球部たちが、犬茂に続いて向き直った…
犬茂正人　監督…数々のご指導、本当にありがとうございました…
ナレータ　そして、部員たちは、心より感謝の気持ちを抱きながら、監督に対して、大きく一礼したのだった…

その１

ナレータ　　　そして、再び地区予選第一回戦の日が訪れたのであった…
東屋大吉　　　また、やってきたな…俺たちの夏が…
（先掛高校野球部たちが、ロッカールームで支度をする）
東屋大吉　　　あれから１年が経つのか…時間の流れは、早いもんだぜ…
ナレータ　　　東屋は、感慨深い気持ちで一杯になった。
六井太　　　　しかし、懐かしいよね…確か、あの時は、名門・赤葉高校にボロ負けしたんだっけ…
東屋大吉　　　余計なことを言うな…今度は、地区予選なんて軽く突破するつもりで臨んでいるんだ。前回みたいな失敗は、もう繰り返すつもりはないぜ！
猿渡匠　　　　俺たちは、あの時の雪辱を晴らすため、血の滲むような練習をしてきたんだ…そう簡単に負けてたまるかよ。
出鬼杉ミチル　その意気だぜ…猿渡…
（出鬼杉が、小さく笑う）
満場健　　　　しかし、初戦の相手は大林高校（おおばやしこうこう）か…今年は、例の一年生が投げるらしいぜ…
不破光一　　　江田川琢磨（えだがわ　たくま）のことか…噂だと、上級生のピッチャーたちを抑えて、いきなりエースを獲得した男らしいからな…
馬万里蛮　　　こりゃあ…意外なダークフォースかもしれないぜ…
（馬万里が、少し不安になる）
J・ハワード　上等だぜ…どんな実力者だろうが、どこからでもかかって来いってものだ…
出鬼杉ミチル　その通りだ…俺たちは、甲子園を目標にしているんだからな…
東屋大吉　　　気合いは十分、問題なしだ…俺たちは、絶対に負けん！
ナレータ　　　東屋が、そう話すと、先掛高校野球部たちは、景気づけに声を張り上げたのであった…

ナレータ　　　１回の表、（攻撃）先掛高校vs大林高校（守備）
小林大　　　　相手は、去年の予選で１回戦を敗退した先掛高校だ…そう硬くならないで、リラックスして投げろ…
ナレータ　　　大林高校のキャプテンでキャッチャーの小林大（こばやし　まさる）は、エースの江田川に、そう告げた…
江田川琢磨　　お気づかい、ありがとうございます…
（江田川が小さく頷く）
東屋大吉　　　さあ…どんどん攻めていけよ！
馬万里蛮　　　オーライ！
（馬万里が、勇んで打席に入る）
主審　　　　　プレイボール！
ナレータ　　　と、主審の合図と同時に、江田川は第一球目を投げてきた…
馬万里蛮　　　せっかちな野郎だぜ…
ナレータ　　　馬万里が、そう言い終わるやいなや、ボールはキャッチャーミットに勢いよく突き刺さった…
主審　　　　　ストライーク！
（馬万里が、その球速に絶句する）
東屋大吉　　　むう…速い…
（先掛高校野球部たちが、思わず唸る）
小林大　　　　どうやら、お前の速球に驚いたようだぜ…
（小林が、小さく笑いながら、返球する）
江田川琢磨　　俺の中には、妥協の文字はないぜ…
（江田川琢磨が、第二球目を投げる）

馬万里蛮	今度は、内角できたか…
ナレータ	馬万里は、それをとらえようとしたが、空振りしてしまった…
主審	ストライク、ツー！
馬万里蛮	くっ…くそ…
小林大	ふっふっふ…うちのエースの球は、そう簡単には打てないぜ…
	（小林が、江田川にサインを出す）
江田川琢磨	わかりました…
	（江田川が、第三球目を投げる）
馬万里蛮	舐めるな…一年坊主が！
ナレータ	馬万里が、そのボールを打とうとしたが、急に減速をしたため、大きく空振りしてしまったのだった…
主審	ストライーク、バッターアウト！
馬万里蛮	チェ…チェンジアップだと…
ナレータ	馬万里は、目を大きく見開いたのであった…

その２

小林大　　　いいぞ…その調子だ！
（小林が、江田川を激励する）
猿渡匠　　　あの速球に加えて、チェンジアップを投げるのか…引っ掛けてゴロにならないようにしないとな…
（猿渡が、静かにバッターボックスに入る）
小林大　　　さてと…どう料理するかな…
（江田川が、第一球目を投げる）
猿渡匠　　　確かに、速いな…
ナレータ　　猿渡は、そのボールをとらえた…しかし、ボールは前に飛ばず、バックネットへ突き刺さったのだった…
主審　　　　ファール…
猿渡匠　　　くそっ…振り遅れたか…
（猿渡が、舌打ちする）
小林大　　　さあ…次はこれでいくか…
江田川琢磨　はい…
（江田川が、第二球目を投げる）
猿渡匠　　　さっきよりも球速はない…もらった…
ナレータ　　猿渡は、そのボールをとらえようとしたが減速をしたため、バットの芯を外してしまい、打球はボテボテのピッチャーゴロとなった…
猿渡匠　　　し…しまった…
ナレータ　　猿渡は、必死に走ったが、間に合うことはなく、アウトになってしまった…
出鬼杉ミチル　とても、ルーキーが投げる球とは思えないぜ…さすがに、上級生を抑えてエースになっただけはあるな…
（出鬼杉の表情が、険しくなる）
小林大　　　出鬼杉のおでましか…
ナレータ　　小林は、出鬼杉の登場に警戒心を抱いた…
出鬼杉ミチル　よし…来い！
（出鬼杉が、勇ましくバットを構える）
江田川琢磨　行きますよ…
（江田川が、第一球目を投げる）
出鬼杉ミチル　スローボール…いや、カーブか！
ナレータ　　出鬼杉は、タイミングを合わせて打とうとした…しかし、思った以上に曲がったため、空振りをしてしまった…
主審　　　　ストライーク！
出鬼杉ミチル　カーブも投げられるのか…しかも、なんて曲がり方だ…
（出鬼杉が、眉間にしわを寄せる）
小林大　　　よし…次は、速球で勝負するぞ！
江田川琢磨　がんばります…
（江田川が、第二球目を投げる）
出鬼杉ミチル　速球で、勝負に来たな…
ナレータ　　出鬼杉は、そのボールをとらえた…しかし、ボールはファールラインを割って、点々と転がっていった…
主審　　　　ファール…
出鬼杉ミチル　むう…外れたか…
（出鬼杉が、歯ぎしりする）
江田川琢磨　さすが、出鬼杉さんだぜ…
（江田川が、深くため息をつく）

小林大　　　　うむ…ならば、次はこいつでいくか…
江田川琢磨　　はい…キャプテン…
（江田川が、第三球目を投げる）
出鬼杉ミチル　うっ…
ナレータ　　　出鬼杉は、そのボールをとらえようとしたが、速球ではないことを悟った…しかし、途中でスイングを止めることはできず、ミートポイントを外してしまったのだった…そのため、ボールは、彼を冷やかすかのように点々と三塁方向へ転がっていったのであった…
小林大　　　　サード！
ナレータ　　　小林の指示に、大林高校のサードはなんなく裁いて、ファーストに送球した…
塁審　　　　　スリーアウト、チェンジ！
出鬼杉ミチル　や、やられた…
ナレータ　　　江田川のチェンジアップに敗れ去った出鬼杉は、がっくりと肩を落としたのだった…

その３

ナレータ　　１回の裏、（攻撃）大林高校vs先掛高校（守備）
東屋大吉　　よし…俺も、奴らを三者凡退にしてやるぜ…
ナレータ　　東屋は、ロージンパックを投げ捨てた…
出鬼杉ミチル　そうだぜ…お前のピッチングを、みんなに見せてやれ…
（出鬼杉の目が光る）
東屋大吉　　任せておけ！
ナレータ　　東屋は、大きく振りかぶって、第一球目を投げた…
主審　　ストライーク…！
小林大　　速いな…先高に、こんなピッチャーがいたとは…
ナレータ　　想定外のことに、小林は躊躇した…
東屋大吉　　おりゃあ！
ナレータ　　東屋は、第二球目を投げた…それに対して、大林高校の１番バッターは、大きく空振りした…
主審　　ストライク、ツー！
小林大　　いかん…完全に振り遅れている…
（小林が、思わず握り拳を作る）
主審　　ストライーク、バッターアウト！
ナレータ　　東屋は、あっさりと１番バッターを料理したのであった…
出鬼杉ミチル　いいぞ…絶好調だぜ、東屋！
（出鬼杉が、激励しながら返球する）
東屋大吉　　よし、この調子で三振の山を築いてやるぜ！
ナレータ　　こうして、東屋の速球を前に、大林高校もあっさり三者凡退にさせられてしまったのであった…

ナレータ　　２回の表、（攻撃）先掛高校vs大林高校（守備）
東屋大吉　　一発かましてやるぜ！
ナレータ　　東屋は、大きくスイングしてから打席に入った…
小林大　　怯むな…思いっきりこい…
江田川琢磨　　はい…
ナレータ　　江田川は、大きく振りかぶって、第一球目を投げた…ボールは、気持ち良く勢いに乗って、キャッチャーミットに突き刺さった…
主審　　ストライーク！
東屋大吉　　いい球だぜ、ちきしょう…
（東屋が、バットを１回転させてから構え直す）
小林大　　緩急の差をつけていくか…
江田川琢磨　　任せてください…
（江田川が、第二球目を投げる）
東屋大吉　　カーブか…
ナレータ　　東屋は、タイミングを合わせてバットを振った…しかし、思った以上に曲がったため、ミートポイントを外した…そのため、ボールは前に飛ばずバックネットに突き刺さった…
主審　　ファール…
東屋大吉　　もの凄い曲がり方をしやがったぜ…
（東屋が、バットを強く握りしめる）
小林大　　よし…チェンジアップで引っ掛けてやる…
江田川琢磨　　了解です…

（江田川が、第三球目を投げる）

東屋大吉　来たな…お得意のチェンジアップが！

ナレータ　東屋は、そのボールをとらえた…しかし、打球はファールラインを割って転がっていった…

主審　ファール…

東屋大吉　なんて、初速との落差が激しいチェンジアップだ…これじゃ、フォークに近いぜ…

（東屋が、表情を引き締めてバットを構え直す）

小林大　ふっふっふ…江田川の変化球は、これだけじゃないんだぜ…

ナレータ　小林大、不敵な笑みと共にサインを出した…

（江田川が、第四球目を投げる）

東屋大吉　速球できたか！

ナレータ　東屋は、そのボールをとらえようとした…が、バットの手前で微妙な変化をしてきた…

東屋大吉　くう…

ナレータ　東屋は、そのボールをバットの端に当ててしまったため、打球はゴロとなってファーストへ転がっていった…そして、ボールはなんなく大林高校のファーストに処理され、１塁のベースカバーに入った江田川に送球された…

塁審　アウト！

東屋大吉　最後の球は、スライダか…１年生で、これだけ変化球を操れるとは…

（東屋が、冷や汗をかく）

小林大　よくやったぜ…江田川！

ナレータ　小林は、先掛高校４番を凡打にした江田川を激励した…そして、江田川は、続くジョニーと不破も凡打に終わらせ、得点を許さなかったのであった…

その４

ナレータ　２回の裏、（攻撃）大林高校vs先掛高校（守備）
東屋大吉　この回は、４番の小林からか…
ナレータ　東屋は、バッターボックスに向かってくる一人の巨漢を見つめた…
出鬼杉ミチル　キャプテンの小林は、力のあるバッターだ…気をつけろよ…
（出鬼杉が、東屋にアイコンタクトする）
小林大　このピッチャーは、なかなか侮れないからな…序盤で、先制攻撃を加えておきたいとこだな…
ナレータ　小林は、のっしのっしと打席に入った…
出鬼杉ミチル　最初は、念のため様子を見るか…
東屋大吉　OK…
ナレータ　東屋は、第一球目を投げた…ボールは、ややストライクゾーンを外れて、キャッチャーミットに収まった…
主審　ボール…
東屋大吉　どうやら、選球眼も良さそうだな…
（東屋が、冷静に出鬼杉の返球を受ける）
小林大　どうした…怖気づいたのか…
ナレータ　小林は、目をギラギラさせた…
東屋大吉　ならば、望み通り勝負をしてやるぜ！
（東屋が、第二球目を投げる）
小林大　そうりゃあ！
ナレータ　小林は、そのボールをとらえてはじき返したが、ボールは高く打ちあがって、１塁側の観客席に飛び込んだ…
主審　ファール…
小林大　ちっ…やや振り遅れたか…
（小林大が、軽く舌打ちする）
出鬼杉ミチル　よし…次は、カーブでいくぞ…
東屋大吉　オーライ…
（東屋が、第三球目を投げる）
小林大　むう…スローボールか？
ナレータ　小林は、タイミングを合わせて打とうとしたが、手元でボールの軌道が変わり、空振りしてしまった…
主審　ストライク、ツー！
小林大　お、おのれ…
（小林が、悔しがる）
出鬼杉ミチル　どうやら、変化球を打つのは苦手そうだな…ならば、もういっちょうカーブで攻めてみるか…
東屋大吉　続けてかよ…
ナレータ　東屋は、少し腑に落ちなかったが、要求通りに第四球目を投げた…
小林大　また、カーブか…ここは、カットさせてもらうぜ…
ナレータ　小林は、そのボールをカットし、ファールにした…
東屋大吉　逃げたな…小林…
（東屋が、むっとする）
出鬼杉ミチル　やはり、カーブは苦手のようだぜ…ここは、もう１回投げてみるか…
東屋大吉　またかよ…
ナレータ　ぶつぶつ文句を言いながら、東屋は第五球目を投げた…
小林大　くそっ…また、投げてきやがった！
ナレータ　例の如く、小林は、そのボールをカットした…

主審　ファール…
小林大　しかし、なんとなく要領がつかめてきたぜ…
（小林が、ニヤリと笑う）
出鬼杉ミチル　ここで、緩急の差をつけてやるか、しかも…
（出鬼杉が、冷静にサインを出す）
東屋大吉　むう…
ナレータ　東屋が、第六球目を投げた…すると、ボールは、風を切ってキャッチャーミットへ向かってきた…
小林大　よし、もらった！
ナレータ　小林は、待ちに待った速球に対して果敢にフルスイングした…しかし、その速球はストライクゾーンを外れるボール球だったため、彼は大きく空振りしてしまったのだった…
主審　ストライーク、バッターアウト！
小林大　しまった…今のは、完全にボールだったぜ…
東屋大吉　よし…大林の大黒柱を退治してやったぜ！
ナレータ　精神的に安定した東屋は、続く５番、６番バッターをなんなく三球三振させたのであった…

その５

ナレータ　そして、試合は投手戦の模様を呈してきた…両校のピッチャーの力投のおかげで、お互い点を許さず、膠着状態となったまま、とうとう９回にまでもつれ込んだのであった…
９回の表、（攻撃）先掛高校vs大林高校（守備）
平間浩　イエーイ！
主審　ストライク、バッターアウト！
ナレータ　平間は、あえなく三振した…
東屋大吉　ああ…これで、ツーアウトに追い込まれてしまったぞ…
（東屋が、頭を抱える）
六井太　よーし…こうなったら、何が何でも打ってやる！
ナレータ　六井は、ブンブンとバットを振り回しながら打席に向かった…
東屋大吉　今日の試合、むっちぃーも全然当たっていないからな…こりゃあ、延長戦にもつれこむな…
（東屋が、ため息をつく）
出鬼杉ミチル　おい、東屋…味方の力を信じなくて、どうする？
東屋大吉　だって…
出鬼杉ミチル　ふっ…六井は、きっとやってくれるさ…何せ、９番バッターにまで降格されたから、悔しかったんだろうな…俺たちが見ていないところで、散々素振りをしていたようだぜ…
東屋大吉　えっ…
（東屋が、出鬼杉の言葉に、はっとする）
六井太　見てろ…最後は、先高が絶対に勝つんだ！
（六井が、バットを強く握りしめる）
小林大　出たな、この百貫デブめ…あっさり返り討ちにしてやる…
（江田川が、大きく振りかぶって、第一球目を投げる）
六井太　うおおー！
ナレータ　六井は、そのボールを見事にとらえて、はじき返した…
小林大　なっ…
ナレータ　小林は、キャッチャーマスクをはぎ取って、ボールの行方を追った…すると、ボールは、ライト前にポトリと落ちたではないか…
猿渡匠　やったぜ…ついに、待望のヒットが出たぞ！
ナレータ　先掛高校野球部たちは、大いに盛り上がった…
東屋大吉　お前を疑って、本当にすまなかった…サンキュー、むっちぃー！
ナレータ　東屋は、１塁に出塁した六井に大きく手を振った。
出鬼杉ミチル　しかし、このチャンスは確実にものにしないといかんな…鈍足の六井だと、盗塁なんかさせられんし…かくなる上は、代走を送るか…
東屋大吉　そのようだな…出番だぜ、細井！
細井丞　わかりました…
ナレータ　こうして、先掛高校は、六井をベンチへ下がらせて、細井に交替させたのであった…
小林大　なんだあ…あのひょろ長い、アンガールズの田中みたいな奴は？
ナレータ　小林は、細井のなんとも言えない風貌に小さく吹き出した…
東屋大吉　うちの細井を舐めたら、とんでもない目にあうぜ…
（東屋が、不敵な笑みを浮かべる）
馬万里蛮　さあ、俺も続くぜ！
（馬万里が、力強くバッターボックスに入る）
小林大　まあ…盗塁だけは、警戒したほうがよさそうだな…
江田川琢磨　了解です…

ナレータ	江田川は、第一球目を投げた…と、その瞬間、細井丞はダッシュした…
小林大	いきなり、盗塁だと…舐めるな！
ナレータ	小林は、江田川の投げたボールを取るやいなや、間髪を入れずにセカンドへ送球した…
細井丞	折角のチャンスを潰してなるものか！
ナレータ	細井は、ヘッドスライディングし、ボールがセカンドに到達する前に、ベースへ滑り込んだのであった…

その６

塁審	セーフ…
東屋大吉	やったぜ…ナイスランだ、細井！
	（先掛高校野球部たちが、細井の気迫に満ちた走りに、大いに沸く）
細井丞	どんなもんだい…
小林大	バ…バカな…
江田川琢磨	キャプテンの強肩を持ってしても、刺しきれないだと…
	（大林高校野球部たちが、青ざめる）
馬万里蛮	動揺しているな…こりゃ、投球ミスが出るかもしれないぜ…
小林大	いかん…あれだけの走力を持っているんじゃ、３塁までいかれるな…
	（小林が、歯ぎしりする）
江田川琢磨	落ち着け…結局のところ、このバッターを打ち取れば、終わりなんだ…
ナレータ	江田川は、必死に自分へそう言い聞かせた…
細井丞	リー、リー、リー…
ナレータ	細井は、大きくリードを取り始めた…
馬万里蛮	おい、おい…いくらなんでも、リード取りすぎじゃないのかよ…
	（細井のリードの取り方に、馬万里は心の中で汗をかく）
江田川琢磨	くっ…
ナレータ	江田川は、思わず振り返って、セカンドへ送球した…
細井丞	おっと、どっこい…
	（細井が、なんなくセカンドへ滑り込む）
塁審	セーフ…
江田川琢磨	うぬ…
ナレータ	江田川は、細井を刺しきれないことに苛立った…
小林大	ランナーを気にしすぎて、余計な体力を使うな…お前は、このバッターを打ち取ることに専念しろ…
ナレータ	小林は、ボスンとグラブを叩いてみせた…
江田川琢磨	す…すみません…
	（江田川が、小さく頷く）
江田川琢磨	そうだ…俺は、俺のピッチングをするまでだ…
ナレータ	江田川は、第二球目を投げたが、失投してしまったことに気付いた…
江田川琢磨	しまった…すっぽ抜けた！
馬万里蛮	もらったぜ！
ナレータ	馬万里は、その失投に対してフルスイングで臨んだ…そして、そのボールはあえなくとらえられて、ライト方向にはじき返したのだった…
東屋大吉	よっしゃー…大金星だぜ、馬万里！
	（先掛高校野球部ベンチが、大いに盛り上がる）
馬万里蛮	２塁までは無理か…
ナレータ	馬万里は、１塁まで到達すると走るのを止めた…
小林大	おのれ…
ナレータ	と、その時、小林は、細井が３塁を通過して、ホームに向かってくることに気がついた…
小林大	いかん、バックホームだ！
	（小林が、大きく雄叫びをあげる）
細井丞	一気に点を取ってやる…
ナレータ	細井は、躊躇することなく、ホームを目指した。大林高校のライトは、ボールを取るやいなや、ホームを目がけて投げ返した…

小林大　　　　そう簡単に、点をやれるか！
ナレータ　　　しかし、細井はもう目の前まで迫っていた…
東屋大吉　　　突っ込め！
　　　　　　　（東屋の声が、こだまする）
細井丞　　　　もらった！
ナレータ　　　細井は、果敢にヘッドスライディングした…
小林大　　　　くそったれ！
ナレータ　　　小林は、少し反れたボールをさっと取ると、すぐさま細井にタッチしようとした…が、既に彼はホームベースをタッチしていた…
主審　　　　　セーフ…
六井太　　　　やった…ついに、１点を取ったぞ！
　　　　　　　（先掛高校野球部たちが、細井の力走に万歳三唱する）
平間浩　　　　でかした…今日のヒーローインタビューは、お前で決まりだぜ！
不破光一　　　ねえよ…ヒーローインタビューなんて！
　　　　　　　（不破が、この状況の最中、的確につっこみを入れる）
出鬼杉ミチル　接戦の時は、やっぱり足を使った野球が有効だな…
小林大　　　　そ、そんな…
　　　　　　　（小林が、へなへなと腰から崩れる）
江田川琢磨　　完全に、俺のミスのせいだ…
ナレータ　　　江田川は、マウンド上で、己の精神的な脆さに後悔したのだった…
　　　　　　　そして、その後、続く猿渡をセンターフライに打ち取った大林高校は、最終回を１点で抑えた…しかし、その裏で、東屋の絶好調のピッチングに、あえなく三者連続三振をした大林高校は、１－０で敗れ去ったのであった…
主審　　　　　整列！
　　　　　　　（両校が、びしっと整列する）
主審　　　　　礼…
両校　　　　　ありがとうございました！
ナレータ　　　挨拶が終わると、江田川が出鬼杉に近寄ってきた…
江田川琢磨　　今日は、ありがとうございます…ほんとに、いい勉強になりました…
出鬼杉ミチル　うむ…君は、まだ１年生なんだから、これからもっと練習して、いい選手になれよ…
江田川琢磨　　はい！
　　　　　　　（江田川が、深く頭を下げる）
小林大　　　　今日は、完全にやられてしまったな…だが、こんないいチームに負けたんじゃ悔いはないぜ…ありがとう、先高…
東屋大吉　　　こちらこそ、いい試合をありがとう…
　　　　　　　（東屋が、笑顔で応える）
小林大　　　　がんばって、地区予選を突破しろよ…
東屋大吉　　　ああ…約束するよ…
ナレータ　　　両校の選手たちは、大きく笑い合ったのだった…

その１

ナレータ　その後、先掛高校野球部の勢いは止まることなく、順調に勝ち進んでいった…そして、ついに地区予選決勝の大舞台にまでたどり着いたのであった…

六井太　何だか、夢みたいだね…僕らが、決勝までこられるなんて…

東屋大吉　何を言っている…それだけ俺たちのレベルが上がったってことだよ。ここまで来て、呑気なことを抜かすな！

（ロッカールームで、東屋が苛立つ）

不破光一　しかし、びっくりしたよな…あの実力校の赤葉高校が、準決勝で敗退するとは思わなかった…

東屋大吉　まったくだぜ…折角、一年前の雪辱を晴らしてやろうと思ったのに、俺たちと戦う前に消えちまうんだからな…

ナレータ　そう愚痴ると、さらに彼は続けた。

東屋大吉　きっと、がっくりきているんだと思ってさ、慰めてやろうと藤谷の奴に電話したら、「わりぃな、負けちゃったよ…てへっ」だぜ…今、思い出しても超ムカツク！

出鬼杉ミチル　おい、おい…仕方ないだろ…第一、赤葉高校を打ち負かしたところは、もう一つの名門校である実門高校（みかどこうこう）なんだからさ。

猿渡匠　それに、実門高校と言えば、今年もいい選手が揃っているらしいからな…中でも、双頭竜（ダブルドラゴン）との異名を持つ双子の滝兄弟は、今年の地区予選の成績が打率１０割だからな…

馬万里蛮　要するに全打席、全てホームランかヒットを打っているわけか…

（馬万里が、息を飲む）

細井丞　さらに、三年生のエース・変木幻（へんき　げん）も侮れないピッチャーですよ。オーバースローとアンダースローを使い分けるとか…

満場健　マジかよ…そんなのありえねえぞ…

（満場が、眉を吊り上げる）

東屋大吉　ふっ…何だか、燃えて来たぜ…

ナレータ　その意気込みに、六井は大きくため息をつく。

六井太　ほんと、東屋くんは暑苦しい奴と言うか、むさ苦しいと言うのか…

東屋大吉　うるさい…男にとって大事なものは、ハートだろうが！

J・ハワード　ははは…東屋の言う通りだぜ…強敵だからこそ、倒しがいがあるってものだからな！

ナレータ　東屋とジョニーは、互いに見合わせてハイタッチをした…

平間浩　よっ…さすが、都会っ子！

不破光一　それを言うなら、江戸っ子だろうが！

東屋大吉　とにかく、ここまで来たんだから、やるっきゃない。気合入れて、がんばるぞ…いいな！

全員　おおー！

ナレータ　先掛高校野球部たちは、心をひとつにし、決勝戦と言う大舞台に臨んだのであった…

ナレータ　１回の表、（攻撃）先掛高校vs実門高校（守備）

馬万里蛮　景気よくやらせてもらうぜ！

東屋大吉　よし、その意気だ！

ナレータ　先掛高校ベンチから、大きな歓声があがった…

変木幻　さてと…軽くあしらってやるか…

（変木が、小さく笑う）

馬万里蛮　来い！

（馬万里が、力強くバットを構える）

変木幻　それじゃ、遠慮なく…

ナレータ　変木は、大きく振りかぶって、第一球目を投げた…ボールは、スピードに乗ってキャッチャーミットに突き刺さった…

主審　ストライーク！

馬万里蛮　さすが、実門のエースの球だぜ…

（馬万里が、袖で汗を拭う）

変木幻　ふんっ…

ナレータ　変木は、躊躇することなく、第二球目を投げた…すると、ボールは、途中で変化し、曲がって来た…

馬万里蛮　カーブか…

ナレータ　馬万里は、タイミングを合わずことができす、空振りしてしまった…

主審　ストライク、ツー！

馬万里蛮　くっそ…

（馬万里が、バットを握り直す）

変木幻　さあ、最後は、こいつだ！

（変木が、第三球目を投げる）

馬万里蛮　うっ…目がついていけない…

ナレータ　緩急の差にやられた馬万里は、大きく三振した…

主審　ストライーク、バッターアウト！

馬万里蛮　やられた…

ナレータ　馬万里は、思わず唸った…

その２

猿渡匠　緩急の差は、かなりありそうな感じだったな…
（猿渡が、静かにバッターボックスに入る）
変木幻　最初は、こいつでどうだ…
（変木が、第一球目を投げる）
猿渡匠　最初は、速球か…
ナレータ　猿渡は、そのボールをかすらせて、バックネットへ運んだ…
主審　ファール…
変木幻　ほう…俺の速球についてきたか…
（変木が、コリコリと頭をかく）
変木幻　ならば、次はこれだぜ…
（変木が、第二球目を投げる）
猿渡匠　続けて速球かよ…
ナレータ　猿渡は、そのボールをとらえようとしたが、微妙に変化したため、ミートポイントを外してしまった。そして、打ち損ねたボールは、再びバックネットへ突き刺さったのであった…
主審　ファール…
猿渡匠　スライダだったのか…しくじったぜ…
（猿渡が、小さく舌打ちする）
変木幻　いくぜ…先高の２番手…
（変木が、第三球目を投げる）
猿渡匠　スローボール…いや、カーブか…
ナレータ　猿渡は、そのカーブを打とうとしたが、思った以上に曲がったため、空振りしてしまった…
主審　ストライーク、バッターアウト！
猿渡匠　な、なんて曲がり方だ…
（猿渡が、目を丸くして驚く）
東屋大吉　ミッチー。雰囲気を変えるために、一発かまして来い！
出鬼杉ミチル　言われなくても、わかっているぜ…
（出鬼杉が、軽くスイングする）
出鬼杉ミチル　ここは、先輩の俺が手本を見せないといけないな…
（出鬼杉が、落ち着いた表情で打席に入る）
変木幻　奴の登場か…
ナレータ　変木は、大きく振りかぶって、第一球目を投げた…
出鬼杉ミチル　速球…いや、スライダだな…
ナレータ　出鬼杉は、変化のタイミングに合わせてバットを振った…しかし、ボールは前に飛ばず、バックネットに突き刺さった…
主審　ファール…
変木幻　さすがにやるな…
（変木が、ニヤニヤしながら返球を受ける）
変木幻　次は、これだぜ！
（変木が、第二球目を投げる）
出鬼杉ミチル　むう…カーブだな…
ナレータ　出鬼杉は、そのカーブをとらえようとしたが、鋭利な角度で曲がってきたため、空振りをした…
主審　ストライク、ツー！
出鬼杉ミチル　ぬう…恐ろしい角度だぜ…
ナレータ　出鬼杉は、ほぼ直角に曲がってきたカーブに驚嘆した…

変木幻　ふっ…これぐらいで、驚かれても困るぜ…
（変木が、不敵な笑みを浮かべる）

出鬼杉ミチル　次は打つ！
（出鬼杉が、表情を引き締める）

変木幻　さあ、これを食らえ！

ナレータ　変木は、第三球目を投げようと構え腕を振り抜こうとした時、出鬼杉は、ありえない光景を目の当たりにした。

出鬼杉ミチル　なっ…アンダースローだと！

ナレータ　今までのオーバースローからアンダースローに変わることで、ボールの軌道が大きく変わってしまったことから、それにうまく対応できなかった出鬼杉は、大きく空振りしてしまった…

主審　ストライーク、バッターアウト…スリーアウト、チェンジ！

出鬼杉ミチル　なんと恐ろしい奴だ…

ナレータ　出鬼杉は、ふいに強烈な寒気を感じたのだった…

東屋大吉　ああ…

ナレータ　変木の投球を見て、先掛高校野球部たちも動揺した…

猿渡匠　オーバースローもアンダースローも、どちらも申し分のないピッチングだ…普通は、どっちかに決めないと中途半端に終わるものなのに、奴は完璧にそれを両立している…

東屋大吉　変化球が使える上に、ボールの軌道まで変化させることができる…とんでもない化け物だぜ、あいつは！

ナレータ　東屋は、思わず天を仰いだのだった…

その３

ナレータ　１回の裏、（攻撃）実門高校vs先掛高校（守備）
東屋大吉　よし…気を取り直して、がんばるぞ！
（東屋が、ロージンパックを捨てる）
東屋大吉　いくぜ！
ナレータ　東屋は、第一球目を投げた…すると、ボールは、勢いよく快音を立てて、キャッチャーミットに突き刺さった…
主審　ストライーク！
出鬼杉ミチル　相手は、実門高校だ…緩急をつけていくぞ…
東屋大吉　OK…
ナレータ　東屋は、第二球目を投げた…ボールは、途中から変化し、実門高校の１番バッターを、大きく空振りさせた…
主審　ストライク、ツー！
出鬼杉ミチル　次は、左右に振ってみるか…
東屋大吉　内角の次は、外角だな…
ナレータ　東屋は、第三球目を投げた…ボールは、第一球目の内角ストレートとは対称的に外角を襲った…実門高校の１番バッターは、そのボールにバットが届くことなく空振りをした…
主審　ストライーク、バッターアウト！
変木幻　左右にうまく散らしたか…なかなかやるな…
（変木が、小さく笑う）
出鬼杉ミチル　いいぞ…ナイス、ピッチ！
（出鬼杉が、東屋を励ます）
東屋大吉　今日は、なかなか調子がいいかもな…
ナレータ　そして、東屋は、実門高校の２番バッターをあっさり三振させて、ツーアウトにした…
滝隆一　さて、そろそろ反撃といこうか…
ナレータ　双頭竜の一人・滝隆一（たき　りゅういち）は、不適な笑みを浮べながらバッターボックスに入った…
東屋大吉　出て来たな…双頭竜。相手に取って不足はないぜ！
ナレータ　東屋のボルテージは、最高潮に達した…
東屋大吉　くらえっ！
ナレータ　東屋は、力強く第一球目を投げた…しかし、隆一は、そのボールをなんなくバットの芯で捉えて打ち返した…
出鬼杉ミチル　なっ…何っ！
ナレータ　出鬼杉は、キャッチャーマスクを投げ捨て、急いで打球を目で追おったが、ボールはあっけなくライトスタンドの中へ消えていったのだった…
主審　ホームラン！
東屋大吉　い、いきなりかよ…
ナレータ　主審の宣言に、東屋はマウンド上で大きく項垂れた…それを尻目に、隆一は、ガッツポーズでホームベースを悠々と踏んだのだった。
東屋大吉　双頭竜の名は、伊達じゃないか…
（東屋が、歯ぎしりする）
出鬼杉ミチル　そこらにいるチームと同じように考えていたら、とんでも無い目に逢うな…気合いを入れ直そうぜ…
ナレータ　東屋にそう渇を入れると、出鬼杉はマウンドから立ち去っていった。
滝隆二　ふっ…隆一ばかり、いい格好はさせないぜ…
ナレータ　滝隆二（たき　りゅうじ）は、颯爽と打席に立った…

その４

東屋大吉　この嫌な雰囲気で、もう一人の双頭竜かよ…

出鬼杉ミチル　正直辛いだろうが、しっかりきばれよ…東屋！

（出鬼杉が、サインを出す）

東屋大吉　うむ…

（東屋が、第一球目を投げる）

滝隆二　初球は、逃げたか…

ナレータ　隆二は、そのストライクゾーンから外れたボールをあっさり見過ごした…

主審　ボール…

東屋大吉　わざと外す球を投げるだけでも緊張するぜ…各の違いって奴かな…

（東屋が、袖で汗を拭う）

出鬼杉ミチル　緩急に差をつけるぞ…

東屋大吉　よし…

（東屋が、第二球目を投げる）

滝隆二　カーブか…しかし、これは曲がり過ぎのようだぜ…

ナレータ　隆二は、そのボールも見送り、カウントを０－２とした…

滝隆二　逃げてばかりいないで、勝負しろ！

東屋大吉　くっ…ならば、望み通り勝負をしてやるぜ…

ナレータ　東屋は、大きく振りかぶって、第三球目を投げた…

滝隆二　もらった！

ナレータ　隆二は、フルスイングでボールをとらえてはじき返した…そして、それはレフト前ヒットとなり、ツーアウト２塁となった…

東屋大吉　いかん…

（東屋が、マウンド上で項垂れる）

出鬼杉ミチル　そう、落ち込むな…もう、ツーアウトなんだから、次の奴を打ち取れば済むことだろ…

猿渡匠　そうだぜ…バックに俺たちがいるんだから、もっと気楽にやればいいのさ…次にやってきたボールは、必ず取ってみせるよ。

東屋大吉　すまん…ありがとうな、みんな…

ナレータ　マウンド上に集まった仲間たちに励まされた東屋は、気を取り直して次の打者との対決に臨んだ…

出鬼杉ミチル　さあ、どんとこい…お前なら、できる！

東屋大吉　おうよ！

ナレータ　こうして、持ち直した東屋は、次の５番バッターを三球三振で打ち取り、この回を１点に抑えたのだった…

ナレータ　２回の表、（攻撃）先掛高校vs実門高校（守備）

東屋大吉　取られた点は、取り返してやるぜ…

（東屋が、表情を引き締めて打席に立つ）

変木幻　ふっ…そうは、いくかよ…

ナレータ　変木は、大きく振りかぶって、第一球目を投げた…ボールは、ただ真っ直ぐに、キャッチャーミットへ突き刺さった…

主審　ストライーク！

東屋大吉　いい球を投げてくるな…

（東屋が、深くため息をつく）

東屋大吉　さあ、来い…

変木幻	次は、こいつだ…
ナレータ	と、変木は、第二球目をアンダースローで投げて来た…
東屋大吉	ぬう…さっきのボールとは、軌道が全く違う！
ナレータ	翻弄された東屋は、大きく空振りしてしまった…
主審	ストライク、ツー！
東屋大吉	確かに、ありえないぜ…このギャップは…
	（東屋が、歯ぎしりする）
変木幻	くっくっく…完全に調子が狂ったようだな…
	（変木が、第三球目を投げる）
東屋大吉	うおっ、今度はオーバースローか！
ナレータ	混乱状態となっていた東屋は、瞬く間に空振りしてしまった…
主審	ストライーク、バッターアウト！
東屋大吉	ダメだ…こんなことでは、奴を打ち崩すことはできないぜ…
	（東屋が、大きく項垂れる）
ナレータ	そして、続く、ジョニー、不破も変木の投球術の前に、あえなく敗れ去ったのであった…

ナレータ	試合は実門高校優勢のまま、４回の裏に突入した…

その５

ナレータ　４回の裏、（攻撃）実門高校vs先掛高校（守備）
東屋は、再び双頭竜の滝兄弟と対決することになった…

東屋大吉　これ以上、あの兄弟に舐められてたまるかっつうの…今度は、マジで打ち取ってやるぜ！
（東屋が、表情を厳しくする）

滝隆一　しかし、こんなに緊張するピッチャーは、初めてだぜ…今まで対戦して来たピッチャーとは、あきらかに違う…
（隆一の表情も、真剣そのものになる）

出鬼杉ミチル　１球目はストレートと見せかけてフォークだ…１回裏でストレートをホームランされているから、またストレートがきたら当惑するかもしれん…

東屋大吉　なるほど…
（東屋が、第一球目を投げる）

滝隆一　まさか…同じコースに、ストレートだと？

ナレータ　隆一は一瞬迷ったが、そのボールを打ちにいった…しかし、ボールは彼のの手前で急に落下して地面へめり込んだ…

主審　ストライーク！

滝隆一　くっ…フォークだったか…
（裏をかかれた隆一が、思わず唇をかみ締める）

出鬼杉ミチル　よしっ…うまく術中に、はまってくれたぜ。だが、勝負はここからだな…

東屋大吉　緩急をつけるってか…
（東屋が、第二球目を投げる）

滝隆一　スローボール…いや、カーブだ！

ナレータ　隆一はタイミングを見計らって、変化する点を狙ってフルスイングした…しかし、その変化量は少なかったため、チップとなった打球はバックネットに突き刺さった…

主審　ファール…

出鬼杉ミチル　やれやれ…何を投げさせても、打たれる気がしてならないぜ…

ナレータ　出鬼杉は悩んだ末に、次のサインを出した…

東屋大吉　了解…
（東屋が、第三球目を投げる）

滝隆一　緩急の差をつけて翻弄しようってか…そんな小細工は、俺には通用しないぜ！

ナレータ　隆一は、そのボールを捉えた…しかし、そのボールはバットの手前で微妙に変化した為、ボテボテのゴロとなってしまった…

滝隆一　しまった…スライダだったか！

ナレータ　隆一は、悔しがりながら１塁へ走った…

東屋大吉　セカンド！

猿渡匠　任せな…

ナレータ　猿渡は、なんなくボールをキャッチし、１塁へ送球した…

塁審　アウト！

東屋大吉　よしっ…これで、二枚看板の一人を打ち取ったぜ…

滝隆一　ふっ…武者震いをして来たぜ…次は、度肝を抜くヒットを打ってみせる…

ナレータ　隆一は、不適な笑みを浮べながらベンチへと戻っていった…

その６

東屋大吉	ワンアウトで、もう一人の二枚看板の登場か…
ナレータ	東屋は、バッタボックスに入る隆二を見つめた…
出鬼杉ミチル	隆一を打ち取っても、まだこの男がいる…気の抜けない打順だぜ…
滝隆二	隆一の仇を取ってやるぜ…
	（隆二が、力強くバットを構える）
東屋大吉	今度こそ、打ち取ってやるぜ！
	（東屋が、第一球目を投げる）
滝隆二	直球勝負か…面白い！
ナレータ	隆二は、そのボールをとらえてはじき返した…
東屋大吉	くっ…
	（東屋が、必死にその打球の行方を追う）
塁審	ファール…
ナレータ	その打球は、ポールを割ってスタンドに入ったのであった…
滝隆一	惜しい…少しキレたか…
	（ベンチで、隆一が唸る）
東屋大吉	ふう…助かったぜ…
ナレータ	東屋は、ほっと胸をなで下ろした…
出鬼杉ミチル	このバッターは、本当に気を抜けないな…
東屋大吉	うむ…
	（東屋が、第二球目を投げる）
滝隆二	また、速球か…いや、違う…
ナレータ	隆二は、瞬時に見極め、タイミングを見計らってバットを振った…そして、微妙に曲がってきたスライダを、バットにとらえた…
塁審	ファール…
ナレータ	しかし、そのライナー性の打球は、ファールラインを割って、外野のフェンスにダイレクトで当たったのであった…
東屋大吉	ダイレクトに、フェンスに当てたか…恐ろしい限りだぜ…
	（東屋の緊張感が、さらに高まる）
出鬼杉ミチル	うむ…こうなったら、次はフォークで落とすか…
東屋大吉	ラジャー！
	（東屋が、第三球目を投げる）
滝隆二	フォークだ…
ナレータ	隆二は、タイミングを合わせながら、アッパースイングでボールをとらえた…ボールは、飛距離を増しながら、ぐんぐん伸びあがっていく…
東屋大吉	なっ！
審判	ホームラン…
滝隆一	よし…よくやった！
ナレータ	実門高校野球部ベンチは、大いに盛り上がった。
東屋大吉	俺のフォークをあっさり、ホームランにしやがった…
	（東屋が、思わず天を仰ぐ）
出鬼杉ミチル	すまん…俺が、フォークを指示ばっかりに打たれてしまって…
東屋大吉	気にするな…俺の力量が、足りなかっただけだ…
ナレータ	東屋は、励ましにきた出鬼杉を逆に励まして応えた。
東屋大吉	みんなで、勝利を掴むんだ…

ナレータ　　　東屋は、続く５、６番バッターを見事に三振させ、失点を１に食い止めたのであった…

ナレータ　　　試合は進んでいった…先掛高校は、６回の裏で双頭竜の連続ヒットによって、
さらに１点を取られるハメとなり、０－３と突き放されてしまった…そんな中、
８回の表を迎えたのだった…

その７

ナレータ　　　８回の表、（攻撃）先掛高校vs実門高校（守備）
主審　　　　　ストライーク、バッターアウト！
ナレータ　　　先頭打者の東屋が早々と三振に倒れ、ワンアウトとなった…
変木幻　　　　４番があえなく三振か…勝負あったな…
　　　　　　　（変木が、ニヤリと笑う）
東屋大吉　　　何だか、今日はまったくタイミングが合わねえな…
ナレータ　　　東屋は、歯がゆい思いをしながら、ベンチへ戻っていった…
J・ハワード　ははは…心配するな。今度こそ、この俺が打ち崩してやるぜ！
ナレータ　　　ジョニーが、東屋の肩をポンと叩いて打席に向かった…
出鬼杉ミチル　こういう時こそ、頼れるからな…奴は…
ナレータ　　　出鬼杉は、超ポジティブ思考のジョニーを見て、小さく笑った…
変木幻　　　　また、あの外人さんか…日本人を舐めるなよ…
　　　　　　　（変木が、第一球目を投げる）
J・ハワード　ファイア！
ナレータ　　　初球から怯むことなく、ジョニーはボールをジャストミートさせて、はじき返した…すると、打球はセンターオーバーとなり、フェンスに当たってはねかえったのだった…
東屋大吉　　　やった…センターの頭を越えたぜ！
ナレータ　　　先掛高校野球部たちは、今回の試合でのチーム初ヒットに沸いた…そして、ジョニーは、果敢にも２塁まで出塁したのであった…
不破光一　　　続くぜ…ジョニー…
　　　　　　　（不破が、静かに打席に入る）
変木幻　　　　ここまで来て、つかまってたまるかよ…
ナレータ　　　変木は、アンダースローで第一球目を投げた…
不破光一　　　だいぶ慣れてきたぜ…お前のアンダースローに！
ナレータ　　　不破は、そのボールを見事にとらえた…そして、打球は一二塁間を破って、ライト前ヒットとなり、ワンアウト１・３塁とした…
変木幻　　　　くそ…いやらしい連中だぜ…
　　　　　　　（変木が、マウンド上に唾を吐く）
東屋大吉　　　よしっ、満場…不破に続いて、先掛高校の根性を見せ付けてやれ！
満場健　　　　おうよ…
ナレータ　　　すると、満場は、身に付けていた眼帯を外して打席に入った…
東屋大吉　　　満場が、眼帯を外した…一体、これは？
馬万里蛮　　　今回の勝負は賭けでなく、実力で勝負するみたいだな…実門高校は運だけでなんとかなる相手じゃねえ…むしろ実力で勝負に出た方が勝利できる可能性がある…と読んだのさ…
東屋大吉　　　ばくち打ちの満場が、賭けよりも実力勝負を選んだのか…
　　　　　　　（東屋が、生唾をゴクリと飲み込む）
変木幻　　　　残念だぜ…そのアクセサリーを付けている方が、似合っていたのにな…
満場健　　　　うるせえ野郎だ…今から、その減らず口から言葉がでないようにしてやるから、おとなしくしていろ！
ナレータ　　　満場は、両目でしっかりと変木を見据えた…
変木幻　　　　ふっ…沈黙するのは、貴様の方だ。この俺が、そんなにポンポンと打たれてたまるかよ！
ナレータ　　　変木は、渾身の一球を放った…
満場健　　　　おりゃあああ！
ナレータ　　　満場の両目が光った…そして、バットの芯でボールをとらえると、センター前に運んだのであった…
J・ハワード　イッツ、グレイト！

ナレータ　　　ジョニーが、なんなくホームに帰還すると、先掛高校野球部たちは、大きく沸きあがったのだった…

東屋大吉　　　よし…待望の１点だぜ！

変木幻　　　　お…おのれ…

（変木の表情が、次第に険しくなる）

平間浩　　　　がはははは…この絶好の場面は、まさに俺のために用意されたようなもんだな…ストーリー的には、これで逆転するのが、相場ってもんだぜ！

ナレータ　　　平間は、喜び勇んでバッターボックスに入った…

変木幻　　　　そんなに世の中、甘くないぜ！

平間浩　　　　イエーイ！

ナレータ　　　変木は、威勢良く声を張り上げる平間をあえなく三振させ、続く六井も上手に料理し、失点を１点に抑えきったのであった…

その８

ナレータ　８回の裏、（攻撃）実門高校vs先掛高校（守備）
この回で、東屋は、先頭打者の１番バッターにヒットを打たれて出塁された…そして、続く２番バッターに手堅くバントされ、ワンアウト２塁にされてしまう…

滝隆一　もらった！

ナレータ　さらに、隆一のライト前ヒットを食らい、とうとうワンアウト１・３塁に追い詰められたのであった…

東屋大吉　やばいな…
（東屋が、息を荒げる）

滝隆二　ここで、だめ押しにしてやる…

ナレータ　隆二は、不敵な笑みを見せながら打席に入った…

東屋大吉　望むところだ…いざ、勝負！
（東屋が、第一球目を投げる）

主審　ストライーク！

滝隆二　なるほど…スピードは、まったく衰えていないようだな…
（隆二が、バットを一回転させて、構え直す）

出鬼杉ミチル　緩急をつけて翻弄させるぞ…

東屋大吉　任せろ…
（東屋が、第二球目を投げる）

滝隆二　緩急の差をつけて来たか…だが、外れるな…

ナレータ　隆二は、そのボールを見送った…そして、予見通りに、ボールは大きな弧を描いてストライクゾーンから外れた。

主審　ボール…

出鬼杉ミチル　むう…よく、見送ったな…

東屋大吉　さすがだぜ…
（東屋が、ロージンを地面に投げ、第三球目を投げる）

滝隆二　今度は、スライダだな…

ナレータ　隆二は、そのボールに対してタイミングを合わせてフルスイングした…ボールは、バットに当たったが、ファールフライとなって、１塁側の観客席に飛び込んだ…

主審　ファール…

東屋大吉　ふう…本当に、危ない橋を渡り歩いている感じだぜ…
（東屋が、大きくため息をつく）

滝隆二　くっ…今度は必ず打つ…
（隆二が、バットを強く握り締める）

東屋大吉　勝負だ！
（東屋が、第四球目を投げる）

滝隆二　よし…狙い通りの速球だぜ！

ナレータ　隆二は、そのボールをとらえて打ち返した…

東屋大吉　くそっ！

ナレータ　東屋は、思わず振り返った…そして、打球は、サードとレフトのちょうど真中に落ちようとした…と、その時、

不破光一　落としてたまるか！

ナレータ　不破が全力疾走してきて、ダイビングした…そして、その打球を見事にキャッチしたのだった…

審判　アウト！

変木幻　タッチアップだ！

ナレータ　その声を聞いた３塁ランナーは、ホームに向かって走り出した…

満場健　不破…俺にボールをよこせ！
不破光一　頼むぞ、満場…
ナレータ　不破は、近くにいた満場に、すぐさまボールをトスした…
満場健　そう易々とホームベースを踏まれて、たまるかよ！
ナレータ　満場は、ホームを目掛けて返球をした…
出鬼杉ミチル　ナイス、ファインプレーだぜ…不破、満場！
ナレータ　出鬼杉は、３塁ランナーが帰ってくる前にそのボールをキャッチした…だが、ランナーは、彼を避けるように回り込み、ヘッド・スライディングを仕掛けてきた…
出鬼杉ミチル　抜かせるか！
ナレータ　出鬼杉は懸命に手を伸ばし、ランナーの背中をタッチしたのだった…
主審　スリーアウト、チェンジ！
東屋大吉　よっしゃー！
ナレータ　先掛高校ナインは、ファインプレーを繰り出したした不破と満場、クロスプレーに勝利した出鬼杉を大いに祝福した…
滝隆二　あいつら…いいプレーをするな…
ナレータ　隆二は、小さく笑いながらベンチに戻っていったのであった…

その９

ナレータ　９回の表、（攻撃）先掛高校vs実門高校（守備）
馬万里蛮　最終回か…ここは、何が何でも塁にでないとな…
（馬万里が強くバットを握り締める）
変木幻　俺の球を打てるものなら、打ってみろ！
ナレータ　変木は、大きく振りかぶって、第一球目を投げた…
馬万里蛮　うりゃあ！
ナレータ　馬万里は、バットの芯でボールをとらえてはじき返した…そして、ライト前にボールを運んだのであった…
東屋大吉　よし…どうやら、ここにきて、みんなだいぶ慣れて来たようだぜ…
猿渡匠　俺も打つぜ！
ナレータ　猿渡は、気合を入れて打席に入った…
変木幻　そうは、いくかよ…
ナレータ　変木が、第一球目を放った…と、その時、猿渡匠は大声をあげた…
猿渡匠　走れ…馬万里！
馬万里　あいあいさー！
ナレータ　猿渡は、そう叫んで、わざと空振りした…
捕手　くっ…
ナレータ　キャッチャーは、ボールを取るやいなやセカンドに送球をしようとしたが、猿渡が空振りして体勢を崩したかのような演技をして、巧みに送球を妨害した…
猿渡匠　おっとっと…
捕手　むう…
ナレータ　キャッチャーは、それを避けて投げようとしたが、既に馬万里はセカンドへ進塁を果たしていたのであった…
変木幻　おのれ…三文芝居をしおって！
（変木が、思わず激高する）
出鬼杉ミチル　猿渡も、結構やりやがるな…
ナレータ　出鬼杉は、くすりと笑った…
変木幻　そんなせこいことばかりやっていたんじゃ、そのうち三振するぜ！
ナレータ　変木は、アンダースローで、第二球目を投げた…
猿渡匠　もらった！
ナレータ　猿渡は、そのボールをジャストミートさせた…そして、打球は一二塁間を破って、ライト前に転がっていった…
東屋大吉　やった！
ナレータ　猿渡は、１塁へ出塁し、ノーアウト１・３塁となった…
出鬼杉ミチル　チャンスだな…
（出鬼杉が、ゆっくりと打席に入る）
変木幻　この期に及んで、打たれてたまるか！
（変木が、第一球目を投げる）
出鬼杉ミチル　とおりゃあ！
ナレータ　出鬼杉は、そのボールをセンターオーバーのヒットにさせ、馬万里をホームへ帰還させたのであった…
変木幻　く、くそ…
（変木が、息を切らし始める）
東屋大吉　せめて、ここで同点にして延長に持ち込まないとな…
ナレータ　東屋は、入念に数回ほどスイングしてから打席に入った…

変木幻　　　そうはさせん…ここで、きっちりと抑えて、試合終了にしてやるぜ！

ナレータ　　変木が、力を込めて、ボールを放った…

東屋大吉　　いけえ！

ナレータ　　東屋は、そのボールをジャストミートさせた…そして、打球は、勢いよく空高く舞い、レフトスタンドへと叩き込まれたのであった…

審判　　　　ホームラン！

六井太　　　やった…逆転スリーランホームランだ！

ナレータ　　先掛高校野球部たちは、大きく沸き上がった…

変木幻　　　や、やられた…こんなどこの馬の骨かわからんチームに…

ナレータ　　変木は、マウンド上で大きく項垂れたのであった…

ナレータ　　その後、変木は気を取り直して、先掛高校の後続のバッターをシャットアウトさせた…だが、９回の裏の最後の攻撃で、痛恨の三者凡退に終わったため、４－３で先掛高校が勝利したのであった…

東屋大吉　　よっしゃ…名門・実門に勝ったぜ。地区予選優勝だ！

ナレータ　　先掛高校野球部たちは、何のためらいも無く無邪気にはしゃいだ…

六井太　　　先高バンザーイ…バンザーイ！

（六井が、心の底から喜びを放出する）

平間浩　　　おい、胴上げだ…キャプテンを胴上げするぞ！

東屋大吉　　お、おい…ちょっと…

ナレータ　　東屋は、みんなに無理やり担がれると、空中へと舞った…

全員　　　　わっしょい…わっしょい…！

ナレータ　　こうして、先掛高校野球部たちは、地区予選を突破し、甲子園の大舞台への切符を勝ち取ったのであった…

その１

ナレータ	時は流れ、甲子園大会の開催日が訪れた… 先掛高校野球部は、開会式に参加するため、高校野球のメッカである甲子園球場に足を運んでいた…
東屋大吉	ついに、俺たちもここまで来たか…
六井太	ほんとだね…夢でも見ているようだよ…
ナレータ	東屋たちは、球場内の通路を歩きながら、その感触を確かめていた…
馬万里蛮	しかし、黒岩は凄い奴だよな…新聞には、百年に一度の逸材だって書かれていたし、プロ野球の関係者もずっと奴をマークしている話だからな…
満場健	それに、今年の優勝は、昨年に引き続き西東京代表の上陵高校だとも書かれてあったからな…
ナレータ	その話を聞いて、猿渡が、話に乗っかってきた…
猿渡匠	今年の甲子園は、注目するべき選手が目白押しだって書いてあったぜ…黒岩以外で、特に注目を浴びているのが、大阪代表の雲海高校（うんかいこうこう）にいる今年度最強のスラッガーと騒がれる松木聡（まつき　さとし）とかさ…あとは…
不破光一	ふっ…一々、名前を出していたら、キリがないぜ… （不破が、小さく笑う）
東屋大吉	上等だぜ…強い奴が、たくさんいればいるだけ、やり甲斐があるもんだ。
出鬼杉ミチル	東屋らしいな…
ナレータ	出鬼杉は、ニヤリと笑った…と、その時、背後から何者かが声をかけてきた…
黒岩誠	東屋じゃないか、久しぶりだな…
東屋大吉	おお、久しぶりだな…相変わらず、元気そうで何よりだぜ…
ナレータ	東屋と黒岩が、がっちりと握手を交わした…
六井太	この人が、超有名人の上陵高校のエースか…
出鬼杉ミチル	こんにちは、黒岩さん…そして、上陵高校のみなさん…
ナレータ	先掛高校野球部たちと上陵高校野球部たちは、互いに挨拶を交わした…
黒岩誠	対戦表でいくと、俺たちが戦うとしたら、決勝戦になるな…絶対、勝ちあがって来いよ！
東屋大吉	ああ…こっちも、楽しみにしているぜ…
ナレータ	こうして、旧友に発破をかけられた東屋は、爽やかな笑顔を見せたのだった…

ナレータ	そして、先掛高校の初戦の日が訪れた… 東東京代表の先掛高校野球部は、第一回戦を行うため、球場入りをしてベンチで待機していた…
満場健	黒岩を擁する上陵高校は、初戦をあっさりコールド勝ちしてしまったな…
馬万里蛮	さすが、去年の優勝校…そして、今年の優勝候補だけはあるぜ…
猿渡匠	そうだな…俺たちも、がんばらないとな… （猿渡の言葉を受けて、出鬼杉が口を開く）
出鬼杉ミチル	その意気だぞ…俺たちは、念願の甲子園にたどり着いたのだ…後は、甲子園で優勝あるのみだぜ…
平間浩	そうだ…優勝だ…イエーイ…！
不破光一	相変わらず、お祭り野郎だな…お前は！ （と、ふいに六井が、ぼそっとしゃべる）
六井太	でも、僕たちって、くじ運が悪いよね…だって、第一回戦から松木がいる雲海高校と戦わないといけないもんな… （その発言を受けて、ジョニーが口を開く）
J・ハワード	わははは…それは違うぜ、むっちぃさん…試練は、乗り越えることのできる者にしかこないと言うだろ…つまり、俺たちはそれを乗り越えることができると神からのおぼしめがあったことになるわけだぜ！
出鬼杉ミチル	意外といいこと言うじゃないか、ジョニー…

東屋大吉　そうだ、ジョニーの言う通りだぜ…こんな時こそ、先掛高校の真価が問われる時だ…みんな、がっちり締まって行くぞ！

全員　おおー！

ナレータ　こうして、士気を頂点にまで高めた先掛高校野球部たちは、ベンチから一斉に飛び出したのだった…

（場面が、観客席に変わる）

藤谷譲二　相変わらず、威勢の良い連中だぜ…

ナレータ　地区予選準決勝で実門高校に敗れた赤葉高校のスラッガー藤谷が、その様子を見つめながら、そう呟いた…

藤谷譲二　俺は、ここでお前たちを応援するぜ…俺たちの分まで、がんばってくれよ…東屋…

ナレータ　と、その時、背後から何者かに声をかけられた…

源五郎　がははは…赤葉の大黒柱が、応援に駆けつけてくれたか…こんな心強いことは無いのう…

藤谷譲二　げんさん…

ナレータ　幼馴染である東屋から彼の話を聞いていた藤谷は、後援会会長のげんさんと分かると、丁寧にお辞儀して握手した。

藤谷譲二　元ノンプロの大御所様に会えるなんて、光栄の至りですよ…

源五郎　ははは…そんなお世辞は、いらんよ。それよりも、こんな所でしみったれている場合じゃないぞ…うちの応援団に混じって、しっかりと奴らを応援してくれ！

藤谷譲二　はい、任せておいてください…

ナレータ　藤谷は、そう答えると、げんさんに連れられて、先掛高校応援団のもとへ向かったのだった…

その２

ナレータ	１回の表、（攻撃）先掛高校vs雲海高校（守備）
東屋大吉	雲海高校のエース・千茶院靖（せんさいん　やすし）は、そこまで凄いピッチャーだと言う評判は聞かないが、油断は禁物だぞ…
馬万里蛮	ラジャー！
	（馬万里が、軽く素振りして、バッターボックスに入る）
千茶院靖	お願いします！
馬万里蛮	うわっ…びっくりした。めっちゃ、礼儀正しい奴だな…
ナレータ	馬万里は、帽子を脱いで挨拶をする千茶院にびっくりした…
馬万里蛮	あれ？
ナレータ	馬万里は、あることに気が付いた…相手ピッチャーが、テーピングをした手でボールを握っていることに…
馬万里蛮	ケガでもしているのかな…でも、マウンドに上がってくると言うことは、さほどのケガでは無いのかもな…
千茶院靖	いきますよ…
	（千茶院が、第一球目を投げる）
主審	ストライーク！
馬万里蛮	なるほど…確かに、そんな凄い球ではないな…
	（馬万里が、バットを強く握り締める）
千茶院靖	よし、行くぞ！
	（千茶院が、第二球目を投げる）
馬万里蛮	よし…読み通りだ！
ナレータ	馬万里は、フルスイングをしてボールをとらえた…そして、ジャストミートをしたボールは、空高く飛び上がり、ライトスタンドに突き刺さったのだった…
東屋大吉	うおー…いきなり、ソロ・ホームランかよ！
ナレータ	先掛高校野球部ベンチから、大きく歓声が上がった…
花形豊	なかなか、シャープな振りをしているじゃないか…あの１番バッターは…
ナレータ	と、雲海高校のキャプテン・花形豊（はながた　ゆたか）は、そう言うと不敵な笑みを浮かべた…
猿渡匠	うしっ…俺も続いて続くぜ！
	（猿渡が、バッターボックスに入る）
千茶院靖	お願いします！
猿渡匠	お、おう…宜しくな…
ナレータ	千茶院は、第一球目を投げた…猿渡は、そのボールをとらえ、なんなくレフト前へと運び、１塁へ出塁したのであった…
東屋大吉	ナイス・バッティングだぜ…猿渡！
二階堂達也	むむっ…なかなか、やるやんけ。先高の奴ら…
ナレータ	セカンドの二階堂達也（にかいどう　たつや）は、おもむろに眉を吊り上げて唸った…
出鬼杉ミチル	さあ…どんどん、打って行くぞ！
	（出鬼杉が、バッターボックスに入る）
千茶院靖	お願いします！
出鬼杉ミチル	うむ…こちらこそ…
ナレータ	出鬼杉は、ヘルメットを取って挨拶に応えた。そして、千茶院は、第一球目を投げた…
出鬼杉ミチル	よし、打ち頃の球だ…
ナレータ	出鬼杉は、そのボールを捕らえて、レフトオーバーのヒットとし、戦局をノーアウト１・３塁としたのであった…

東屋大吉	みんな、調子いいな…俺も負けていられないぜ！
	（東屋が、勇んで打席に入る）
千茶院靖	お願いします！
東屋大吉	おう、ヨロシクな！
	（千茶院が、第一球目を投げる）
東屋大吉	いただきだぜ…
ナレータ	と、ここで、まさかの空振り…
主審	ストライーク！
六井太	おい、しっかり打てよ。絶好球じゃないか！
東屋大吉	す、すまん…
ナレータ	あまりの無様さに、味方ベンチからヤジが飛ぶ。
東屋大吉	いかんな…もっと気を引き締めてかからないと…
ナレータ	東屋は、そう心に言い聞かせながらバットを握り直した。

その３

ナレータ　　　それを余所に、何食わぬ顔で千茶院は、第二球目を投げた…
東屋大吉　　　もらったぜ！
ナレータ　　　東屋は、思い切りボールを引っ叩いた…ボールは、空高く舞っていったが、飛距離はあまり伸びなかった…
東屋大吉　　　しまった…打ち上げてしまったぜ…
猿渡匠　　　　しかし、ライトの奥深くだから、タッチアップのチャンスだ！
ナレータ　　　猿渡は、ホームベースを睨んで走る準備をした…そして、ライトの花形がボールをキャッチすると、彼は猛ダッシュした…
花形豊　　　　見せてやるぜ…俺の強肩を！
ナレータ　　　花形の繰り出した送球は、レーザービームのように鋭くキャッチャーへ向かった…そのため、ボールは、猿渡がホームに走ってくる前にキャッチャーの元に届いたのだった…
東屋大吉　　　まずい…突っ込め！
猿渡匠　　　　なっ…
ナレータ　　　猿渡は、ヘッドスライディングしたが、捕球を済ませたキャッチャーに難なく阻まれてしまったのであった…
主審　　　　　アウト！
猿渡匠　　　　何て凄い肩をしてやがるんだ…あいつ！
ナレータ　　　猿渡は、思わずぞっとした…
出鬼杉ミチル　これは、安易なタッチアップは禁物だな…
J・ハワード　わははは…そんなに、気を落とすことはないぜ。この俺が、きっちり仇をとってやるからな！
ナレータ　　　ジョニーは、豪快なスイングを見せると、悠然とバッターボックスに入った…
千茶院靖　　　お願いします！
J・ハワード　おう、宜しくな…ジェントルマン！
（千茶院が、第一球目を投げる）
J・ハワード　ヘイ、ジャストミートだぜ！
ナレータ　　　ジョニーは、バットの芯でボールをとらえ、それをライトスタンドまで軽々と運んだのだった…
六井太　　　　やった…ツーランだ。ツーランホームラン！
ナレータ　　　先掛高校野球部ベンチは、大きく盛り上がった…
花形豊　　　　３点目か…恐れ入ったぜ…
不破光一　　　これで流れは、再びこちらに戻って来たぜ！
（不破が、バッターボックスに入る）
千茶院靖　　　お願いします！
不破光一　　　ふっ…律儀な奴だぜ…
（千茶院が、第一球目を投げる）
不破光一　　　ライトは、なるべく避けて打った方が良さそうだな…
ナレータ　　　不破は、照準をレフトの前に合わせてボールを打った…ボールは、レフト前の絶妙な位置に落ち、彼は、悠々と１塁へ出塁したのであった…
満場健　　　　俺たちの猛虎打線は、そう簡単に止められないぜ…今回は、奴の投げてくるコースが、ビンビンと俺の脳に浮かぶからな…
（満場が、バッターボックスに入る）
千茶院靖　　　お願いします！
満場健　　　　うっす！
（千茶院が、第一球目を投げる
満場健　　　　よし…どんぴしゃだぜ！

ナレータ　　満場健は、そのボールを捕らえて、一二塁間を抜いた…
丸込一彦　　これでランナー１・２塁だ！
平間浩　　　がはははは…俺もいっちゃるぜ！
（平間が、打席に入る）
千茶院靖　　お願いします！
平間浩　　　イエーイ！
不破光一　　会話が成り立ってないぞ…お前…
ナレータ　　不破は、２塁ベースより、心の中でつっこんだ…
千茶院靖　　ならば、こっちもイエーイ！
（千茶院が、第一球目を投げる）
平間浩　　　勝手に俺の専売特許を、パクるんじゃねえ！
ナレータ　　平間は、そのボールをとらえたが、ファーストに打ちあげてしまった…
松木聡　　　オーライ！
ナレータ　　松木は、難なくそのボールを処理して、スリーアウト・チェンジとしたのだった…
馬万里蛮　　結局、３点止まりか…もっと取れそうなものだがな…
ナレータ　　その馬万里の発言に、東屋は急に反発した。
東屋大吉　　いや、こんなもんだと思うぜ…それに、あのピッチャーは気をつけた方がいいかも知れないぞ…
出鬼杉ミチル　どういう意味だ、東屋…どこをどう見ても、ただの棒球だぞ？
東屋大吉　　俺が打った時の球は、微妙に変化が掛かっていたんだ…絶妙に引っ掛けさせて、打たせて取っている…つまり、打たされている感じがするんだ。
出鬼杉ミチル　しかし、俺が打った球は全く変化していなかったがな…それに、そこまで正確にできるコントロールをできるピッチャーだったら、一気に３点も取られるような真似はしないと思うぜ。考えすぎなんじゃないのか？
ナレータ　　と、反発されたが、東屋は、どうにも腑に落ちなかったのだった…

その４

ナレータ　　１回の裏、（攻撃）雲海高校vs先掛高校（守備）
東屋大吉　　さて、雲海高校のお手並みを、とくと拝見させてもらうぜ…
（東屋が、ボールを強く握り締める）
二階堂達也　よっしゃ…取られた点は、じゃんじゃん取ったるで！
（雲海高校の１番バッター・二階堂がバッターボックスに入る）
東屋大吉　　なかなか威勢の良さそうな１番バッターだぜ…
（東屋が、第一球目を投げる）
二階堂達也　うりゃあ！
ナレータ　　二階堂は、大声を発しながら思い切り空振りした…そして、勢い余ってズッコケて、思い切り頭をぶつけてしまった…
主審　　　　ストライーク…！
二階堂達也　あたた…あかんわ…大口叩いた上に、ズッコケてしもうた…
ナレータ　　二階堂は、頭をクラクラさせながら、ゆっくりと立ち上がった…
花形豊　　　けったいなことをすな…もっと、真面目にやらんかい！
二階堂達也　ごめんくさい…
ナレータ　　二階堂のボケに、球場内全員がズッコケた…
東屋大吉　　まるで、吉本新喜劇みたいだな…
（東屋が、思わず苦笑いする）
二階堂達也　今度こそ、いてもうたるで！
東屋大吉　　よし…こいつでどうだ！
（東屋が、第二球目を投げる）
二階堂達也　おらあっ…なんぼのもんじゃい！
ナレータ　　そう言って、二階堂は、また空振りしてコケた…
主審　　　　ストライク、ツー！
花形豊　　　こらっ…しゃんとせえや。しまいには、どつきまわすで！
ナレータ　　花形は、思わず怒鳴った…
二階堂達也　せやかて、相当ごっつい球じゃ、あ～りませんか…
ナレータ　　二階堂のボケに、再び球場内全員がズッコケた…
東屋大吉　　やばい…こっちのペースが乱れそうだぜ…
（東屋が、笑いを堪えながら返球を受ける）
二階堂達也　これ以上、ヘタこいたらクビになるねん…何とか、せんとな…
ナレータ　　と、突然、二階堂はバントの構えをとった…
花形豊　　　アホう…ツーストライクで、何でバントやねん！
（あまりのことに、雲海高校野球部ベンチからヤジが飛ぶ）
出鬼杉ミチル　野球を知っているのか、こいつは…
ナレータ　　挙動不審な二階堂を見て、出鬼杉は、内野手に前進するように指示を出した…
東屋大吉　　さあ、いくぜ。吉本くん！
（東屋が、第三球目を投げる）
ナレータ　　すると、二階堂は急にバットを構え直した。
東屋大吉　　うっ…バスターか！
二階堂達也　わいの大好きなコースや。おおきに！
ナレータ　　二階堂は、そのボールをバットに当てた…すると、ボールは、軽々とライトフェンスにぶち当たって跳ね返ったのだった…
出鬼杉ミチル　あの東屋のボールを、軽々と打つとは…

東屋大吉　　危ねえ…下手すると、ホームランの可能性もあった。笑っている暇なんかないぜ…
ナレータ　　東屋は、思わず汗をかいた…

その５

ナレータ　だが、この顛末で調子の狂った東屋は、続く２番打者にもヒットを許してしまい、戦局をノーアウト・ランナー１・３塁にしてしまったのだった…

花形豊　今がチャンスだな…

（花形が、バッターボックスに入る）

東屋大吉　雲海高校のキャプテンか…

（東屋が、第一球目を投げる）

ナレータ　花形は、なんなくボールをとらえて、センター前ヒットとし、１点を先取したのだった…

ウグイス嬢　４番…ファースト…松木くん…

ナレータ　と、そのコールがあった瞬間、雲海高校側の観客席から大歓声が巻き起こった…

出鬼杉ミチル　ついに出てきたか…地区予選の決勝で４打数４ホーマーを放った天才バッター・松木聡！

東屋大吉　こんなまずい状況で、奴が出てくるのかよ…

ナレータ　東屋の背中から、汗が止めど無く吹き出てきた…

松木聡　勝負だ！

（松木が、バットを強く握り締める）

東屋大吉　相手にとって不足は無い…三振にしてやるぜ！

ナレータ　東屋は、ロージンパックを投げ捨てると、大きく振りかぶって、渾身の一球を放った…

松木聡　おらあっ！

ナレータ　松木は、バットの芯でボールを当てた…すると、そのボールは、まるで使命感を持ったかのようにまっすぐ飛び、場外へ消えて行ったのだった…

東屋大吉　なっ…

ナレータ　東屋は、目を思いっきり見開いて、全身を硬直させた…

出鬼杉ミチル　とても、同じ高校生とは思えん…

ナレータ　出鬼杉は、マスクを剥ぎ取って棒立ちとなった…

藤谷譲二　こんな簡単にひっくり返されるものなのか…

源五郎　なんちゅう恐ろしい打線だ…

ナレータ　あまりの状況に、先掛高校野球部後援会の皆さまは、呆然とならざるを得なかった…

東屋大吉　松木聡…恐るべきバッターだったぜ…

出鬼杉ミチル　いや、確かに松木も恐ろしい奴だが…二階堂のバスターといい、他の選手も全く油断ができない怪物揃いだぜ…

東屋大吉　しかも、あいつらは俺の球質も見ずに、全て初球でヒットやホームランを打っていやがる…奴らのバッティング・センスは、半端じゃねえぞ…

出鬼杉ミチル　まあな…あの実力者揃いだったら、どれだけ点を取られたとしても、それを取り返すことを重荷としないのだろうな…とにかく、気にすることは無いぞ。相手が強いんだから、ある程度の失点を覚悟しておいた方が身のためだぜ…

東屋大吉　ああ…だが、次のバッターからは、どう攻めて行く？

出鬼杉ミチル　変化球を初球から投げて、相手の初球打ちのペースを崩してやろう…

東屋大吉　よし…わかった…

ナレータ　その後、東屋は、続く３人のバッターたちを凡打で打ち取り、この回を４点で抑えたのであった…

その６

ナレータ　２回の表、（攻撃）先掛高校vs雲海高校（守備）
六井は、初球から打ちにいったが、ショートフライであっけなく打ち取られたのだった…

馬万里蛮　さあ…さっきみたいに、ホームランを打つぜ！
（馬万里が、勇んで打席に入る）

千茶院靖　お願いします！

馬万里蛮　もう、一巡したんだから…いい加減止めろって…
（千茶院が、第一球目を投げる）

馬万里蛮　よし…また、ホームランだぜ！

ナレータ　馬万里は、そのボールを打った…が、ボールは高く打ち上げってしまった。そして、ライトの花形に難なく打球を取られたのであった…

出鬼杉ミチル　ドンマイ、ドンマイ！

ナレータ　馬万里が、首をかしげた…

馬万里蛮　おかしいな…前と同じコースのボールがきたんで、同じようにバットを振ったつもりなんだがな…

ナレータ　その発言に、東屋の脳裏に、再び疑念が浮上してきた…

猿渡匠　よし…行ってくるぜ！
（猿渡が、バッターボックスに入る）

千茶院靖　ふっ…
（千茶院が、第一球目を投げる）

猿渡匠　おお、前と同じコースの球だ！

ナレータ　猿渡は、そのボールを打った…が、ショートゴロで裁かれ、あえなくスリーアウト・チェンジとなってしまったのであった…

猿渡匠　…？

ナレータ　猿渡が、首を傾げながらベンチに戻ってきた…

出鬼杉ミチル　どうした、浮かない顔をして…こんな時だってあるさ…

猿渡匠　ボールが手元で微妙に変化したぞ…なんか引っ掛けられた感じだぜ…

出鬼杉ミチル　なにっ？
（ふいに東屋が、はっとする）

東屋大吉　むう…やはり、この回で打ち取られた３人は、その微妙に変化する球に引っ掛けられたんだ。やはり、あのピッチャーは侮ることはできないぞ！

出鬼杉ミチル　だから、そんなに凄いピッチャーだったら、むざむざ３点を献上するようなことは無いだろ…

東屋大吉　最初、俺たちにちょっとだけ点をやって、油断させておいてから抑えると言うことは考えられないか…
それとも、俺たちの実力を計るために、あえてバッティング・ピッチャーまがいのことをしたとか…

出鬼杉ミチル　…？

ナレータ　出鬼杉は、しつこく食い下がる東屋に妙な感じを覚えた…

東屋大吉　あの強力打線があれば、少し点を取られてもすぐに取り返すことができる…それらを全て計算して、試合をやっているんじゃないかと思うんだ。

ナレータ　と、その時、出鬼杉の目が光った…

出鬼杉ミチル　なるほど、そう言うことか…現に、俺たちは１点負けているからな…とんだ策士だぜ、あのピッチャーは…
（先掛高校野球部たちが、きっと千茶院を睨む）

花形豊　どうやら、もう気づかれちまったようだぜ…奴らを油断させる作戦は、失敗したようだな…

ナレータ　すると、千茶院は、眼鏡を光らせた…

千茶院靖　ふっ…もはや、奴らのバッティングのデータ取りも十分だ…後は、この俺のくせ球で、打たせて取るまでだぜ…

ナレータ　　千茶院は、ニヤリと笑った…
花形豊　　正確なデータを取って、確実に仕留めるか…恐ろしい奴だぜ、お前は…まあいい、点の方は俺たちがどんどん取ってやるから安心しろ…
千茶院靖　　おう、頼んだぜ…
ナレータ　　花形と千茶院は、互いに見合って笑った…

その７

ナレータ　３回の裏、（攻撃）雲海高校vs先掛高校（守備）
この回の先頭打者である２番バッターに打ち崩された東屋は、再び３番の花形と戦うことになったのだった…

花形豊　俺たちを、そこらにいるバッターと同じように思うなよ…
（花形が、バッターボックスに入る）

出鬼杉ミチル　東屋…始めからフォークでいくか…

東屋大吉　OK…
（東屋が、第一球目を投げる）

花形豊　フォークで、俺を空振りさせようと言うのか…甘いぜ！

ナレータ　花形は、そのボールを見事にとらえ、ライトフェンスにぶち当てた…そのため、展開はノーアウト１・３塁となってしまったのだった…

東屋大吉　くうっ…
（東屋が、思わず唸る）

松木聡　またしても、得点のチャンスだな…

ナレータ　松木は、ネクストサークルで豪快なスイングを見せると、堂々とバッターボックスに向かった。

東屋大吉　ま…松木か…

ナレータ　東屋は、そう呟いて闘志を燃やし、第一球目を放った…

松木聡　ふっ…

ナレータ　松木は小さく笑うと、躊躇することなくフルスイングし、ボールをバットの芯でとらえた…

東屋大吉　うっ！

出鬼杉ミチル　そ、そんなバカな…

ナレータ　そして、空高く舞い上がったボールは、快音を立てながらスコアボードにぶち当たったのであった…

審判　ホームラン！

ナレータ　雲海高校側の観客席から、再び大歓声が上がる…

出鬼杉ミチル　またしても、スリーラン・ホームランか…

ナレータ　出鬼杉は、自分の意識が遠のいて行く感覚を覚えた…

東屋大吉　くそ…このまま終わってたまるか…
（東屋が、出鬼杉に対して大声であげる）

東屋大吉　ミッチー…ぼーっと突っ立っているな。試合は、まだ終わっちゃいないんだぞ！
（東屋の怒号に、出鬼杉は、はっと我に帰る）

出鬼杉ミチル　ははは…すまん、すまん…

ナレータ　出鬼杉は、そう言って、すぐにしゃがんだ…

出鬼杉ミチル　まさか、東屋に怒られるとはな…しかし、タフな奴だぜ。お前って奴は…
（出鬼杉が、小さく笑う）

東屋大吉　くそったれ…負けてたまるか！

ナレータ　怒り爆発の影響か、東屋は、続く３人のバッターを三振させ、この回を３点に食いとめたのであった…

その８

ナレータ　５回の裏、（攻撃）雲海高校vs先掛高校（守備）
花形豊　むう…ここにきて、奴の制球力が決まり出したか…
ナレータ　先頭打者である２番バッターがショートゴロで倒れると、花形は、表情を引き締めて、バッターボックスに向かった…
出鬼杉ミチル　そうだな…まずは、外角高めのスライダからいこうか…
東屋大吉　なるほど…
（東屋が、第一球目を投げる）
花形豊　一球外してきたか…
ナレータ　花形は、そのボールを見送った…が、
主審　ストライーク！
ナレータ　主審のコールを聞いて、花形は思わず目を疑った…
花形豊　なんてことだ…キャッチャーミットに入る直前で変化して、ストライクゾーンにかすったと言うのか…まったく、見極められなかったぞ！
（花形が、大きく動揺する）
出鬼杉ミチル　よし…次は、フォークでいくか…
東屋大吉　ラジャー。
（東屋が、第二球目を投げる）
花形豊　これは落ち過ぎて、ワンバウンドするな…
ナレータ　花形は、そのボールも見過ごした…ところが、ボールは失速して落ちたもの、わずかにストライクゾーンをかすっていたのだった…
主審　ストライク、ツー…！
花形豊　なんと言う制球力だ…
（花形が、呆然となる）
出鬼杉ミチル　最後は、外角ぎりぎに速球だ…
東屋大吉　おう！
（東屋が、第三球目を投げる）
花形豊　くそ…この俺を、舐めるなよ！
ナレータ　花形は、そのボールをとらえたが、完全に打ちあげてしまった…
馬万里蛮　オーライ…
（馬万里が、そのフライをなんなく裁く）
主審　アウト！
花形豊　むう…最後の球は、よく見たら外れていたのか…
（花形が、顔を歪める）
東屋大吉　よし！
ナレータ　東屋は、思わずガッツポーズした…
二階堂達也　おい、おい…キャプテンはんが、翻弄されてしもうたやんけ…
（雲海高校野球部たちが、どよめく）
松木聡　ふっ…
ナレータ　そんな中、松木は、クールにバッターボックスに入った…
東屋大吉　ここで、こいつを打ち取れば、雲海高校は沈黙をするかもな…
（東屋が、身構える）
出鬼杉ミチル　また、ぎりぎりのコースを突いて、混乱させてやろうぜ…
東屋大吉　よし、きた…
（東屋が、第一球目を投げる）

松木聡　俺の目は、そんなに甘くは無いぜ…

ナレータ　松木は、チェンジアップでわずかにストライクゾーンにかするボールと悟った…そして、フルスイングで思い切り振りぬいき、そのボールをバットの芯でとらえた…

東屋大吉　…！

出鬼杉ミチル　うそだろ！

ナレータ　ボールは、勢い良く空に舞い上がって、ぐんぐん飛距離を伸ばしていった…そして、レフトスタンドに大きく突き刺さったのであった…

源五郎　あの東屋のボールが、三連続でホームランにされた…

藤谷譲二　なんてことだ…とても信じられないぜ…

ナレータ　松木は、腕を空高く突き上げた…と、その瞬間、雲海高校側の観客席から三度大歓声が起こり、拍手喝采の嵐となった…

花形豊　よし…よくやったぞ。お前は、まさに最強のスラッガーだ！

出鬼杉ミチル　むむむ…悪い夢なら覚めてくれ…

東屋大吉　ま、またしても…化け物か、奴は…

ナレータ　東屋は、膝からマウンドに崩れたのだった…

その９

ナレータ　　先掛高校野球部たちは、タイムをかけてマウンドに集結した…

六井太　　ねえ…この極度の緊張で、うんこちびっちゃったんだけど、誰か替えのパンツ持ってない？

J・ハワード　のっけから、何言い出しやがるんだ…この万年クソ垂れブタが。早く始末してこい、この間抜け！

ナレータ　　ジョニーは、六井の尻を蹴ってベンチへ追いやった…

猿渡匠　　しかし、凄い選球眼だぜ…奴の強さは、長打力だけじゃない…全てにおいて、打者としての資質を兼ね備えた選手なんだ…

出鬼杉ミチル　とにかく、この回は次でぴしゃりと終わりにさせようぜ…そして、後で反撃の嵐を巻き起こそう…なあ、東屋…

ナレータ　　だが、自信を喪失した東屋に声を出す気力はなかった…

満場健　　おい、おい…打たれちまったものは、しょうがないぜ。そんなに落ち込むなよ…

馬万里蛮　　そうだぜ…くやしい気持ちは、みんな同じなんだ。

不破光一　　キャプテンよう…一人で、野球をやっているのじゃないんだからな。俺たちが命に代えても、キャプテンをフォローしてみせるからよ。

東屋大吉　　み、みんな…

ナレータ　　東屋が、先掛高校野球部たちを見渡す…

出鬼杉ミチル　ONE FORALL…ALL FOR ONEだぜ…東屋…

J・ハワード　一人は、みんなのために…みんなは、一人のためにか…いいこと言うな、出鬼杉は…

ナレータ　　ジョニーは、そう言って、東屋と出鬼杉の肩をもった…

東屋大吉　　す、すまん…少し弱きになり過ぎていたようだぜ…

ナレータ　　東屋が、涙を流しながら静かに答えると、既に打席へ入って待っている雲海高校５番バッターに向き直った…

東屋大吉　　燃える闘魂、漢・東屋復活だぜ！

出鬼杉ミチル　もう、大丈夫そうだな…

ナレータ　　安心した先掛高校野球部たちは、各ポジションに散っていくと、

東屋大吉　　そうだ…俺は、一人じゃないんだ…こんなにも、心強い仲間たちがいるじゃないか！

ナレータ　　元気づけられた東屋は、５番バッターを三球三振に仕留め、１点止まりとしたのであった…

ナレータ　　７回の裏、（攻撃）雲海高校vs先掛高校（守備）
東屋は、闘志むき出しの投球で、先頭打者の２番バッターを打ち取った…

東屋大吉　　よしっ…まずは、一人目と…
（東屋が、袖で汗を拭う）

花形豊　　いくら点差があるからと言っても、油断のできぬ相手…それに、手を抜いた真似をするのは、俺の性に合わんからな…

ナレータ　　花形は、打席に入ると、バットを強く握りしめて構えた…

東屋大吉　　花形か…
（東屋が、ロージンパックを投げ捨てる）

東屋大吉　　いくぞ！
（東屋が、大きく振りかぶって第一球目を投げる）

花形豊　　絶好球…いただきだぜ！

ナレータ　　花形は、そのボールをとらえようとしたが、ボールは手元で絶妙な変化をし、芯から外れた…ボールは、バックネットへと誘われたのだった…

主審　　ファール…

花形豊　　おのれ…

（花形の表情が、険しくなる）

出鬼杉ミチル　東屋の制球力をみくびってもらっては、困るぜ…正確なコースを突くだけでなく、変化のさせ方まで正確性をもっているのだからな…

（東屋が、第二球目を投げる）

花形豊　またしてもスライダか…二度も通用すると思うなよ！

ナレータ　花形は、ミート打法でボールをとらえようとした…しかし、ボールは急に失速して、花形豊のスイングから逃れていった…

主審　ストライク、ツー！

花形豊　し、沈んだ…しかも、曲がりながら…

ナレータ　花形の額から、汗がほとばしった…

出鬼杉ミチル　同じコースから変化させ、違う位置へボールを持っていく…東屋でないと、到底できない芸当だぜ…

（出鬼杉が、小さく笑う）

東屋大吉　さあ、打てるものなら、打ってみやがれ！

（東屋が、第三球目を投げる）

花形豊　ぬうあ！

ナレータ　花形は、そのボールを何とかとらえたが、レフト方向につまった当たりとなった…

東屋大吉　レフト！

不破光一　俺が、そんなヘマをするかよ…

ナレータ　不破は、全速力で前進し、スライディングキャッチをした…

審判　アウト！

出鬼杉ミチル　よし…でかしたぞ、不破！

ナレータ　出鬼杉は、大きく不破を賞賛した…

その１０

東屋大吉　これで、また奴の登場か…
ナレータ　東屋は、松木の登場に再びいやな緊張感に襲われた…と、その時、出鬼杉がマウンドへ向かってきた…
東屋大吉　敬遠しろだと！
ナレータ　東屋は、血相を変えた…
出鬼杉ミチル　状況が状況だけに、やむを得ないと考えるべきだ…お前にとっては、面白くないだろうが、試合に勝つ為だと割り切ってくれ…
東屋大吉　結局、奴には勝てずじまいか…
ナレータ　東屋の表情に、無念の思いが纏わりつく…
出鬼杉ミチル　ここは、半端なプライドは捨て、勝利だけを考えよう…お前だけが、野球をやっている訳じゃないんだからな…
ナレータ　東屋は、思わず天を仰いだ…と、その時、六井たちも続々マウンドに集まってきたのだった…
六井太　東屋くん…
ナレータ　六井は、じっと東屋の様子を見ると、出鬼杉に向かって、こう言った…
六井太　出鬼杉くん…ここは、勝負させてあげようよ…
出鬼杉ミチル　な、何を言っている！
（出鬼杉が、眉間にしわを寄せる）
六井太　僕は、東屋くんを信じたい…東屋くんを信じられなくなったら、チームは一つになれないよ…僕は、この試合に勝つために、信じたいんだ…
出鬼杉ミチル　む、六井…
（出鬼杉が、言葉を詰まらせる）
猿渡匠　出鬼杉さん…俺からもお願いします。俺も、逃げるような真似だけはしたくないんです…
馬万里蛮　そうだ…みんなで、奴を…そして、雲海高校を倒すんだ！
出鬼杉ミチル　お前たち…
（出鬼杉が、静かに目を閉じる）
出鬼杉ミチル　わかった…みんなが、そう思うなら、俺も異論はない…
東屋大吉　ミッチー…
（東屋が、出鬼杉を真摯な目で見つめる）
出鬼杉ミチル　俺もお前が、奴を仕留めるところを見たくなったよ。さっきは、変なこと言って、すまんかった…がんばって抑えようぜ！
ナレータ　出鬼杉が、そう言って、笑顔で東屋大吉の肩を叩くと、先掛高校野球部たちは、各ポジションに散っていったのだった…
松木聡　覚悟はいいな…東屋…
ナレータ　松木は、そう言って、東屋を見据えた…
東屋大吉　そのセリフ…そっくり、そのまま返してやるぜ！
（東屋が、目に闘志の炎を灯らせる）
東屋大吉　いくぜ！
ナレータ　東屋は、大きく振りかぶった…
東屋大吉　くらえ…俺の魂を！
ナレータ　そして、腕を大きく振り抜いた…すると、ボールは、今までに見せたことのない速度で、駆け抜けていった…
松木聡　な、何っ！
ナレータ　松木は、そのボールに対して、思わず空振りした…
主審　ストライーク！
藤谷譲二　ま、松木が初球を許した…しかも、空振りしやがったぜ…

ナレータ　　　球場内は、一瞬静まり返った…
出鬼杉ミチル　きゅ、球速が…今までよりも、遥かに速くなっている…
ナレータ　　　ボールを受けた出鬼杉も、東屋の投球に驚愕した…
六井太　　　　いいぞ…東屋くん！
ナレータ　　　六井は、遠く外野から景気よく声をかけた…
松木聡　　　　奴は、まだ進化を続けているというのか…
（松木が、初めて戦慄に近い感覚を覚える）
東屋大吉　　　さあ…お次は、これだぜ！
（東屋が、第二球目を投げる）
松木聡　　　　スローボール…しかも、なんという緩急の落差だ…
ナレータ　　　松木は、タイミングを合わせて、なんとか打とうとした…しかし、ボールは大きく変化したため、またしても空振りしてしまった…
主審　　　　　ストライク、ツー！
松木聡　　　　直角に曲がりやがった…
ナレータ　　　松木は、そのカーブに対して、大きく息を飲んだ…
出鬼杉ミチル　いいぞ…その調子だぜ！
（出鬼杉が、東屋を激励しながら返球する）
東屋大吉　　　このボールには、みんなの思いが詰まっているんだ…
ナレータ　　　東屋は、かっと見開いた…
東屋大吉　　　みんなで勝んだ！
ナレータ　　　東屋は、大きく振りかぶって、第三球目を投げた…
松木聡　　　　くおっ…また、速度が上がった！
ナレータ　　　そして、松木のバットは、大きく空を切った…
主審　　　　　ストライーク、バッターアウト…スリーアウト、チェンジ！
東屋大吉　　　やったぜ…ついに、松木を倒した！
ナレータ　　　先掛高校野球部たちは、わっと喝采した…
出鬼杉ミチル　今の球は、もしかすると160km/時を超えていたかもしれんな…恐ろしい限りだぜ…
（出鬼杉が、不敵な笑みをこぼす）
松木聡　　　　ふっ…完全に、俺の負けだな…
ナレータ　　　松木は、全身から汗が噴き出してくる感覚を覚えたのであった…

その１１

ナレータ　８回の表、（攻撃）先掛高校vs雲海高校（守備）
東屋大吉　あの千茶院は、俺たちのデータを元にして投げているんだよな…奴の頭のコンピュータを狂わす方法は無いか？
出鬼杉ミチル　相手の意表をつくしかあるまい…
東屋大吉　う～ん、意表か…奴の頭に無いデータで戦わないと行けない訳だから…
ナレータ　と、その時、東屋の脳裏に何かが浮かんだ。
東屋大吉　よし…丸込を出そう！
丸込一彦　えっ…僕ですか？
（丸込が、目を丸くする）
出鬼杉ミチル　丸込か…なるほど、あいつらにとっては、十分に未知なるダークホースになるかもしれんな…
（出鬼杉が、顎をしゃくる）
東屋大吉　いいか、丸込…俺は、１年生ながら、確固たる実力を持つお前を信じる。持ち前のガッツで、がんばれよ！
丸込一彦　わかりました！
ナレータ　東屋は、先頭バッターだった六井を、丸込に交代させた…
千茶院靖　丸込だと？
ナレータ　雲海高校のバッテリーは、動揺した…
丸込一彦　よし…先掛高校の反撃の狼煙を上げるぞ！
（丸込が、バッターボックスに入る）
千茶院靖　まあ、相手が誰であろうと打たせて取るまでだ…
ナレータ　千茶院は、微妙に変化する第一球目を投げた…それに対して、丸込は、球質を見るために、あえてそのボールを見送った…
主審　ストライーク！
丸込一彦　なるほど…
（丸込が、バットを構え直す）
東屋大吉　落ち着いて、球質を見定めてやがる…大した一年生だぜ…
（東屋が、丸込を見つめながら小さく笑う）
千茶院靖　この俺の球が、一年坊主に打たれてたまるか！
（千茶院が、第二球目を投げる）
丸込一彦　いけえ！
ナレータ　丸込は、そのボールをとらえた…そして、はじき返されたボールは、三遊間を抜け、彼は１塁へ出塁したのであった…
東屋大吉　よくやったぞ…丸込！
ナレータ　先掛高校野球部たちは、久々の出塁に沸き上がった…
千茶院靖　ちっ、しくじったぜ…あんな小僧に打たれるとは…
（千茶院が、舌打ちする）
馬万里蛮　ここは、手堅く送るか…
ナレータ　馬万里は、そう言ってバントをした…そして、自身を犠牲にして、丸込を２塁へ進塁させたのであった…
猿渡匠　それじゃ、俺も一つ策を弄するかな…
ナレータ　猿渡が、バッターボックスに入った瞬間、両軍ともに驚愕した…
千茶院靖　な、何っ…左に立っただと！
ナレータ　なんと、猿渡が、いつもの右打席に立たず、左打席に入ったではないか…
東屋大吉　あいつは、スイッチヒッターだったのか？

猿渡匠　スイッチヒッターでは無いが、左で全く打った経験が無いことは無いんでな…それに、左で打った時もそんなに悪い成績じゃないんだよな、実は…

ナレータ　その様子を見た千茶院は、激高した…

千茶院靖　この猿廻し野郎が、出過ぎた真似をするんじゃねえ！

ナレータ　千茶院は、第一球目を投げた…しかし、猿渡の条件が変わったことで、そのボールは、彼にとって甘いボールへと変わった…

猿渡匠　もらった！

ナレータ　猿渡は、そのボールをミートさせてレフト前に流した…その結果、ワンアウト１・３塁となった…

満場健　よし、いいぞ…技ありの一打だぜ！

千茶院靖　そ、そんなバカな…こんなはずでは…

ナレータ　千茶院のコンピュータが、徐々に狂い始めていたのであった…

出鬼杉ミチル　だいぶ、動揺しているようだな…今の状況なら、甘いボールがくる可能性は高い…
（出鬼杉が、バッターボックスに入る）

千茶院靖　俺のID野球が、そう簡単に潰されてたまるか！
（千茶院が、第一球目を投げる）

千茶院靖　し、しまった…

ナレータ　出鬼杉の予測通り、甘い球がきた…

出鬼杉ミチル　さらばだ…コンピュータ君！

ナレータ　出鬼杉は、フルスイングをしてボールを打ち返した…そして、ボールは、有無を言わずにレフトスタンドへ突き刺さったのだった…

六井太　やった…スリーラン・ホームランだ！

ナレータ　先掛高校側観客席は、大歓声の渦に取り込まれていった…そして、帰ってきた出鬼杉は、先掛高校野球部たちから祝福を受けたのであった…

その１２

千茶院靖　ちくしょう！
ナレータ　千茶院は、グラブをグランドに叩き付けた…と、その時、バッターボックスからある視線を感じた…
千茶院靖　東屋…
（千茶院が、東屋を睨みつける）
東屋大吉　今日の俺は、お前からヒットを１本も打てていない…今度こそ、今までの汚名を晴らしてやるぜ！
千茶院靖　舐めたことを抜かしやがって！
ナレータ　千茶院は、怒りに任せて第一球目を投げた…
東屋大吉　これで、帳消しだぜ！
ナレータ　東屋は、そのボールをとらえて、スコアボードに叩き付けた…
審判　ホームラン！
六井太　やった…連続アーチだ！
（先掛高校野球部たちは、狂喜のような盛り上がりとなる）
千茶院靖　くそったれっ！
ナレータ　千茶院は、思い切りマウンドを蹴った…と、その時、心配になった雲海高校野球部たちが、マウンドへ集まってきた…
花形豊　ヤス（千茶院の通称）、少し頭を冷やせ…今のお前は、完全に正気を失っているぞ！
二階堂達也　ほうやで…そんなにカリカリしたら、あかんで…
ナレータ　しかし、その雲海高校ナインに対して、千茶院はドスの利いた声で怒鳴った…
千茶院靖　うるせえ…ちょっと手が滑っただけで、ガタガタ抜かすな。みっともねえから、さっさと戻りやがれ！
（千茶院が、目を血走らせる）
花形豊　みんなが、お前のことを心配しているんだぞ…そんな言い方は無いだろ…
千茶院靖　うるせえよ…帰れって言っているのが、わかんないのか！
ナレータ　プライドの高い千茶院は、そう周りに辺り散らした…
二階堂達也　わかった、わかった…とにかく、落ち着いて投げることや。わやくそになったら、あかんで！
ナレータ　雲海高校野球部たちは、不快な気分ながらも彼を思いながら、各ポジションへと散っていった…
千茶院靖　これ以上、点は取らせん！
ナレータ　千茶院は、そう言って、先掛高校野球部たちを睨みつけた…
J・ハワード　ははは…先高を舐めるなよ！
ナレータ　ジョニーは、そう言ってバットを構えると、初球を打ち返し、バックスクリーンを超えるホームランを放ったのであった…
東屋大吉　よし…ついに、同点だぜ！
ナレータ　先掛高校野球部たちは、大きな歓声と共にジョニーをベンチで祝福した…
千茶院靖　こ、こんなバカな…
ナレータ　同点に追いつかれたのと同時に、千茶院はマウンドに膝まずいた…
千茶院靖　何をやっているんだ…俺は…
ナレータ　そして、少しずつ我に返ると、途端に懺悔の念にかられたのだった…
花形豊　ヤス！
ナレータ　その様子に、再び雲海高校野球部たちが、彼の下へ駆け寄ってきた…
千茶院靖　みんな、すまなかった…完全に、ヤケを起こしていたぜ…
二階堂達也　そげに気にすることはあらへんで…
花形豊　そうだぜ…まだ、こっちの攻撃のチャンスはあるんだからな…
ナレータ　すると、千茶院は、おもむろにテーピングしている右手の人差し指と中指を眺めた…実は、試合前の前日、彼は過度な投球練習で爪を剥がしていたのであった…
花形豊　それは、不慮の事故だ。お前が悪いわけでも何でもない…それに、その指をかばうために、あえて打た

せて取る投げ方に切り替えるのは、当然のことだと思うぜ…

二階堂達也　　そやで…大体、その指で、ここまで投げてきたことだけでもしんどいちゃいまんのか…あんさんは、ほんとによくやったで…

ナレータ　　仲間たちの言葉に、千茶院は大きく項垂れたが、少し間を置いてから雲海高校野球部たちに向き直った…

千茶院靖　　いや…俺は、間違っていたよ…勝つために、自分のプレースタイルを崩したのだからな…その結果が、これだ…

ナレータ　　千茶院は、一呼吸を付くと、

千茶院靖　　本当の意味で勝つには、それなりの犠牲が必要なんだよ…例え、この手が砕け散ってもな…

ナレータ　　心を鬼とし、覚悟の闘志を燃やした…

花形豊　　まさか、本気で投げる気なのか…それだけは、絶対にやめろ！

二階堂達也　　そやで…わいも絶対反対や…

ナレータ　　仲間たちの気遣いが痛いほど理解できたが、それでも千茶院は首を横に振った…

千茶院靖　　止めるな…俺は、納得のできる野球をしたいだけなんだからな…

ナレータ　　その発言に、雲海高校野球部たちは、必死に千茶院を止めようとしたが、彼は譲ることはなかった…

東屋大吉　　一体、どうしたんだ…あいつら…

ナレータ　　東屋たちが心配そうに彼らを見つめていると、ふいに雲海高校野球部たちが、マウンドから散開していったのだった…

花形豊　　ヤス…お前と言う奴は…

ナレータ　　花形は、目から大粒の涙をこぼしながら、自身のポジションへ戻っていった…

その１３

千茶院靖　さあ、こい…これからが、本当の勝負だ！
ナレータ　千茶院は、そう言い放つと、持っていたボールを強く握りしめた…
不破光一　今一つ、状況が呑み込めないが、やるからには全力を尽くすまでだぜ…
（不破が、バッターボックスに入る）
千茶院靖　これが、俺のピッチングだ！
ナレータ　千茶院は、渾身の力を込めて第一球目を放った…すると、ボールは、今までとは別次元の速さで、キャッチャーミットに突き刺さったのだった…
主審　ストライーク！
不破光一　な、なんだと…
ナレータ　そのあまりの変貌ぶりに、不破は全身の血が凍る感触を味わった…
東屋大吉　ど、どう言うことだ…今までの投球と、まるで違う…
ナレータ　動揺する東屋が、ふと目線を千茶院に向けた時、さらに彼を驚愕させる光景が目に飛び込んできた…何故なら、テーピングをしていた千茶院の指から、血が滴り落ちていたからである…
千茶院靖　はあ、はあ…マジで、痛えな…だが、ようやく本当の俺に戻れたぜ…
ナレータ　千茶院は、おびただしい脂汗を額に滲ませ、痛みを堪えながらも不敵な笑みを浮かべた…
不破光一　千茶院…お前…
ナレータ　不破は、目の前にいる漢の姿に、何やらこみ上げてくるものを感じた…
不破光一　命がけで野球をやってやがるぜ…奴は…
ナレータ　そう思うと、不破はぐっと目頭を熱くさせるものを堪え、バットを強く握りしめた…
不破光一　だが、そうは言っても俺たちも負けるわけにはいかない…ならば、全力でお前を倒すしかないぜ…
（不破が、さらに表情を厳しくする）
千茶院靖　そうこなくっちゃな…手加減なんかされたんじゃ、それこそ死んでも死にきれないぜ！
ナレータ　千茶院は大きく振りかぶると、躊躇することなく力一杯に第二球目を放った…
不破光一　うおりゃあ！
ナレータ　不破が、それを打ち返そうと、フルスイングで臨んだが、千茶院の球威が競り勝ち、バットはむなしく空を切ったのだった…
主審　ストライク、ツー！
ナレータ　と、その時、千茶院のテーピングされた二本の指からおびただしい血が噴き出したのであった…
千茶院靖　ぐあああっ！
ナレータ　マウンドを血の色に染めながら、その想像を絶する痛みに、千茶院は、思わず絶叫した…
花形豊　もういい…もう、やめてくれ…
ナレータ　花形は、心の奥底で、そう繰り返しながら涙した…
千茶院靖　はあ、はあ…ま、まだだ…
ナレータ　千茶院は、ぶっ飛びそうな意識を呼び戻すと、乱れる呼吸を整え、倒れまいと必死に踏みとどまった…
不破光一　なんと言う執念だ…
ナレータ　不破は、その姿を目の当たりにしながらも負けてはならないと、ぐっと歯を食いしばった…
千茶院靖　負けねえぞ…絶対に…
（千茶院が、真っ赤に染まった手で、ボールを握り締める）
不破光一　こうなったら、何が何でもお前を打ち崩して終わりにしてやるぜ…それ以外に奴を止める手段はない…
ナレータ　不破は思った…この侍を、極限の地獄から解放させてやるためには、自分のバットで彼の息の根を止めるしかないと…
千茶院靖　敵に同情される筋合いはないぜ…
ナレータ　大きく息を切らし、意識が遠のきつつありながらも、千茶院は投球フォームを整えると、
千茶院靖　くらえ！

ナレータ　己の全てを振り絞って、第三球目を投げた…
不破光一　うおりゃあ！
ナレータ　千茶院の渾身の投球に対し、不破は見事にそれをとらえた…そして、大きく打ち返し、それを天高く舞いあげた…大きく弧を描いたボールは、ライトスタンドに吸い込まれるようにして消えていったのであった…
審判　ホームラン！
千茶院靖　や、やられたか…
ナレータ　その残酷な宣告を聞いた千茶院は、意識が朦朧とする中、膝から崩れ落ち、真っ赤に染まるマウンドに倒れたのだった…
千茶院靖　だが、悔いはないぜ…
ナレータ　マウンド上で彼は、小さく呟きながら静かに目を閉じた…しかし、その顔は、とても涼やかで、後悔の念を感じさせるもの無かった…不運に見舞われながらも、その困難に立ち向かい、漢としてピッチャーをやり遂げたからである…
花形豊　ヤス！
ナレータ　雲海高校野球部たちは、たまらず千茶院に駆け寄り、彼を抱き寄せた…
花形豊　よくやった…お前は、俺たちの最高のエースだぜ…
ナレータ　すると、千茶院がゆっくりと眼を開いて、部員たちを見つめた…
千茶院靖　すまんな…ひっくり返されてしまったぜ…
花形豊　そんなことは、どうだっていい…すぐに、医務室へ行くぞ！
ナレータ　と、その時、不破が彼らに駆け寄り、千茶院に手を差し伸べた…
不破光一　楽しかったぜ…また、どこかで野球をやろうな…
ナレータ　その投げかけに千茶院は、おもむろに口角をあげると、
千茶院靖　ああ…約束するよ…
ナレータ　彼と固く握手を交わした…そして、
東屋大吉　敵ながら、あっぱれだ…お前と戦うことができて、本望だぜ…
ナレータ　その光景に、東屋は目頭を熱くしたのであった…
その後、雲海高校は、代わりのピッチャーを立て、先掛高校の後続をなんとか打ち取ったが、奮闘する東屋の投球を前に打ち崩すことができなかったため、９－８で先掛高校が勝利したのであった…

その１

ナレータ	初戦で強豪・雲海高校を制した後、先掛高校は順当に勝ち進んで行った…そして、ついに準決勝戦の大舞台に挑むこととなったのであった…
猿渡匠	準決勝戦の相手は、北海道代表・五稜郭高校か…彼らの試合は見たが、かなりの強敵だと感じたぜ… （猿渡が、更衣をしながら、そう言う）
不破光一	ピッチャーの尾崎正平（おざき　しょうへい）のジャイロボールは、初速と終速の差がほとんどないため、バッターボックスに立っていたら浮き上がってくる印象を受けるそうだな…
馬万里蛮	それに、１番の土方歳久（ひじかた　としひさ）は、足が速い上に長打力のあるバッターと聞くからな…主砲でキャプテンの稲葉栄一（いなば　えいいち）は、力のあるパワーヒッターだって言うしよう…
満場健	しかし、次から次へと強敵だらけだな、甲子園は…息をつく暇なんて、ありゃしないぜ… （東屋が、小さく笑う）
東屋大吉	都道府県ごとで、一番強い高校が集っているんだからな…弱いチームなど、あるわけがないだろ…さあ、ごちゃごちゃ言ってないで、とっとと着替えろよ…
ナレータ	東屋は、早く着替えを済ませるよう、そう促した…

ナレータ	一方、五稜郭高校は、一足先にグランドへ出てウォーミングアップをしていた…
稲葉栄一	さあ、来い！
尾崎正平	せいやっ！
ナレータ	尾崎は、大きく振りかぶって、腕を振り抜いた…ボールは、快音を立ててキャッチャーミットに収まった…
尾崎正平	まず、まずだな… （尾崎が、返球を受けながら小さく笑う）
稲葉栄一	よし…もういっちょう来い！
尾崎正平	いくぜ…
ナレータ	尾崎は、大きく踏み込んでボールを放った…ボールは、調子良さそうに走り、再びキャッチャーミットに収まった…
稲葉栄一	… （稲葉が、少し首をかしげる）
尾崎正平	どうした…早く、返球してくれよ…
ナレータ	尾崎は、稲葉にボールをよこすよう催促をした…
稲葉栄一	少し元気がないような感じがする…大丈夫か… （稲葉が、そう言って返球する）
尾崎正平	そうかな…俺は、至って問題ないぜ… （尾崎が、そう言って、にこっと笑う）
土方歳久	…
ナレータ	その様子を土方ら他の五稜郭高校野球部たちは、少し気にしながら見ていた…
稲葉栄一	そうか…試合中は、もっと元気出していこうぜ…
尾崎正平	おうよ…
ナレータ	尾崎は、明るく返事をした…しかし、稲葉は何か引っかかるものを感じていたのであった…と、その様子を観客席から、じっと見つめる者がいた…
田中五郎	正平…がんばるんだべ…
ナレータ	富良野に住む尾崎の伯父である田中五郎（たなか　ごろう）は、甥が甲子園に出ると聞いて大いに驚き、この地まで足を運んで、応援に来ていたのであった…
田中五郎	お前は、ほんときっかない（気が強い）子だべ…でも、あんべ（具合）悪うなったら、すぐにさがるん

だべ…

ナレータ　　田中は、片時も忘れることなく、尾崎を気にかけていたのであった…

その２

ナレータ　　そして、試合は始まった…。
１回の表、（攻撃）先掛高校vs五稜郭高校（守備）
馬万里蛮　　さあ…集中するぞ、集中…
ナレータ　　馬万里は、そう自分に言い聞かせて打席に入った…
稲葉栄一　　先高は、今大会の台風の目…ぬかるなよ…
尾崎正平　　わかっているさ…
ナレータ　　尾崎は、大きく振りかぶった…そして、思い切り第一球目を投げた…ボールは、勢いは衰えることを知らないかのように飛んできた…
主審　　ストライーク！
馬万里蛮　　これが、噂のフォーシームジャイロボールか…他のピッチャーの球と比べて伸びがある球だぜ…
（馬万里が、深く息を吐いてバットを握り直す）
尾崎正平　　いくぞ…
ナレータ　　尾崎は、第二球目を投げた…馬万里は、そのボールをとらえようとしたが、ボールはバットの上を通過して、キャッチャーミットに収まった…
主審　　ストライク、ツー！
馬万里蛮　　な、何っ…
（馬万里が、冷や汗をかく）
出鬼杉ミチル　　普通、空振りをする時は、ボールがバットの上を通過することはない…初速と終速がほぼ変わらない奴の投球は、他のピッチャーの球と違って、ほとんど落ちてこないことを裏付けているということか…厄介だな…
（出鬼杉が、表情を厳しくさせる）
稲葉栄一　　さあ…お前の恐ろしさを見せてやれ…
ナレータ　　稲葉は、そう言ってサインを出した…
尾崎正平　　OK…
（尾崎が、第三球目を投げる）
馬万里蛮　　くおっ…
ナレータ　　馬万里は、何とかして打とうとしたが、バットは空しく空を切った…
主審　　ストライーク、バッターアウト！
稲葉栄一　　いいぞ…その調子で、ガンガンいこうぜ！
（稲葉が、そう掛け声して、返球する）
猿渡匠　　今までのピッチャーと同じ感覚では、打てそうにないな…とにかく、よく見ていくか…
ナレータ　　猿渡が、軽くスイングして、打席に入る）
尾崎正平　　そう簡単に打たれてたまるかよ…
（尾崎が、第一球目を投げる）
猿渡匠　　そらっ！
ナレータ　　猿渡が、そのボールをかすらせた…そして、バットをかすったボールは、そのままバックネットへ突き刺さった…
主審　　ファール…
猿渡匠　　完全にとらえられなかったか…
（猿渡が、舌打ちする）
尾崎正平　　さすがにやるな…先高の中でも技巧派との噂があるぐらいだしな…
（尾崎が、眉をひそめる）
稲葉栄一　　どうやら一本刀では、まずそうだな…
ナレータ　　稲葉は、尾崎に対して合図を送った…

尾崎正平　　　うむ…
　　　　　　　（尾崎が、第二球目を投げる）
猿渡匠　　　　今度こそ、とらえてやるぜ…
ナレータ　　　猿渡は、思い切りバットを振り抜いた…しかし、ボールはさっきまでの勢いどこへやらと言わんばかりに大きく落下したため、空振りしてしまった…
主審　　　　　ストライク、ツー！
猿渡匠　　　　初球とは、まったく勢いが違っていたぞ…
　　　　　　　（猿渡が、眉間にしわを寄せる）
出鬼杉ミチル　むう…フォーシームジャイロだけでなく、ツーシムジャイロも使えるというのか…
　　　　　　　（出鬼杉が、大きく目を見張る）
主審　　　　　ストライーク、バッターアウト！
猿渡匠　　　　しまった…今度は、フォーシームだったか…
　　　　　　　（猿渡が、思わずそう唸る）
東屋大吉　　　奴は、フォーシムとツーシームをしっかりマスターして確実に使い分け、巧みに緩急の差をつけて投げている…これは、そう簡単には打ち崩せそうにないぜ…
ナレータ　　　東屋は、そう言って固唾を飲んだ…

その３

ナレータ　尾崎は、続く先掛高校３番バッターの出鬼杉をセカンドフライで打ち取り、初回を無失点としたのであった…
　１回の裏、（攻撃）五稜郭高校vs先掛高校（守備）
土方歳久　さあ…雪国で鍛えた俺たちの実力をとくと見せてやるぜ…
　（土方が、勇んでバッターボックスに入る）
出鬼杉ミチル　気を引き締めていくぞ…
東屋大吉　おう！
ナレータ　東屋は、大きく振りかぶって、第一球目を放った…ボールは、風を切ってキャッチャーミットへ突き刺さった…
主審　ストライーク！
土方歳久　いいボールだな…打ちごたえがありそうだぜ…
出鬼杉ミチル　土方は、ここ最近よく当たっているバッターだ…用心しないとな…
　（出鬼杉が、サインを出す）
東屋大吉　オーライ
　（東屋が、大きく頷いてから第二球目を投げる）
土方歳久　カーブか…
ナレータ　土方は、タイミングを合わせて、そのボールに当てた…しかし、ボールはファールラインを割って、転がっていった…
主審　ファール…
土方歳久　芯を外したか…
　（土方が、口元を歪める）
東屋大吉　さすがに、合わせてきたな…
　（東屋が、眉をひそめる）
出鬼杉ミチル　そうだな…今度は、左右に散らしていくか…
　（出鬼杉が、東屋に合図を送る）
東屋大吉　内角か…
　（東屋が、振りかぶって第三球目を投げる）
土方歳久　散らしてきたな…
ナレータ　土方は、そのボールをかすらせて、バックネットへと運んでいった…
主審　ファール…
土方歳久　詰まってしまったか…
東屋大吉　どうやら簡単には、三振してくれそうにないな…
ナレータ　東屋は、ふうっと息を吐き出した…
出鬼杉ミチル　ならば、これで引っ掛けるか…
東屋大吉　ラジャー…
　（東屋が、第四球目を投げる）
土方歳久　速球…いや、これはチェンジアップだ…
ナレータ　土方は、そのボールをうまくとらえてはじき返した…そして、ボールは、ダイレクトにライトフェンスに当たって、跳ね返った…
稲葉栄一　よし…やった！
ナレータ　五稜郭高校野球部たちは、思わず歓声をあげた…
六井太　くっ…
ナレータ　六井は、ボールを掴んで投げようとした…と、土方は、既にファーストベースを蹴って２塁へ向かっていたのであった…

東屋大吉	セカンドだ…むっちぃー！
六井太	オーライ！
ナレータ	六井は、セカンドへ向かって思い切りボールを投げた…
塁審	セーフ…
ナレータ	土方のスライディングは、ボールが届く前にセカンドベースを奪ったのであった…
稲葉栄一	ナイス、ツーベースヒットだ…土方！
ナレータ	五稜郭高校野球部たちは、土方のプレーに沸き上がった…

その４

東屋大吉　あの足の速さなら、盗塁は十分考えられるな…
ナレータ　東屋は、そう言ってロージンパックを手に取った…
土方歳久　リー、リー、リー…
ナレータ　土方は、２塁ベースから大きくリードをとった…
東屋大吉　ちっ…
（東屋が、さっと振りかえって２塁へ送球する）
土方歳久　おっと、どっこい…
ナレータ　土方は、機敏に反応してスライディングした…
塁審　セーフ…
土方歳久　あぶない…あぶない…
ナレータ　土方は、そう言って東屋を見返した…
東屋大吉　厄介な奴だぜ…
（東屋が、顔をしかめる）
出鬼杉ミチル　心配するな…奴は、俺の手で仕留める…
（出鬼杉が、ボスンとグラブを叩く）
東屋大吉　うむ…
ナレータ　東屋は、２番バッターに対して第一球目を投げた…と、同時に、土方は３塁を目指して走った…
出鬼杉ミチル　やはり、走ってきたか…
ナレータ　出鬼杉は、ボールを取るやいなや３塁へ送球した…
土方歳久　そりゃあ！
ナレータ　土方は、掛け声と共にスライディングをした…そして、出鬼杉の送球よりもわずかに速く３塁ベースへすべり込んだのであった…
塁審　セ、セーフ…
出鬼杉ミチル　くそっ！
ナレータ　出鬼杉は、土方を仕留めそこなったことに悔しがった…
東屋大吉　あのミッチーですら、刺せないとは…
ナレータ　東屋は、土方の足の速さに思わず舌を巻いた…
土方歳久　俺たちの地方は、冬場になると膝下まで雪が積もる銀世界だ…そこを否応なしに、毎日走り込こまされているんだから、鍛え方が違うぜ…
ナレータ　土方は、再び大きくリードを取った…
出鬼杉ミチル　まだ、初回だ…五稜郭高校は、バッティングのいいチームだから、いきなりスクイズはないだろう…ならば、お前の力でバッターをねじ伏せるまでだぜ…
東屋大吉　任せておけ…
ナレータ　東屋は、そう宣言すると、２番、３番バッターを見事に三振させたのであった…
稲葉栄一　この序盤のチャンスは、逃したくないな…何としてでも、土方を帰還させてやるぜ…
（稲葉が、バットを強く握りしめる）
東屋大吉　いくぜ！
（東屋が、第一球目を投げる）
稲葉栄一　ぬうあ！
ナレータ　稲葉は、初球からフルスイングで挑み、バットの芯でボールをとらえた…
東屋大吉　くっ…
ナレータ　東屋は、その打球を目で追うために、さっと振りかえった…
主審　ホームラン！
尾崎正平　やった…ツーランだぜ！

ナレータ	五稜郭高校は、稲葉の鮮やかなツーランホームランに大いに盛り上がった…
稲葉栄一	冬と言う悪条件を克服する精神力、そして冬場を乗り越えて土の見える大地で野球をしたいと言う渇望…それが、俺たちの強さだぜ…
ナレータ	稲葉は、大地を踏みしめる感覚に喜びを感じながら周回した…
東屋大吉	くっそ…
	（東屋が、手を腰にやって顔を歪める）
出鬼杉ミチル	まだ初回の２点だ…いちいち気にするな…
ナレータ	出鬼杉は、東屋に対して、そう声をかけた…
東屋大吉	そうだな…とにかく、これ以上打たれないようにすることが大切だぜ…
ナレータ	出鬼杉の言葉で平常心に戻った東屋は、続く５番バッターを三振させて、初回を終了したのであった…

その５

ナレータ　　そして、試合は進行し、３回裏となったのであった…。
　　　　　　３回の裏、（攻撃）五稜郭高校vs先掛高校（守備）
東屋大吉　　また、土方からか…
　　　　　　（東屋の表情が、厳しくなる）
土方歳久　　まだ、２点しか取っていないからな…ここらで、一気に突き離してやるぜ…
ナレータ　　土方は、バットをぶんぶん振りまわしてバッターボックスに入った…
出鬼杉ミチル　どうも、奴はホームベースよりに立つ傾向があるな…ならば、内角から攻めるか…
　　　　　　（出鬼杉が、指示を出す）
東屋大吉　　よし…
ナレータ　　東屋は、大きく振りかぶって、第一球目を投げた…土方は、そのボールをバットで当てたが、ボールは前に飛ばず、バックネットへ突き刺さった…
主審　　　　ファール…
土方歳久　　ちっ…
ナレータ　　土方は、そう舌打ちをして、一歩後ずさりした…
出鬼杉ミチル　ボールが、手元に来たら打ちにくいからな…だが、どうやら内角はあまり得意ではなさそうだぜ…
　　　　　　（出鬼杉が、サインを出す）
東屋大吉　　また、内角…
　　　　　　（東屋が、第二球目を投げる）
土方歳久　　むう…際どいとこだが、ぎりぎりストライクゾーンにきたか…
ナレータ　　土方は、そのボールに反応して、バットに振り抜いた…しかし、ボールはまたしてもバックネットへと運ばれていった…
主審　　　　ファール…
土方歳久　　いやらしい球だぜ…
ナレータ　　土方は、無意識の中で、また一歩後ずさりした…
出鬼杉ミチル　ふっふっふ…本人は気付いているかどうかわからんが、結構ホームベースから離れてきたな…
　　　　　　（出鬼杉が、サインを送る）
東屋大吉　　外角か…なるほど…
　　　　　　（東屋が、第三球目を投げる）
土方歳久　　俺の得意な外角…もらった…
ナレータ　　しかし、土方は、無意識の中でバッターボックスに立つ位置が変わっていることに気づいてなかった…そのため、外角低めぎりぎりに飛び込んで来たボールに、バットは届かず、むなしく空を切ったのであった…
主審　　　　ストライーク、バッターアウト！
東屋大吉　　うおっしゃ！
ナレータ　　東屋は、小さくガッツポーズした…
土方歳久　　知らないうちに立ち位置が変わっていたぜ…だが、たとえバットが届いていたとしても、あれだけの威力がある球だから、そう簡単には打てなかったかもな…
ナレータ　　土方は、そう言って苦笑いをした…そして、勢いに乗った東屋は、続く２番、３番バッターを三振させ、この回を無失点で終わらせたのであった…

ナレータ　　試合は４回表、ツーアウトランナーなしで出鬼杉ミチルが打席に立っていた…
主審　　　　ストライーク、バッターアウト！
出鬼杉ミチル　くそ…相変わらず、いい球だぜ…

ナレータ	出鬼杉は、思わずため息をついた…
稲葉栄一	よし…今日は、ほんとキレがあっていい感じだぜ…
ナレータ	と、尾崎に目を移すと、彼が息を切らしながら苦しそうにしている光景が飛び込んできた…
稲葉栄一	尾崎！
ナレータ	稲葉は、急いで尾崎の下へと駆け寄った…
稲葉栄一	大丈夫か…やっぱり、また具合が…
ナレータ	稲葉が、そう言いかけた時、尾崎はそれを遮るように言った…
尾崎正平	何でもないって…ちょっと、疲れただけだ…
稲葉栄一	無理するなよ… （稲葉が、真摯な目で尾崎を見つめる）
土方歳久	尾崎…
ナレータ	その様子を見ていた五稜郭ナインたちも、尾崎に意識が集中した…
田中五郎	正平…ほんまに大丈夫なのかい…
ナレータ	観客席にいた田中は、思わず立ち上がって尾崎を心配した…彼らは、知っていた…彼が、抱える病のことを…

その６

ナレータ　　４回の裏、（攻撃）五稜郭高校vs先掛高校（守備）
稲葉栄一　　尾崎に負担をかけさせないためにも、点差を広げておかないとな…
ナレータ　　稲葉は、表情を引き締めて打席へ入った…
東屋大吉　　先頭バッターは、稲葉からか…
ナレータ　　東屋は、ロージンパックを使いながら、意識を集中させていった…
稲葉栄一　　来い！
（稲葉が、バットを構える）
東屋大吉　　いくぜ！
（東屋が、大きく振りかぶって、第一球目を投げる）
稲葉栄一　　せいやっ！
ナレータ　　稲葉は、そのボールをとらえてはじき返した…そして、ボールは、レフト前へと運ばれていった…
東屋大吉　　また、初球で打たれた…
（東屋が、歯ぎしりする）
土方歳久　　稲葉は、極寒の時に室内でやればいいような素振りなどの練習も荒れ狂う吹雪の中でやっているからな…あの状況では、少しでも意識が緩慢になったら確実に命取りになる…奴の集中力と不屈の精神力の秘密は、そこにあるのさ…
ナレータ　　土方は、稲葉の野球に賭ける情熱に敬服していた…そして、レフト前ヒットとなった稲葉は１塁へ出塁し、ノーアウト１塁の状態を生み出した…
東屋大吉　　とにかく、これ以上打たせてたまるか…
ナレータ　　東屋は、そう言って第一球目を放った…しかし、５番バッターは、そのボールをうまくとらえてはじき返した…
東屋大吉　　うっ！
ナレータ　　そして、ボールは、低いライナー性の当たりとなって、一二塁間を抜けようとした…
猿渡匠　　抜かせるか！
ナレータ　　猿渡は、その打球に飛びついて捕球して、転がった…
塁審　　アウト！
稲葉栄一　　しまった！
ナレータ　　２塁へ向かおうとしていた稲葉は、それを見るやいなや急いで１塁へ引き返した…
猿渡匠　　平間！
ナレータ　　猿渡は、とらえたボールをすぐに１塁へ送球した…
稲葉栄一　　くそっ！
ナレータ　　稲葉は、ヘッドスライディングをしたが、ボールはそれよりも先に１塁へ到達したのであった…
塁審　　アウト！
出鬼杉ミチル　　よし…やったぜ！
（出鬼杉が、小さくガッツポーズする）
稲葉栄一　　やるな…さすが、先高だぜ…
ナレータ　　稲葉は、土まみれになったユニフォームをはたきながら、小さく笑った…
東屋大吉　　サンキュー…猿渡！
猿渡匠　　バックは、俺たちに任せてくれ…どんな球でも取るからさ…
（猿渡匠が、笑顔を見せる）
東屋大吉　　心強い仲間を持って、ほんと俺は幸せ者だぜ…
ナレータ　　勇気づけられた東屋は、続く６番バッターを三振させて、この回を０点で終わらせたのであった…

ナレータ　　　その後、試合は淡々と経過していった…五稜郭高校のピッチャー尾崎は、鮮やかなピッチングで先掛高校打線を次々とシャットアウトし、与えるスキを見せなかった…しかし、先掛高校の東屋も味方の援護に助けられながら、得点を阻止し続けたのであった…そして、試合は、０－２のまま、７回表に達したのだった…

その７

ナレータ　　７回の表、（攻撃）先掛高校vs五稜郭高校（守備）
尾崎正平　　はあ、はあ…
ナレータ　　尾崎は、息を荒げながらマウンドへ向かおうとした…
尾崎正平　　おっと…
ナレータ　　と、一瞬、尾崎は足がもつれて転びそうになった…その様子を見た土方は、とっさに声を発した…
土方歳久　　おい…大丈夫か！
ナレータ　　土方は、そう言って尾崎を支えた…
尾崎正平　　す…すまん…
土方歳久　　さっきよりも、体の状態が悪くなっているんじゃないのか？
ナレータ　　土方は、心配そうに尾崎へ声をかけた…
尾崎正平　　だ、大丈夫だ…少し苦しいだけだぜ…それに、こんなところでリタイヤできるかよ…
ナレータ　　尾崎は、そう強がりを言って笑顔を見せた…
土方歳久　　その気持ちはわかるが、お前の病気は…
ナレータ　　土方がそう言いかけた時、尾崎はすぐにそれを制した…
尾崎正平　　自分の体は、自分がよくわかっている…もう少し、やらせてくれ…俺は、どうしても試合を続けたいんだ…
土方歳久　　尾崎…
ナレータ　　土方は、沈黙した…実は、尾崎は、白血病に冒されていた…抗ガン剤を投与しながら、寛解時期と増悪時期の繰り返しに苦しみながら必死に耐えていたのであった…
尾崎正平　　ふう…だいぶ落ち着いてきたようだ…じゃあ、行ってくるぜ…
土方歳久　　おっ…おい、尾崎！
ナレータ　　尾崎は、土方の言葉を振りきってマウンドへ走っていった…
尾崎正平　　なんで、こんな体になっちまったんだろうな…
ナレータ　　尾崎の頭の中で、一瞬そうよぎったが、すぐに押しのけた…
尾崎正平　　今は、大事な時だ…試合に集中しなければ…
ナレータ　　尾崎は、そう自分に言い聞かせた…

馬万里蛮　　もう７回だからな…とにかく１点でもとらないとまずいぜ…
ナレータ　　馬万里は、心を落ち着けながら打席に入った…
尾崎正平　　はあ、はあ…
ナレータ　　尾崎は、袖で汗をぬぐった…
尾崎正平　　病気なんかに負けてたまるかよ…
ナレータ　　尾崎は、かっと目を見開いた…そして、大きく振りかぶって、第一球目を投げた…ボールは、大きく唸り声をあげながら、キャッチャーミットに収まった…
主審　　ストライーク！
馬万里蛮　　くっ…振り遅れたか…
ナレータ　　馬万里は、そう言ってバットを強く握りしめた。尾崎は、呼吸を乱しながらも視線を常にバッターへ向け、闘志の炎を燃やし続けた…
尾崎正平　　俺は、もっと野球をやり続けるんだ！
ナレータ　　尾崎は、気迫のこもったピッチングで馬万里を三振させ、ワンアウトを奪取したのであった…
尾崎正平　　よし…まずは、一人目…
ナレータ　　そう声を発した瞬間、尾崎はふいに目の前がぼやける感覚に襲われた…
尾崎正平　　うっ…目がかすむ…

ナレータ　尾崎は、息を切らしながら、よろめいた…

稲葉栄一　尾崎！

ナレータ　稲葉は、ふいに大声をあげてマウンドへ駆け寄ろうとしたが、尾崎に待てと言われんばかりに手のひらを見せられた…

尾崎正平　まだだ…まだ、おねんねするには早過ぎるぜ…

ナレータ　尾崎は、そう言って背筋を伸ばした…

その８

ナレータ　　しかし、病魔は尾崎に対して容赦はなかった…
今まで一度もしたことの無かった失投をするようになってしまったのである…そのため、２番バッターの猿渡匠をフォアボールにしてしまうと、続く３番バッターの出鬼杉にセンター前ヒットを打たれ、ワンアウト１・３塁としてしまった…そして、４番バッター東屋に対してもフォアボールにしてしまい、とうとう満塁になったのであった…

田中五郎　　正平…もう、だはこく（わがままを言う）でない…はよう、さがるんだべ…

ナレータ　　田中は、悲痛な思いで尾崎を見つめた…

尾崎正平　　くそ…だんだん体の自由が利かなくなってきたぜ…

ナレータ　　尾崎は、眉間にしわを寄せて肩で息をしていた…

土方歳久　　尾崎…何故、そこまでして野球をやろうとするんだ…お前は、命は惜しくないのか…

ナレータ　　土方は、涙を堪えながらそう思った…

尾崎正平　　俺から野球をとったら何もないからな…俺にとって、野球は全てなんだ…

ナレータ　　尾崎は、そう言って、自分を気遣う仲間たち一人一人に視線を送った…

尾崎正平　　はあ、はあ…この辛さは、今までに無い辛さだ…どうやら、俺はここまでのようだぜ…
（尾崎が、歯を食いしばる）

尾崎正平　　ならば、この残された命…ここで、全てを捧げてやる…この戦場で死ねれば、本望だ！
（尾崎が、ボールを強く握りしめる）

尾崎正平　　くらえっ！

ナレータ　　尾崎は、怯むことなく、果敢に投げ抜き、続く５番のジョニー、６番の不破を三振させて、苦境を乗り越えたのであった…

ナレータ　　そして、７回裏となった…
五稜郭高校の先頭バッターである７番バッターは、あえなく三振に終わり、続く８番バッターも粘りを見せたが、最後はショートゴロに打ち取られ、はやくもツーアウトとなってしまったのであった…

尾崎正平　　俺の番か…

ナレータ　　尾崎は、ふらふらしながらベンチを出ようとした…と、その時、稲葉は彼を制した…

稲葉栄一　　もう無理だ。ここで、交替しよう…早く、医者に診てもらった方がいい…友として、俺はそう忠告する。

ナレータ　　稲葉は、必死の形相で尾崎を見つめた…

尾崎正平　　心配するな…ほら、まだ立っていられるだろ…

ナレータ　　尾崎は、そう言って真摯な目で見つめた…
…最期までやらしてくれ…
稲葉は、尾崎の心の叫びに対して、静かに目を閉じて頭を垂れた…

稲葉栄一　　だったら、バッターボックスに入っても何もせず、つっ立っていろよ…本当に、立っているだけで、構わないからな…

ナレータ　　稲葉は、そう言って心の中で泣いた…

尾崎正平　　ありがとう…ほんとに、わがままばかり言ってすまん…

ナレータ　　尾崎は、そう言って打席に向かっていった…そして、彼は、最後の力を振り絞って、センター前にヒットを放ち、１塁へ出塁したのであった…

土方歳久　　立っているだけでいいって、言ったじゃないか…

ナレータ　　そう言って、土方は、１塁を見つめた…尾崎は、膝に手をついて苦しそうに息を切らしていた…

土方歳久　　ほんと、お前と言う奴は…

ナレータ　　土方は、こみあげてくる思いを必死に抑えて打席に入った…

土方歳久　　あいつを走らせるわけにはいかない…ならば、ホームランを打って、歩かせてやるまでだ…
ナレータ　　土方は、そう言ってバットを構えた…
東屋大吉　　野球に対する思いは、俺も同じ…勝負だ！
（東屋が、第一球目を投げた）
土方歳久　　うおりゃあ！
ナレータ　　土方は、フルスイングでそのボールをとらえた…そして、ボールはライトスタンドへ突き刺さったのであった…
審判　　ホームラン！
ナレータ　　審判のコールに、五稜郭高校ベンチは大いに沸き上がった…
土方歳久　　やったぜ…
ナレータ　　土方は、１塁ベースを蹴って２塁へ向かおうとした時だった…ドサッと言う音と共に前を走っていた尾崎が、倒れたのであった…
土方歳久　　お、尾崎！
ナレータ　　土方は、血相を変えて尾崎に駆け寄ろうとした…
東屋大吉　　ま、待て…追い抜いたら、アウトになるぞ！
ナレータ　　東屋の言葉に、土方の動きが、一瞬止まった…が、
土方歳久　　構わないさ…
ナレータ　　彼は、そう言うと、躊躇うことなく再び歩き始めた…
土方歳久　　俺の大切な友だちを、こんな所に野ざらしにできるか…
ナレータ　　土方は、尾崎より前に出て、しゃがみこんだ…
土方歳久　　お前は、本当にバカ野郎だぜ…自分の命を削って、少しでも俺たちのためになろうって無茶しやがってよ…
ナレータ　　土方は、動かなくなった尾崎を抱き寄せた…
土方歳久　　ありがとう、尾崎…ここまで、俺たちと一緒に戦ってくれて…
ナレータ　　土方は、体を震わせながら、腹の底から泣いた…
稲葉栄一　　尾崎っ！
ナレータ　　五稜郭高校野球部たちは、ベンチから一斉に飛び出して、尾崎にすがりつき、みんなで号泣し合ったのであった…

その９

ナレータ　あれからどのくらい時間が経ったのだろうか…
尾崎は、真っ暗闇の中を一人、とぼとぼと歩いていた…
自分は、どこへ向かおうとしているのかわからない…
自分の意思とは関係なく、何者かの力によって導かれているみたいだ…
尾崎が、そう思った瞬間、目の前がぱっと明るくなった…

ナレータ　尾崎は、静かに目を覚ました…
尾崎正平　ここは、一体…
ナレータ　尾崎は、自分に人工呼吸器が取り付けられて、ベッド上に横たわっていることに気がついた…と、その時、横から声が聞こえてきた…
田中五郎　おい、お前ら…正平が、目を覚ましたべ！
ナレータ　田中の声と共に、五稜郭高校野球部たちは声あげて大喜びした…
土方歳久　この野郎…さんざん心配かけやがってよう！
尾崎正平　み、みんな…
ナレータ　尾崎は、五稜郭高校野球部たちの姿を見ようと起き上がろうとしたが、体に力が入らなかった…
稲葉栄一　無理はするな…もう少し、安静にしとかないとダメだぜ…
ナレータ　稲葉は、そう優しく尾崎に声をかけた…と、その時、彼は、はっと何かを思い出した…
尾崎正平　し、試合は…試合は、どうなったんだ？
ナレータ　尾崎の言葉に、稲葉は首を振った…
稲葉栄一　あの後、ひっくり返されてしまってな…
尾崎正平　そうか…負けたのか、俺たちは…
ナレータ　尾崎は、そう言って残念そうな顔をした…
田中五郎　それよりも、正平…医者から、良い知らせば聞いたべ…お前の骨髄移植の手術に必要な骨髄が見つかったそうだべ…
尾崎正平　えっ…
（尾崎が、目を丸くする）
土方歳久　良かったじゃないか…手術が成功すれば、完治するかも知れないぞ…
尾崎正平　ほ、本当なのか…
田中五郎　こんな大事なことば、嘘つくはずがないべ…
尾崎正平　治るのか、この病気が…
ナレータ　尾崎は、静かに目を閉じると、こみ上がってくるものを抑えきれず、涙を流した…
土方歳久　神様は、ちゃんと見ているんだ…お前は、まだまだ天国へ行くには早過ぎるってな…
ナレータ　土方の言葉に、尾崎は小さく頷いた…
稲葉栄一　それとさ…あと、俺たちと対戦した先掛高校から、お前に渡してくれと寄せ書きをもらたんだぜ…
ナレータ　稲葉は、そう言うとポケットの中から、野球ボールを取り出した…
尾崎正平　見せてくれ…
ナレータ　尾崎は、稲葉にボールを近づけてもらった…すると、そのボールには、黒マジックでたくさんのメッセージが書かれていたのであった…
土方歳久　ぎっしり書いてあるだろ…いい奴らだよ、あいつらは…
ナレータ　尾崎は、そのぎっしり書かれたメッセージの中に、ある言葉を見つけた…
尾崎正平　また、一緒に野球やろうぜ…か
ナレータ　尾崎は、それを見て笑顔をこぼした…
稲葉栄一　そうだ…元気になったら、また、野球をやろうぜ…尾崎…

ナレータ　　　稲葉は、真摯な目で彼を見つめながら、そう言った…
尾崎正平　　　ああ…必ずな…
ナレータ　　　こうして、尾崎は、病気に打ち勝って、復帰することを決意したのであった…

その１

ナレータ　かくして、先掛高校は甲子園決勝という大舞台にたどり着き、ついに中学時代の盟友・黒岩を擁する上陵高校と戦うことになったのであった…

黒岩誠　ついに、先掛高校と戦う時が来たのか…しかし、妙な因縁だぜ…中学の時のバッテリー同士が、甲子園の舞台で争うことになるとはな…

ナレータ　上陵高校野球部キャプテンでエースの黒岩が、宿泊している旅館の窓から外を眺めていた…と、その時、キャッチャーの三郎丸功（さぶろうまる　いさお）が黒岩を見つけて、声をかけた…

三郎丸功　おい、そんなところにいたら肩を冷やすぞ…明日は、甲子園大会で優勝を賭けた大事な試合があるんだから、気をつけないと駄目だぜ！

黒岩誠　ああ…そうだったな…
（黒岩が、小さく笑う）

三郎丸功　何だ…やけにうれしそうな顔をしているじゃないか…

黒岩誠　明日は、一度はやり合いたいと思っていた相手との勝負だからな…
（三郎丸が、小さく笑う）

三郎丸功　期待しているぜ…二年連続で、甲子園を優勝しよう…

黒岩誠　三郎丸もリードの方を宜しくな…名キャッチャーさんよ…

ナレータ　そう話すと、黒岩は、明日への思いを募らせたのであった…

ナレータ　そして、当日が訪れた…

ウグイス嬢　それでは、決勝戦の両校のスターティング・メンバを紹介します…最初に、先攻の上陵高校のメンバを紹介します…
１番・セカンド、風間小四郎（かざま　こしろう）
２番・ショート、西条一樹（さいじょう　かずき）
３番・キャッチャー、三郎丸功
４番・ピッチャー、黒岩誠
５番・サード、小早川隆志（こばやかわ　たかし）
６番・ライト、岸倫太郎（きし　りんたろう）
７番・レフト、大門彬（だいもん　あきら）
８番・ファースト、吉川元次（よしかわ　もとじ）
９番・センター、辻久秀（つじ　ひさひで）

ウグイス嬢　続きまして、後攻の先掛高校のメンバを紹介します…
１番・ショート、馬万里蛮
２番・セカンド、猿渡匠
３番・キャッチャー、出鬼杉ミチル
４番・ピッチャー、東屋大吉
５番・センター、ジョニー・ハワード
６番・レフト、不破光一
７番・サード、満場健
８番・ファースト、平間浩
９番・ライト、六井太

ウグイス嬢　以上のようになっております…

ナレータ　ウグイス嬢のアナウンスを観客席で聞きながら、先掛高校野球部後援会の皆さんは、試合の開始を今か今かと待ち望んでいた…

藤谷譲二　大吉と誠の直接対決は、まさに宿命のライバル同士の戦いと言ってもいい…大吉も、この日のために、今

までがんばって来たようなものだからな…

源五郎　前年の甲子園優勝高校…そして、去年の優勝投手・黒岩誠か…相手は強敵じゃが、最後まできばるんじゃぞ…お前ら…

ナレータ　後援会の皆さんは、それぞれの思いを胸にグランドを見つめたのだった…

主審　それでは、甲子園大会の決勝戦…上陵高校と先掛高校の試合を始めます。一同、礼！

全員　おーす！

ナレータ　後攻の先掛高校野球部たちは、勢いよく各ポジションへ散っていった…

その２

ナレータ　　１回の表、（攻撃）上陵高校vs先掛高校（守備）
東屋大吉　　勝負をする時がきたな、黒岩よ…この時がくるのを、俺はどれだけ待ち望んだことか…
（東屋が、黒岩を見つめる）
黒岩誠　　望むところだ…お前が甲子園出場を果たした時、この甲子園大会の最大のライバルは、お前しかいないと思っていた…お前と先掛高校を倒してこそ、俺と上陵高校は真の王者となれると言うものだぜ…
ナレータ　　黒岩は、東屋の視線に応戦するが如く、じっと見つめ返した…
ウグイス嬢　　１番…セカンド…風間くん…
風間小四郎　　今年の台風の目と評判の高い先高か…相手にとって不足はない…
東屋大吉　　行くぞ…上陵！
ナレータ　　東屋は、第一球目を投げた…すると、風間は、そのボールを見送った…
主審　　ストライーク！
風間小四郎　　いい球を放るな…しかし、うちの黒岩よりは劣るがな…
（風間が、バットを強く握り締める）
出鬼杉ミチル　　さすが、上陵高校だ…腰がちゃんと座っているぜ…
（出鬼杉が、東屋にサインを送る）
東屋大吉　　うむ…
（東屋が、第二球目を投げる）
風間小四郎　　カーブだな…
ナレータ　　風間は、カーブのタイミングを合わせてスイングした…しかし、ボールは大きく曲がったため、バットは空を切った…
主審　　ストライク、ツー！
風間小四郎　　むう…直角に曲がった…
出鬼杉ミチル　　よし…次はこれだ…
東屋大吉　　OK…
（東屋が、第三球目を投げる）
風間小四郎　　よし、絶好球だ！
ナレータ　　風間は、フルスイングをして、そのボールをとらえた…そして、とらえたボールは、三遊間を抜けていったのであった…
黒岩誠　　やったぜ！
ナレータ　　風間は、１塁へ出塁し、ノーアウト１塁となった…
東屋大吉　　さすがだな…
（東屋が、武者震いする）
ウグイス嬢　　２番…ショート…西条くん…
西条一樹　　球速は、うちの黒岩の方が上だな…その球を毎度打たされている俺たちから見れば、蚊の止まるような速度だぜ…
東屋大吉　　打つ気満々…送りバントではないか…
ナレータ　　東屋は、チラッと１塁を見た…
東屋大吉　　風間の奴…ベースに足をつけたままで、走る気がまったく無さそうだぜ…と、言うことは、この西条と言う男は、相当なバッティングの持ち主と言うことか…
出鬼杉ミチル　　まずは、様子を見た方がいい…一球外そう…
東屋大吉　　ラジャー…
（東屋が、第一球目を投げる）
主審　　ボール…
東屋大吉　　バントの構えもしなければ、盗塁も狙ってこない…

出鬼杉ミチル　あくまで、ヒッティング狙いか…うちの東屋を、舐めているな…
（出鬼杉が、サインを出す）
東屋大吉　おし…
ナレータ　東屋は、第二球目を投げた…と、その時、ふいに風間が全力疾走した…
出鬼杉ミチル　しまった…俺たちを油断させるために、わざと初球の時に走らなかったのか…
ナレータ　出鬼杉は、すぐに中腰姿勢となった…
西条一樹　さあ、思い切り空振りでもするか…
ナレータ　西条は、バットを大きく振って、送球の妨害を計った…
主審　ストライーク！
出鬼杉ミチル　ちぃ！
ナレータ　出鬼杉は、西条の妨害まがいの行為を避けて、セカンドへ送球した…
塁審　セーフ…
東屋大吉　くう…計られた！
（東屋が、思わず歯ぎしりする）
東屋大吉　昨年、甲子園で優勝しただけあって、油断も隙もないぜ…
（東屋が、第三球目を投げる）
西条一樹　もらった…
ナレータ　西条は、そのボールをとらえてレフト方向へ放った…そして、ボールは、ショートとレフトの中間辺りに落ちようとした…
不破光一　落としてたまるかよ！
ナレータ　不破は、ヘッドスライディングで、その打球をキャッチした…
審判　アウト！
風間小四郎　な、何っ！
ナレータ　３塁ベース付近まで迫っていた風間は、仰天をして２塁へと引き返した…
不破光一　馬万里、頼む…
馬万里蛮　オーライ…
ナレータ　不破からボールをトスされた馬万里は、２塁に向かって力一杯にボールを投げた…
猿渡匠　よし…間に合う…
ナレータ　猿渡は、ボールを受け取るやいなや滑り込んでくる風間にタッチした…
塁審　アウト！
出鬼杉ミチル　やった、ダブルプレーだぜ！
ナレータ　出鬼杉は、思わずガッツポーズした。
東屋大吉　サンキュ…不破に馬万里、そして猿渡！
ナレータ　東屋のお礼の言葉に、不破たちは手を振って応えた…

その３

ウグイス嬢　３番…キャッチャー…三郎丸くん…
三郎丸功　さすが、先高だぜ…そうこなくっちゃな…
出鬼杉ミチル　三郎丸功…去年、上陵高校が優勝した時に、黒岩とバッテリーを組んでいた名キャッチャーだ…黒岩と同じくらい、警戒しないといけない奴だぜ…
（出鬼杉が、サインを出す）
東屋大吉　初球から、フォークか…
（東屋が、第一球目を投げる）
三郎丸功　低めのストレートか？
ナレータ　三郎丸は、そのボールをとらえようとしたが、さらに落ちてワンバウンドしたため、空振りしてしまった…
主審　ストライーク！
三郎丸功　むう…やりやがるな…
（三郎丸が、顔を歪める）
出鬼杉ミチル　さあ、次は直球でいくか…
東屋大吉　おう…
（東屋が、第二球目を投げる）
三郎丸功　直球勝負できたな…
ナレータ　三郎丸は、バットを大きく振り抜いて、そのボールを当てた…しかし、ボールは前に飛ばず、バックネットへ突き刺さったのであった…
主審　ファール…
東屋大吉　さすがに食らいついてくるな…
（東屋が、眉をひそめる）
三郎丸功　くそ…次は、確実に前へ飛ばしてやるぜ…
出鬼杉ミチル　東屋の制球力で、勝負だ…
（出鬼杉が、サインを送る）
東屋大吉　カーブ…
（東屋が、第三球目を投げる）
三郎丸功　曲がり過ぎて外れるな…いや、違う！
ナレータ　三郎丸は、絶妙な角度でぎりぎりにストライクゾーンへ入ってくるボールを果敢にカットした…
主審　ファール…
三郎丸功　危ない、危ない…なんて、制球力だ…こんな際どい変化球は、なかなかお目にかかれないぜ…
（三郎丸の顔に、一滴の汗が伝う）
出鬼杉ミチル　よし…次はこいつで、どうだ…
東屋大吉　内角の外れたコースから、中へ食い込ませるスライダか…
（東屋が、第四球目を投げる）
三郎丸功　外してきたか…いや、違う！
ナレータ　三郎丸は、そのボールもカットした…
主審　ファール…
三郎丸功　裏をかかれるところだったぜ…息のピッタリと合った東屋と出鬼杉のコンビネーションは、まさに恐るべしだな…
（三郎丸が、バットを強く握る）
出鬼杉ミチル　よし…さっきのスライダの次は…
東屋大吉　内角をぎりぎりに外れるストレート…
（東屋が、第五球目を投げる）

三郎丸功　　　また、スライダで引っ掛けさせる気か…
ナレータ　　　三郎丸は、そのボールを打ちにいった…そして、ボールをバットでとらえたが、高く打ち上げてしまった…
三郎丸功　　　くそっ…見逃せば、ボールだったぜ！
　　　　　　　（三郎丸が、舌打ちして走り出す）
東屋大吉　　　セカンド！
猿渡匠　　　　おう！
　　　　　　　（猿渡が、そのフライを難なく処理する）
審判　　　　　スリーアウト、チェンジ！
ナレータ　　　東屋は、初回を０点で封じたのであった…

その４

ナレータ　１回の裏（攻撃）先掛高校vs上陵高校（守備）
ウグイス嬢　１番…ショート…馬万里くん…
黒岩誠　いくぞ…
ナレータ　黒岩は、大きく振りかぶって、第一球目を投げた…すると、ボールは、尋常でないスピードで、かっ飛んできたのだった…
主審　ストライーク！
馬万里蛮　な…
ナレータ　馬万里は、背中から汗が吹き出てくる感覚を覚えた…
三郎丸功　さすがに、ビビったようだな…なんせ、160km/時の球なんて、他に投げれる奴は見たことないからな…
（三郎丸が、ニヤリと笑う）
馬万里蛮　世界が変わって見えるぜ…
（馬万里が、バットを握り直す）
三郎丸功　だが、ストレートだけじゃ能がない…次は、カーブで内角に食い込むように投げろ…
黒岩誠　よし…
（黒岩が、第二球目を投げる）
馬万里蛮　うっ…カーブか…
ナレータ　馬万里は、そのボールを当てようとしたが、緩急の差によって感覚が狂った…
主審　ストライク、ツー！
馬万里蛮　凄い緩急の差だ…しかも、なんてシャープなカーブだ…
三郎丸功　最後は、高めにストレートで勝負だ…
黒岩誠　了解…
（黒岩が、第三球目を投げる）
馬万里蛮　なんて、緩急の差だ…目が追いつけない！
ナレータ　馬万里は、大きく空振りした。
主審　ストライーク、バッターアウト！
馬万里蛮　す、凄すぎる…これが、甲子園を優勝した投手の球なのか…
ナレータ　馬万里は、すごすごと打席から引き下がっていった。
ウグイス嬢　２番…セカンド…猿渡くん…
三郎丸功　最初は、スライダで真中狙いから外せ…
黒岩誠　うむ…
（黒岩が、第一球目を投げる）
猿渡匠　最初は、球速を活かしたストレートか…
ナレータ　猿渡は、そのボールを打とうとしたが、突然変化を始めた。
猿渡匠　しまった…スライダだった…
（猿渡が、大きく空振りする）
主審　ストライーク！
猿渡匠　あの球速で変化されたんじゃ、たまらないぜ…
ナレータ　猿渡は、バットを握っている手から汗が滲んでくる感覚を覚えた…
三郎丸功　次は、カーブでいくか…
黒岩誠　いいだろう…
（黒岩が、第二球目を投げる）
猿渡匠　カーブ…
ナレータ　猿渡は、タイミングを合わせて打とうとしたが、ボールは予想以上に曲がったため、またしても空振りしてしまった。

主審　　　　　ストライク、ツー！
猿渡匠　　　　信じられない曲がり方だ…
（猿渡が、バットを強く握り締める）
三郎丸功　　　最後は、際どく内角をついて外せ…
黒岩誠　　　　おう…
（黒岩が、第三球目を投げる）
猿渡匠　　　　ストレートだ…
ナレータ　　　猿渡は、フルスイングをしたがボールに、かすりもしなかった。
主審　　　　　ストライーク、バッターアウト！
猿渡匠　　　　振り遅れたか…しかも、よく見れば全部ボール球だったぜ…
三郎丸功　　　うちの黒岩のボールが、そう簡単に打たれてたまるかよ…
ナレータ　　　三郎丸は、黒岩にボールを返した…

その５

ウグイス嬢　３番…キャッチャー…出鬼杉くん…
黒岩誠　先高の名キャッチャー・出鬼杉の登場か…
（黒岩が、ロージンパックを捨てる）
三郎丸功　まずは、スライダだな…
黒岩誠　わかった…
（黒岩が、第一球目を投げる）
出鬼杉ミチル　むう！
（出鬼杉が、空振りする）
主審　ストライーク！
出鬼杉ミチル　恐ろしく変化するスライダだぜ…
（出鬼杉が、バットを強く握る）
三郎丸功　次は、外角に外そう…
黒岩誠　よし…
（黒岩が、第二球目を投げる）
出鬼杉ミチル　一球、外して来たか…
（出鬼杉が、そのボールを見送る）
主審　ボール…
黒岩誠　よく見切ったな…さすが、先高の３番だぜ…
（黒岩が、返球を受ける）
三郎丸功　次は、スライダで外角のコースからさらに外せ…
黒岩誠　うむ…
（黒岩が、第三球目を投げる）
出鬼杉ミチル　外角ストレートだ…
ナレータ　出鬼杉は、フルスイングをしたが、ボールは外へ逃げていった…
主審　ストライク、ツー！
出鬼杉ミチル　しまった…ハメられたか！
（出鬼杉が、眉をひそめる）
三郎丸功　さあ、こいつでとどめだ…
黒岩誠　よし、わかった…
（黒岩が、第四球目を投げる）
出鬼杉ミチル　内角ストレートで勝負にきたか！
（出鬼杉が、その勝負球を捕らえる）
黒岩誠　うっ…
ナレータ　黒岩は、即座にボールの行方を追った…打球は大きくコースを反れると、
１塁席へ飛び込んだ。
審判　ファール…
三郎丸功　ふう、あぶねえ…
（三郎丸が思わずため息をつく）
黒岩誠　こいつは、本当に要注意人物だぜ…
ナレータ　黒岩は、そうこぼすと、天を仰ぎながら一呼吸をついた。
黒岩誠　よし…
ナレータ　そして、適度な緊張感を感じながら、第五球目を投げた。
出鬼杉ミチル　またしても、内角のストレートか…
ナレータ　出鬼杉のバットは、そのボールをとらえようとしたが、ボールは急に球威を失って、落下した。

出鬼杉ミチル　フォークだったのか…
（出鬼杉のバットが、大きく空を切る）
主審　ストライーク、バッターアウト…スリーアウト、チェンジ！
黒岩誠　よし…三者連続三振だぜ！
三郎丸功　ナイス、ピッチングだ…黒岩！
ナレータ　黒岩と三郎丸は、ハイタッチしてベンチに戻っていった…
出鬼杉ミチル　あのスピードから、物凄い落ち方をしやがった…一瞬、ボールが見なくなるほどに…
ナレータ　出鬼杉は、背筋が冷える感覚を覚えたのだった…

その６

ナレータ　２回の表、（攻撃）上陵高校vs先掛高校（守備）
ウグイス嬢　４番…ピッチャー…黒岩くん…
（東屋が、ボールを強く握り締める）
黒岩誠　お前のピッチングが勝るか、それとも俺のバッティングが勝るか…勝負だ、東屋！
出鬼杉ミチル　ついに、黒岩の登場か…奴は、ピッチングだけでなくバッティングも鋭いと言う評価がある…やはり、初球は外すか…
（出鬼杉が、サインを出す）
東屋大吉　うむ…
（東屋が、第一球目を投げる）
黒岩誠　内角ぎりぎりで、外れるボールか…
（黒岩が、そのボールには手を出さずに見送る）
主審　ボール…
出鬼杉ミチル　さすがに、選球眼は良さそうだぜ…ならば、さっきと同じコースからスライダで、ストライクゾーンに入れてやろう…
東屋大吉　よし、来た…
（東屋が、第二球目を投げる）
黒岩誠　ふっ…
ナレータ　黒岩は、そのボールを見送った。ボールは、全く変化が掛からずに、ストライクゾーンから外れた。
主審　ボール…
東屋大吉　すまん…すっぽ抜けてしまった…
出鬼杉ミチル　ドンマイ、ドンマイ…リラックスだ、東屋！
ナレータ　出鬼杉は、東屋が緊張気味になっている事を察知して、失投に対して全く叱責することなくボールを返球した…
出鬼杉ミチル　確かに、相手が黒岩だと緊張するかも知れんが臆することは無いぞ…お前一人が戦っているんじゃない…先高のナイン全員で戦っているのだからな…
（出鬼杉が、サインを出す）
東屋大吉　もう一球外すのか…もしかして、俺の緊張感をほぐすために、そのサインを出しているのか？
（東屋が、首を横に振る）
東屋大吉　もう、大丈夫だ…今度は、お前のリードの通り投げてやるぜ…
出鬼杉ミチル　わかった…俺の方こそ、悪かったぜ…ならば…
（出鬼杉が、サインを出す）
東屋大吉　フォークか…
（東屋が、第三球目を投げる）
黒岩誠　フォークだな…
ナレータ　黒岩は、タイミングを見計らってフルスイングした…そして、ボールはバットの芯でとらえられ、空に舞い上がっていった…
東屋大吉　うっ…
ナレータ　ボールは、そのままスコアボードにぶち当たったのだった…
主審　ホームラン！
三郎丸功　よし…いいぞ、黒岩…先制点だ！
ナレータ　上陵高校野球部ベンチから歓声が上がった。
黒岩誠　まず、最初の対決は俺の勝ちだな…東屋…
ナレータ　黒岩は、ガッツポーズしながら一周した…
東屋大吉　やられたぜ…やっぱ、お前は凄いぜ…

ナレータ　　　東屋は、両手を腰に置いて溜息をついた…

出鬼杉ミチル　恐ろしい限りだな…まさに黒岩と言う男は、全ての要素を兼ね備えた一流のベースボールプレイヤーなのだ…

ナレータ　　　出鬼杉は、マスクを取って呆然としたのだった…

その７

ウグイス嬢	５番…サード…小早川くん…
小早川隆志	黒岩に続くぞ！
出鬼杉ミチル	リラックスだ、東屋…黒岩との勝負をする機会は、また訪れて来る…今は、この回を１点に抑えることに集中しろ…
東屋大吉	おう、そうだったな…
	（東屋が、第一球目を投げる）
小早川隆志	むう…カーブか…
ナレータ	小早川が、そのボールをとらえようとスイングしようとした…
小早川隆志	いや…外れる…
ナレータ	小早川は、力を込めてバットを制止させた…ボールは、大きく曲がってストライクゾーンを一個分だけ外れた…
主審	ボール…
小早川隆志	ふう…危なかったぜ…
出鬼杉ミチル	何て野郎だ…思い切りスイングした状態で、よみ違いに気づいてバットを止めるとは…この上陵高校の奴らは、全員が要注意人物に思えて来るぜ…
東屋大吉	むう…まさに、上陵高校はメンバ全員がスタープレイヤーみたいなもんだな…警戒するべき選手は、去年の甲子園に出た黒岩と三郎丸だけだと考えていたら大間違いだぜ…
	（東屋の表情が、険しくなる）
小早川隆志	さあ、来い！
	（小早川が、バットをしっかり握って構える）
出鬼杉ミチル	うむ…次は、内角の外れたとこから中へいれるスライダにしょう…
東屋大吉	そうだな…
	（東屋が、第二球目を投げる）
小早川隆志	これは、ストレートで内角へ外すと見せかけてスライダだな…
ナレータ	小早川は、そのボールをとらえてレフト前に運んだ…そして、小早川隆志は１塁に進塁した…
黒岩誠	ナイス・バッティング！
	（上陵高校野球部ベンチが、盛り上がる）
ウグイス嬢	６番…ライト…岸くん…
東屋大吉	上陵高校の６番か…
	（東屋が、ロージンパックを捨てる）
出鬼杉ミチル	最初は、スライダで外すか…
東屋大吉	OK…
	（東屋が、第一球目を投げる）
岸倫太郎	スライダだな…
ナレータ	岸はタイミングを合わせて、そのボールをとらえた…そして、ボールは１・２塁間を抜けようとした…
東屋大吉	セカンド！
猿渡匠	任せておけ！
ナレータ	猿渡は、ダイビングでキャッチして１回転をした…そして、セカンドベースをカバーに入った馬万里に送球した…
塁審	アウト！
馬万里蛮	ファースト！
ナレータ	馬万里は、そう声をかけて、ファーストへすかさず送球した…ボールは、岸が到達する前に平間の下へ届いたのだった…
塁審	アウト！

岸倫太郎　あ、あの打球に食いつくとは…
（岸が、唖然とする）
出鬼杉ミチル　よし、ダブルプレーだ！
東屋大吉　助かったぜ、猿渡…ありがとな！
猿渡匠　俺たちは、どんな打球でも食らいついてやるぜ…だから、怯まずにどんどん攻めてくれ。キャプテン！
東屋大吉　おう！
ナレータ　東屋は、ナインの奮闘ぶりに気持ちが落ち着いてきた…
ウグイス嬢　７番…レフト…大門くん…
出鬼杉ミチル　まずは、カーブだ…
東屋大吉　おう…
（東屋が、第一球目を投げる）
大門彬　初球は、カーブか…
ナレータ　大門は、そのボールを当てようとしたが、ボールは大きく曲がり始めた…そのため、大きく空振りしてしまった…
主審　ストライーク！
大門彬　鋭い角度だぜ…
（大門が、冷や汗をかく）
出鬼杉ミチル　次は、スローボールで、引っ掛けるぞ…
東屋大吉　よし…
（東屋が、第二球目を投げる）
大門彬　また、カーブか…
ナレータ　大門は、タイミングを見計らったが、ボールは変化しなかったため、すぐさまカットをした…
主審　ファール…
大門彬　危うく、引っかかるところだったぜ…
出鬼杉ミチル　最後は、フォークだ…
東屋大吉　わかったぜ…
（東屋が、第三球目を投げる）
大門彬　やはり、決め球はフォークできたか…
ナレータ　大門は、タイミングを見計らってスイングした…だが、ボールは思った以上に急落下したため、空振りしてしまった…
主審　ストライーク、バッターアウト…スリーアウト、チェンジ！
黒岩誠　守備陣のファインプレーといい、出鬼杉の絶妙なリードといい…先高は本当に良いチームだぜ…
（黒岩が、感嘆する）
東屋大吉　ナイスリードだぜ…出鬼杉！
出鬼杉ミチル　何を言っている…お前のピッチングがあってこそだぜ！
ナレータ　先掛高校野球部たちは、意気揚々とベンチに戻っていった…

その８

ナレータ　２回の裏、（攻撃）先掛高校vs上陵高校（守備）
ウグイス嬢　４番…ピッチャー…東屋くん…
東屋大吉　さっき取られた点を、ここで取り返してやるぜ！
黒岩誠　東屋からか…俺の球は、絶対に打たせん！
（東屋と黒岩の間で火花が散る）
三郎丸功　初球は、スライダから行くか…
黒岩誠　おう…
（黒岩が、第一球目を投げる）
東屋大吉　おらあっ！
ナレータ　東屋は、フルスイングでその速球に応戦しようとしたが、ボールは変化して向かってくるバットを避けた…
主審　ストライーク！
東屋大吉　スライダだったか…しかも、あんなに変化するスライダは初めてだぜ…
（東屋が、バットを握り替えて身構える）
三郎丸功　恐らく、次はストレートがくるとは思うまい…
（三郎丸が、サインを出す）
黒岩誠　なるほど…
（黒岩が、第二球目を投げる）
東屋大吉　スライダと見せかけて、ストレートだ…
ナレータ　東屋はフルスイングして、そのボールをとらえた…
黒岩誠　な、何っ！
ナレータ　ボールは、高々と伸び上がっていき、ライト方向へ向かった…そして、スタンドまで届いたが、ポールを割ってしまったのだった…
審判　ファール…
猿渡匠　おしい…
（先掛高校野球部ベンチから、ため息が漏れる）
東屋大吉　くそっ…ファールか…
（東屋が、心底悔しがる）
黒岩誠　俺のボールをスタンドまで、運んで行くとはな…恐れ入ったぜ…
（黒岩の表情が、一層に厳しくなる）
三郎丸功　まあ、これで奴の目はスピードボールに、慣れてしまったことだろう…最後は、カーブでいこうぜ…
黒岩誠　そうするか…
（黒岩が、第三球目を投げる）
東屋大吉　この緩急の差か…みんなが苦しんでいる原因は…
ナレータ　東屋は、何とかそのボールを打とうと努力したが、タイミングが大きく狂ってしまった…だが、何とかバットにかすらせることができたため、ファールチップで逃げることができたのだった
東屋大吉　よし、悪運はまだ尽きてなかったようだぜ
（東屋が、ほっと胸を撫で下ろす）
黒岩誠　どうやら、運の良さは相変わらずのようだな…
（その様子を見て、黒岩が不敵な笑みを浮かべる）
三郎丸功　うちのエースは、まだまだ余裕のようだぜ
ナレータ　と、そう確認した三郎丸は、低めのストレートを要求した
黒岩誠　いいぜ…望むところだ
ナレータ　黒岩は、目を光らせると大きく振りかぶった…

黒岩誠	くらえっ！
	（黒岩が、渾身の第四球目を放つ）
東屋大吉	直球勝負か。受けて立つぜ！
ナレータ	東屋は、そのボールに対してフルスイングで臨んだ。だが、その勝負を賭けた執念の一球は、今までにないすざましいスピードで襲いかかってきたため、打たれるはずが無いと言わんばかりに、三郎丸のミットに突き刺さったのだった…
主審	ストライーク、バッターアウト！
黒岩誠	よし！
	（黒岩が、ガッツポーズする）
六井太	ああ…なんて球だ…
満場健	確かに…あれは、そう簡単に打てねえぞ…
	（その一球に、先掛高校野球部ベンチは騒然となる）
東屋大吉	くう、やられたぜ…しかし、次は必ずとらえて見せるぞ！
ナレータ	東屋は、そう心に誓ってベンチへ戻った…

その９

ウグイス嬢　５番…センター…ハワードくん…

J・ハワード　ははは…安心しな、マイ・チームメイト。高校生No.1のボールは、この俺が先陣を切って打ち砕いてやるぜ！

黒岩誠　この男は、長打力に定評があるバッター…東屋を打ち取っても、全く気が抜けない打線だぜ…

（黒岩が、第一球目を投げる）

J・ハワード　レッツ、スマッシュ！

ナレータ　ジョニーは、そのボールを打とうとしたが変化がかかったため、バットはむなしく空を切った…

主審　ストライーク！

J・ハワード　むう、確かに、恐ろしいスピードだな…しかも、それに変化がかかるとは…面白い！

三郎丸功　臆するな…お前のボールを打てる奴が、この世にゴロゴロ存在してたまるかよ…

（三郎丸が、サインを出す）

黒岩誠　わかった…

（黒岩が、第二球目を投げる）

J・ハワード　ははは…さっきの東屋と同じ攻め方とは、少し芸が無さすぎるんじゃないのか！

ナレータ　ジョニーは、再びフルスイングしたが、ボールは急に失速して落下したため、またしても空を切った…

主審　ストライク、ツー！

J・ハワード　何と落差のあるフォークだ…

（ジョニーの表情が、険しくなる）

三郎丸功　最後は、スローボールでフォークというのはどうだ…

黒岩誠　フォークで緩急を付けるのか…わかったぜ…

（黒岩が、第三球目を投げる）

J・ハワード　スローボールだと？

ナレータ　ジョニーは、カーブと思い込んでスイングした…しかし、ボールは急落下してワンバウンドしたため、バットはむなしく空を切ってしまったのだった…

主審　ストライーク、バッターアウト！

J・ハワード　オウ、ノー！

ナレータ　裏をかかれたジョニーは、ホームベースをバットで思い切り叩いた

ウグイス嬢　６番…レフト…不破くん…

黒岩誠　この男のバッティングコントロールも相当なものと聞く…本当に、恐ろしいバッターが揃っていやがるな…

（黒岩が、ロージンパックを捨てる）

三郎丸功　まずは、低めにスライダで外すぞ…

黒岩誠　OK…

（黒岩が、第一球目を投げる）

不破光一　低めでストレート…

ナレータ　不破は、そのボールに手を出したがボールは変化して、バットからさらに逃げていった…

主審　ストライーク！

不破光一　むう…

（不破が、想像を絶する曲がり方に唸る）

三郎丸功　次は、緩急をつけるぞ…

黒岩誠　うむ…

（黒岩が、第二球目を投げる）

不破光一　カーブで来たか…

ナレータ　不破は、タイミングを合わせてバットを振り、ボールをとらえた…しかし、ボールは前には飛ばず、バッ

クネットに突き刺さった…

主審　　　　ファール…

三郎丸功　　うまく当てたな…

黒岩誠　　　さすが、先高のバッターだぜ…

（黒岩が、小さく笑う）

三郎丸功　　最後は、フォークでおさらばといこうか…

黒岩誠　　　了解…

（黒岩が、第三球目を投げる）

不破光一　　フォークか…

ナレータ　　不破は、そのフォークボールを打とうとしたが予想以上に落下したため、空振りしてしまった…

主審　　　　ストライーク、バッターアウト…スリーアウト、チェンジ！

不破光一　　一瞬…ボールが、目の前から消えた…

黒岩誠　　　よし！

三郎丸功　　ナイス・ピッチだ！

ナレータ　　黒岩と三郎丸は、ハイタッチしてベンチへ戻っていった…

ナレータ　　その後、試合は投手戦となり、黒岩は連続三振の山を着々と築いていった…一方、東屋大吉は、味方の援護の甲斐もあって０点で抑え続けたのだった…そして、試合は７回裏を迎える…

その１０

ナレータ　７回の裏、（攻撃）先掛高校vs上陵高校（守備）
主審　ストライーク、バッターアウト！
ナレータ　黒岩を前に、先掛高校野球部たちは苦戦を強いられていた…
六井太　これで、ツーアウトか…しかも、黒岩は今ので２０連続奪三振だ…
馬万里蛮　悔しいが、あいつは強すぎる…認めざるを得ないのか…
ナレータ　先掛高校野球部たちは、すっかり静まり返っていた…
出鬼杉ミチル　そう簡単に諦めるな、お前ら…ここで、諦めたら今まで何のために努力をして来たかわからなくなるぞ！
（出鬼杉が、ネクストサークルから黒岩を睨みつける）
出鬼杉ミチル　いいか、見ていろ…窮鼠、猫を噛むって奴を見せてやるぜ！
（出鬼杉が、バッターボックスに入る）
出鬼杉ミチル　このままでは、俺たちのチームは本当に撃沈してしまう…何が何でも、ここで打って試合のムードを、一気に変えてやるぜ！
ナレータ　出鬼杉は、気合いを入れてバットを握り締めた…
三郎丸功　気をつけろ…奴には、一発があるからな…
黒岩誠　おう…
（黒岩が、第一球目を投げる）
出鬼杉ミチル　よし…狙い通りの高速スライダがきた！
ナレータ　出鬼杉は、タイミングを合わせてフルスイングした…ボールは、バットの芯に当たって、空中へと大きく羽ばたいていく…そして、ボールはライトスタンドに突き刺さったのであった…
主審　ホームラン！
満場健　やったぞ…ついに、黒岩のボールをとらえて、ホームランを打っちまったぜ！
東屋大吉　でかしたぞ、ミッチー！
ナレータ　静まり返っていた先掛高校野球部ベンチが、一気に活気づいた…
三郎丸功　くそっ…これで、同点にされてしまったか！
黒岩誠　やられたぜ…
ナレータ　出鬼杉は、一周を回ってホームベースを踏み、先掛高校野球部ベンチに戻って祝福を受けた…
三郎丸功　まだ、同点にされただけだ…あんまり気にするなよ…
黒岩誠　おう、わかっているさ…だが、これ以上は打たせはしないぜ…
ナレータ　マウンドで、黒岩が三郎丸と話していた時、東屋が打席に入ってきた…そして、東屋と黒岩の間で激しい睨み合いになった…
黒岩誠　特に、あいつだけにはな…
三郎丸功　ああ…期待しているぜ…
ナレータ　三郎丸は、小さく笑うと、自分のポジションに戻った…
東屋大吉　ここで、連続ソロ・アーチを決めて逆転だ！
黒岩誠　そうはいか無いぜ…
ナレータ　黒岩は、思いきり振りかぶって、第一球を投げた…
東屋大吉　そりゃあ！
ナレータ　東屋は、フルスイングした…しかし、ボールは急に失速して落下したため、大きく空振りしてしまった…
主審　ストライーク…！
東屋大吉　相変わらず、落差のあるフォークだぜ…
黒岩誠　ふっ…
（黒岩が、三郎丸からボールを受け取る）
黒岩誠　いくぜ！
（黒岩が、第二球目を投げる）

東屋大吉　　カーブだな…

ナレータ　　東屋は、ボールの変化してくるタイミングに合わせて打とうとしたが、ボールは変化しなかったため、バットでかすめてしまった…ボールは、前に飛ばず、バックネットへ突き刺さった…

主審　　ファール…

東屋大吉　　ただのスローボールだったのか…

（東屋が、歯ぎしりする）

三郎丸功　　まさに、黒岩の速球があってこそ、生きてくるボールだな…

（三郎丸が、黒岩にボールを投げ返す）

東屋大吉　　次は、見事に打ち返してやるぜ！

黒岩誠　　やれるものならやってみろ！

（黒岩が、第三球目投げる）

東屋大吉　　今度こそ、ストレートだ！

ナレータ　　東屋は、フルスイングで応戦した…しかし、ボールは変化したため、バットは大きく空を切った…

主審　　ストライーク、バッターアウト…スリーアウト、チェンジ！

東屋大吉　　最後は、あの異常な変化をするスライダだったか…だ、駄目だ…俺の力は、こいつには遠く及ばないのか…

ナレータ　　東屋は、がっくりと肩を落とした…その後、東屋と黒岩の両ピッチャーは力投を重ね、８回を共に三者連続三振で抑えた状態で、ついに９回の表に突入したのであった…

その１１

ナレータ　９回の表、（攻撃）上陵高校vs先掛高校（守備）
東屋大吉　先頭バッターは、１番の風間からか…
風間小四郎　絶対に打ち崩してやるぜ！
（風間が、気合い十分でバッターボックスに入る）
出鬼杉ミチル　とにかく、１点が大きく響く試合だ…最後まで、慎重にいくぞ…
東屋大吉　百も承知だぜ…
（東屋が、第一球目を投げる）
風間小四郎　うりゃあ！
ナレータ　風間は、フルスイングでそのボールをとらえた…すると、ボールは、空高く舞い上がってライト方向へ向かった…
東屋大吉　むっちぃー、取ってくれ！
六井太　くっ…届かない…
ナレータ　六井は、懸命に前進したがぎりぎりで届かず、ボールは六井の手前で落ちた…
黒岩誠　やったぜ！
ナレータ　風間の渾身のヒットは、ライト前ヒットとなり、彼は１塁に進塁した…
西条一樹　ここは、手堅くバントで送る方が良さそうだな…
（西条が、バントの構えをする）
東屋大吉　確実に送る気だな…
ナレータ　東屋は、ナインたちに前進するよう指示を送った…そして、彼は、第一球目を投げた…すると、西条は、絶妙な位置へボールを転がした…
黒岩誠　よし…うまい…
ナレータ　その転がっていくボールを、東屋は懸命に手を伸ばして捕球した…
東屋大吉　うわあ！
ナレータ　しかし、東屋は勢い余って、その場で転倒してしまった…そのため、西条は、アウトにならず１塁へ出塁したのだった…
黒岩誠　よし、良いぞ…これで、ノーアウト１・２塁だぜ！
（上陵高校野球部たちが、盛り上がる）
出鬼杉ミチル　大丈夫か、東屋…
ナレータ　出鬼杉は、タイムをかけて東屋に駆け寄った…
東屋大吉　す、すまん…足がもつれてしまったぜ…
出鬼杉ミチル　上陵高校相手だから、疲労がたまっているんじゃないだろうな…
東屋大吉　大丈夫…まだ、全然平気だって…
ナレータ　東屋は、少しよろけながらマウンドに戻った…
三郎丸功　ふむ…多少、疲れているようだな…
（三郎丸が、バッターボックスに入る）
東屋大吉　さ、三郎丸か…
（東屋が、帽子を取って汗を拭う）
三郎丸功　風間…西条…
風間小四郎　むっ…
西条一樹　オーライ。
ナレータ　三郎丸は、ヘルメットのひさしの部分を触って、風間と西条に合図した。
東屋大吉　これぐらい、どうったことないぜ…とにかく、打ち取るまでだ！
ナレータ　東屋は、第一球目を投げた…と、その時、風間と西条は同時に走った…
出鬼杉ミチル　ダ、ダブルスチール！

ナレータ　三郎丸は、わざと大きく空振りした…出鬼杉は、ボールを取って風間を刺そうとしたが、体勢を崩した三郎丸によって阻まれてしまった…

出鬼杉ミチル　くそっ！

ナレータ　出鬼杉は、３塁へ投げるのを諦めて、２塁に送球した…しかし、このわずかな遅れのせいで、西条は無事に２塁への進塁を果たしたのであった…

塁審　セーフ…

黒岩誠　よし…これで、ノーアウト２・３塁だぜ！

（上陵高校野球部たちは、さらに沸き上がる）

出鬼杉ミチル　くそ…やってくれるぜ…三郎丸め！

三郎丸功　悪く思うなよ…これも駆け引きの一つなんだからな…

東屋大吉　やばい、雰囲気になって来ちまったぜ…

ナレータ　東屋の心拍数が、次第に上がっていった…

出鬼杉ミチル　恐れるな、東屋…みんなは、お前を信用しているんだぞ。お前が、自分自身の力を信じられなくてどうする…

東屋大吉　そ、そうだったな…自分の力を信じて、投げぬくのみだよな…

（東屋は、気合を入れ、かっと見開く）

東屋大吉　よし、いくぜ！

ナレータ　東屋は、意を決して、第二球目を投げた…

三郎丸功　カーブだな…

ナレータ　三郎丸は、そのボールをとらえた…しかし、ボールは高く打ちあがってしまったのであった…

三郎丸功　しまった…

風間小四郎　いや…タッチアップができる…

ナレータ　そして、ボールは、ライトの奥深くまで飛んでいった…

六井太　オーライ！

ナレータ　六井は、その打球をキャッチした…と、その瞬間、風間はダッシュした…

東屋大吉　バックホームだ！

六井太　任せておけ！

ナレータ　六井は、キャッチャーに向かってダイレクトにボールを投げた…それは、弾丸ライナーとなって、出鬼杉のミットを目がけて飛んで来た…

黒岩誠　まずい…

出鬼杉ミチル　よし…アウトにできる！

ナレータ　出鬼杉は、ボールを捕球した…

風間小四郎　くそっ！

ナレータ　風間は、ヘッドスライディングして突っ込んだ…

出鬼杉ミチル　負けるか！

ナレータ　出鬼杉と風間は、クロスプレーとなってぶつかり合った…その結末は、出鬼杉に軍配が上がり、風間の帰還を見事に防いだのであった…

主審　アウト！

東屋大吉　よし！

ナレータ　東屋は、二人の見事なプレーを目の当たりにし、思わず吠えた…

その１２

ナレータ　風間はベンチに戻ると、部員たちに謝罪した。
風間小四郎　すまなかった…
黒岩誠　なあに、ライトの返球が良すぎたんだよ…仕方が無い…
三郎丸功　そうだな…あのライトは、なかなか侮れんな…
（三郎丸が、そう言って、ライトを睨む）
黒岩誠　でも、西条は２塁にいるんだ…まだ、わからないぜ…
ナレータ　黒岩は、心の中で闘志を燃やしながらバッターボックスに入った…
黒岩誠　ここで勝負を決めてやるぜ！
東屋大吉　そうはさせるか！
（東屋が、第一球目を投げる）
黒岩誠　もらった！
ナレータ　黒岩は、バットを大きく振り抜いた…すると、ボールは、空中を高く伸びあがっていった…
東屋大吉　うっ…
ナレータ　東屋は、思わず振り返った…
出鬼杉ミチル　いや、少し飛距離が足りない…六井、取ってくれ！
（出鬼杉が、六井を見守る）
六井太　入るか、入らないかのぎりぎりのとこだね…でも、何が何でも取ってみせるよ！
ナレータ　六井は、ボールを目で追いながら、必死にバックしていった…そして、彼はダイビングして、そのボールに食らいついた…六井は、見事に打球を捕らえたが、その勢いで、そのままフェンスに向かって、頭から激突してしまったのだった…
六井太　があっ…
ナレータ　そして、その衝撃と共に、六井はうめき声をあげると、そのままグランドに沈んだのであった…
出鬼杉ミチル　ああ…
東屋大吉　む、むっちぃー！
J・ハワード　オウ、マイゴット！
ナレータ　ジョニーと審判は、ぴくりとも動かない六井に駆け寄った…彼は、フェンスに激突しながらもボールを落とすことなく、しっかりキャッチしていたのであった…
審判　スリーアウト、チェンジ！
黒岩誠　凄い…ナイス・ファイトだ…
ナレータ　黒岩は、その気迫のあるプレーに心を打たれた…
J・ハワード　おい、しっかりしろ…目を覚ませ、むっちぃーさん！
ナレータ　ジョニーは、気を失った六井のほっぺを叩いた…すると、彼は、薄っすらと目を開けた…
六井太　ジョ、ジョニー…ボ、ボールは…
ナレータ　六井は、口を震わせながら、そう呟いた…
J・ハワード　ははは…ボールなら、お前のグローブの中だ。しかし、お前はたいした奴だぜ…少し、お前を見直したぞ！
六井太　そうか…それは、良かった…
ナレータ　六井は、そう言って、にこっと笑った…と、その時、ふいに彼の額から血が滴り落ちてきたのであった…
J・ハワード　なっ…
ナレータ　それを見て、ジョニーが声を失った瞬間、六井は再び深い眠りへと誘われていったのだった…
J・ハワード　む、むっちぃーさん…おい、むっちぃーさん！
ナレータ　最悪の状況となったと悟ったジョニーは、ふいに大声で叫んだ…
J・ハワード　担架だ…担架を、用意してくれ！

ナレータ　　細井と丸込は、急いで担架を運んで来た…
東屋大吉　　大丈夫か、むっちぃー…死ぬなー！
出鬼杉ミチル　取り乱すな、東屋…まず、医務室へ運び込む方が先だ！
ナレータ　　こうして、六井は、担架で医務室へ運ばれていったのであった…

その１３

ナレータ　　　９回の裏、（攻撃）先掛高校vs上陵高校（守備）
　　　　　　　数分後、付き添いに行っていた東屋と出鬼杉がベンチに戻って来た…
猿渡匠　　　　六井さんは、無事なんですか…
東屋大吉　　　取りあえず、命には別状が無いとのことだ…
J・ハワード　よ、よかった…
出鬼杉ミチル　しかし、六井はこれ以上試合を続行することはできない…赤平、代わりにライトへ入ってくれるか…
赤平哲平　　　おう、任しておけ…六井さんのガッツを無駄にはしないぜ！
東屋大吉　　　頼んだぞ…赤平…
出鬼杉ミチル　よし、すぐに交代を告げよう…
ナレータ　　　東屋は、審判に選手の交代を告げた…
黒岩誠　　　　現時点では、同点…ならば、この回を抑えて延長戦に持ち込むまでだ…
　　　　　　　（黒岩が、力を込めてボールを握る）
平間浩　　　　がはは…俺が、切り込み隊長になってやるぜ！
ナレータ　　　平間は、自身満々で、バッターボックスに入ってきた…
三郎丸功　　　残念だが…お前は、及びじゃないぜ…
ナレータ　　　黒岩は、平間をあっさりと三振させ、早くもアウトを１つゲットしたのであった…
赤平哲平　　　見ていてくれよ…六井さん…
ナレータ　　　赤平は、闘志を燃やしながら、バッターボックスに入った。
黒岩誠　　　　誰がやってこようと、俺は負けん！
ナレータ　　　黒岩は、第一球目を投げた…すると、ボールは、勢いよく三郎丸のミットに突き刺さった…
主審　　　　　ストライーク！
赤平哲平　　　まじかで見ると、本当に速いボールだぜ…
ナレータ　　　赤平は、バットを強く握り締めた…
三郎丸功　　　緩急を付けて、相手のリズムを崩すぞ…
黒岩誠　　　　うむ…
　　　　　　　（黒岩が、第二球目を投げる）
赤平哲平　　　くうっ…
ナレータ　　　赤平は、変化するタイミングを見計らってスイングした…しかし、頭ではわかっていても体がうまくついていかず、空振りしてしまった…
主審　　　　　ストライク、ツー！
赤平哲平　　　なんて様だ…これじゃ、六井さんに申し訳が立たない…
三郎丸功　　　スポットでいきなり現れたバッターに、黒岩の球が打たれてたまるかよ。とどめは、スライダだぜ！
黒岩誠　　　　OK…
　　　　　　　（黒岩が、第三球目を投げる）
赤平哲平　　　何が何でも、打ってやる！
ナレータ　　　しかし、赤平のバットは、大きく空を切った…
主審　　　　　ストライーク、バッターアウト！
赤平哲平　　　申し訳ない…
ナレータ　　　赤平は、がっくりと肩を落として、ベンチに戻っていった…その後、黒岩は渾身のピッチングで、馬万里を三振に切って落としたのだった…
黒岩誠　　　　よし…これで延長戦へ突入だぜ！
出鬼杉ミチル　ついに、延長か…
東屋大吉　　　上等だぜ…
ナレータ　　　両校の闘志は、一段と燃え上がったのであった…

ナレータ　　　そして、甲子園大会決勝戦は延長戦に突入した…試合は、両チームが共に得点をあげることができず、まさに死闘と化したのであった…両チームの選手たちは、息を切らし、疲れ果て、満身創痍になりながらも気力を振り絞ってがんばり抜いた…そして、試合は１５回の裏に達したのであった…

その１４

ナレータ　１５回の裏、（攻撃）先掛高校vs上陵高校（守備）
猿渡匠　く、くそっ…
ナレータ　猿渡は、カウント２－０に追い込まれながらも、闘志を燃やし続け、バッターボックスに仁王立ちしていた…
黒岩誠　ふっ…これで、終わりだ…
（黒岩が、第三球目を投げる）
猿渡匠　ぬあ…
ナレータ　猿渡は、必死にバットを振り抜いたが、ボールはキャッチャーミットに収まった…
主審　ストライーク、バッターアウト！
猿渡匠　ダ、ダメだったか…
ナレータ　猿渡は、少しよろめきながら、ベンチへ戻っていった…
出鬼杉ミチル　だいぶバテてきたみたいだな…何とかしないと、本当にみんなが潰れてしまうぜ…
（出鬼杉が、歯を食いしばりながら打席に入る）
黒岩誠　出鬼杉の番か…
ナレータ　黒岩は、脂汗をかきながら、きっと睨んだ…
出鬼杉ミチル　来い…もう一発、お見舞いしてやるぜ！
黒岩誠　そうは、いくか…
（黒岩が、第一球目を投げる）
出鬼杉ミチル　うおっ！
ナレータ　出鬼杉は、その衰えを知らない豪速球に、驚かされた…
主審　ストライーク！
出鬼杉ミチル　ば、化け物か…こいつは…
ナレータ　出鬼杉は、黒岩に対して戦慄を覚えた…
黒岩誠　俺は、絶対に負けん…
（黒岩が、大きく振りかぶる）
黒岩誠　とおりゃあ！
ナレータ　黒岩は、第二球目を投げた…しかし、そのボールは、途中で地面に落ちて、ワンバウンドした…
三郎丸功　おっと…
（三郎丸が、それたボールを必死に捕球する）
主審　ボール…
黒岩誠　わ、わりい…
（黒岩が、すかさず陳謝する）
出鬼杉ミチル　さっきのは、完全な失投だな…いかに黒岩とは言え、さすがに疲れてきているのだろう…チャンスだ…
（出鬼杉が、バットを強く握りしめる）
黒岩誠　そうはいくか…
（黒岩が、投球姿勢に入る）
黒岩誠　そう簡単に、打たれてたまるか！
ナレータ　黒岩は、渾身の力を振り絞って、第三球目を投げた…しかし、そのボールは、ストライクゾーンから大きく外れ、避けきれなかった出鬼杉の左わき腹を直撃した…
出鬼杉ミチル　ぐ…ぐふっ…
ナレータ　出鬼杉は、わき腹を抑えて倒れた…
主審　デッドボール…
東屋大吉　ミ、ミッチー…大丈夫か？
ナレータ　東屋たちは、急いで出鬼杉の下に駆け寄った…

出鬼杉ミチル　心配するな…だ、大丈夫だ…
ナレータ　東屋たちの顔を見た出鬼杉は、痛みを堪えながら立ち上がった…
出鬼杉ミチル　わかっているな、東屋…得点のチャンスだぜ…
東屋大吉　おう、もちろんだ…
ナレータ　東屋の真剣な眼差しを見て安心したのか、出鬼杉はよたよたと１塁ベースに向かった…
出鬼杉ミチル　うぐぐ…この痛みは、ただ事じゃないな…よもや肋骨にヒビがいったのかもしれん…
ナレータ　出鬼杉は、脂汗をかきながら、とぼとぼと歩いた…
出鬼杉ミチル　試合は、まだ終わっていないんだ…終わるまで、もってくれ…
ナレータ　出鬼杉は、激痛に耐えながらも１塁ベースへたどり着いたのであった…
東屋大吉　ここで、決着をつけるぜ…黒岩！
黒岩誠　ふっ…返り討ちにしてやるぜ…
（黒岩が、第一球目を投げる）
東屋大吉　前よりも、球威は落ちている…
ナレータ　東屋は、思い切り振って、そのボールをはじき返した…
猿渡匠　や、やったか…
ナレータ　先掛高校野球部たちは、一同総立ちとなった…
黒岩誠　セ、センター！
ナレータ　しかし、無情にも打球は、スタンドに入ることなく、センターの辻によって、キャッチされてしまったのだった…
東屋大吉　くっ…くそ！
ナレータ　東屋は、思わず天を仰いだ…そして、続くジョニーも三振させられてしまい、先掛高校野球部はチャンスをものにすることが、できなかったのであった…

その１５

ナレータ　そして、試合はとうとう１８回にもつれこんだのであった…

ナレータ　１８回の表、（攻撃）上陵高校vs先掛高校（守備）
先掛高校野球部たちは、ふらふらとしながらベンチを出て行った…その様子を、後援会の皆さんは、ただじっと見つめるしかなかった…

藤谷譲二　ついに、１８回まで来てしまったか…まさか、ここまで接戦になるとは思わなかったぜ…

源五郎　おい、あれを見ろ。大丈夫なのか、大吉の奴…マウンドに上がったはいいが、前かがみになったまま動かなくなっちまっているぞ…

ナレータ　東屋は、息を切らし、マウンドで大量の汗をかきながら、踏みとどまっていた…

藤谷譲二　東屋…
（藤谷が、息を飲む）

源五郎　もう、勝敗なんざ、どうだっていい…早く、休ませてやりたいわい…

ナレータ　後援会の皆さんは、このまま何事もなく無事に試合が終わることを望んだのであった…

東屋大吉　はあ、はあ…ぜい、ぜい…

ナレータ　東屋は、意識が朦朧となりながら、マウンド上で息を切らしていた…

出鬼杉ミチル　はあ、はあ…すまない、東屋…俺たちが援護をできないばっかりに、お前をこんな目に合わせてしまって…

ナレータ　出鬼杉は、マスクの下で顔を歪ませながら、心の中で叫んだ…

猿渡匠　はあ、はあ…キャプテン…

満場健　ぜえ、ぜえ…あ、東屋…

ナレータ　他の先掛高校野球部たちも立っているのが、やっとの状態であった…

黒岩誠　ぜえ、ぜえ…じゃ、じゃあ行ってくるぜ…

三郎丸功　はあ、はあ…お、おう…たのむ…

ナレータ　しかし、上陵高校野球部たちも同じく、限界をきたしていたのだった…

黒岩誠　こ、ここまで来て…ま、負けられるかよ…
（黒岩が、執念で打席に入る）

東屋大吉　ぜえ、ぜえ…この回の先頭バッターは…く、黒岩からだったな…

ナレータ　東屋は、前かがみの姿勢から気力を振り絞って立ち上がった…そして、二人は、互いに睨み合った…

黒岩誠　こ、ここで、ケリをつけてやるぜ…

東屋大吉　それは、俺のセリフだ…

ナレータ　東屋は、よろけながらも第一球目を投げた…ボールは、既に球威が落ちていたが、黒岩も疲れ切っていたので十分通用した…

主審　ストライーク！

黒岩誠　あ、あんな球威の球が打てないんじゃ…か、完全にヤキが回っているぜ…
（昏迷の中、黒岩はバットを構え直す）

東屋大吉　はあ…はあ…はあ…

ナレータ　東屋は、目の前がぼやけて焦点が合わなくなってきていた…

東屋大吉　こ、こなくそ…

ナレータ　東屋は、第二球目を投げた…と、同時に、マウンドに倒れた…

黒岩誠　くう…

ナレータ　黒岩は、必死でスイングしたが空振りして倒れてしまった…

主審　ストライク、ツー！

黒岩誠　あ、足がもつれてしまったぜ…ぜえ…ぜえ…

（黒岩が、バットを杖代わりにして立ち上がる）

東屋大吉　い、意外とタフな奴だぜ…

ナレータ　そうこぼすと、東屋も気力を振り絞って立ち上がった…

黒岩誠　こ、来い…

（黒岩が、息を切らしながらバットを構える）

東屋大吉　の、望むとこだぜ…

ナレータ　東屋は、歯を食いしばりながら、投球姿勢に入った…そして、第三球目を投げた…

黒岩誠　うりゃあああー！

（黒岩が、そのボールをとらえて打ち返す）

猿渡匠　くうおっ！

ナレータ　猿渡は、全ての力を振り絞ってボールに飛びつき、そのままグランドに倒れ込んだ…しかし、ボールはしっかりと猿渡のグローブの中に収まっていたのであった…

審判　アウト！

東屋大吉　サ、サンキュー、猿渡…

ナレータ　東屋は大きく息を切らしながら、そう小さく返した…そして、続く上陵高校の打者をなんとか三振させて、０点を死守したのであった…

その１６

ナレータ　　　１８回の裏、（攻撃）先掛高校vs上陵高校（守備）
先掛高校野球部たちは、ベンチに戻るとぐったりした…
出鬼杉ミチル　はあ、はあ…お、俺からか…
ナレータ　　　出鬼杉は、ゆっくり起き上がってバッターボックスに向かった…と、その時、出鬼杉の脇腹に激痛が走った…
出鬼杉ミチル　い、いてえ…だんだん、痛みが増してきやがったぜ…
ナレータ　　　出鬼杉は、わき腹を抑えながら、バッターボックスに向かった…
東屋大吉　　　ミッチー…
ナレータ　　　東屋は、朦朧とする中、ふいに何か嫌な予感に襲われていた…
出鬼杉ミチル　さあ、来い…
ナレータ　　　出鬼杉は、わき腹の痛みと疲れに堪えながら、眉間にしわを寄せた…
黒岩誠　　　　い、いくぜ…
（黒岩が、よろめきながら、第一球目を投げる）
出鬼杉ミチル　ぬうあ…
ナレータ　　　出鬼杉は、力一杯にスイングしたが、空振りしてしまった…
主審　　　　　ストライーク…！
出鬼杉ミチル　ぐっ、ぐおっ…
ナレータ　　　出鬼杉は、急にうめき声をあげた…
主審　　　　　き、君…大丈夫かね…
ナレータ　　　主審は、たまらず出鬼杉に声をかけた…
出鬼杉ミチル　だ、大丈夫です…ちょっと、捻ったみたいで…
主審　　　　　むう…君がそう言うなら、止めないが…無茶はしないでくれ…
出鬼杉ミチル　す、すみません…
（出鬼杉が、主審に対して頭を下げる）
出鬼杉ミチル　こ、こりゃ…さっきのスイングで、マジで折れたかもしれないな…尋常な痛さじゃないぜ…
（出鬼杉が、脂汗を大量にかき始める）
出鬼杉ミチル　し、しかし…ここで、降りるわけにはいかないぜ…
（出鬼杉は、あくまでバットを構える）
黒岩誠　　　　はあ、はあ…もはや精神力との戦いだぜ…
（黒岩が、大きく振りかぶる）
黒岩誠　　　　おりゃあ…
（黒岩が、第二球目を投げて倒れる）
出鬼杉ミチル　でりゃあ！
ナレータ　　　出鬼杉は、思い切りバットを振り抜いた…すると、打球はレフト前へ落ちたのであった…
東屋大吉　　　や、やった…
ナレータ　　　東屋は、力なく声を発した…
出鬼杉ミチル　うぐぐっ…何が何でも、出塁してやるぜ…
ナレータ　　　出鬼杉は、ふらふらしながらも、１塁ベースへたどりついた…
東屋大吉　　　よし…ランナーが出たぞ…
ナレータ　　　その時だった…
出鬼杉ミチル　ぐ、ぐはあ！
ナレータ　　　突然、出鬼杉が、口から血を吐き出した…それは、折れた肋骨が内臓に刺さったことを意味していた…
東屋大吉　　　ミ、ミッチー！
ナレータ　　　東屋は、その様子を見て、ふらつきながらも急いで彼の下に駆けつけた…が、血を吐き出しながら、仁

王立ちする出鬼杉の目の前で転んでしまったのだった…

東屋大吉　　しっかりしろ、ミッチー…

ナレータ　　東屋は、上体を反らして、震わせながら手を伸ばした…

出鬼杉ミチル　…思えば、一度は野球を捨てようとし、お前たちを潰そうとしていた時があったよな…その報いが、今来たのかもしれん…

ナレータ　　出鬼杉は、そう口にすると、膝から崩れた…

東屋大吉　　な、何をバカなことを言っているんだ…そんな昔のことは、どうだっていいじゃないか…お前は、俺の大切な仲間だ…

ナレータ　　東屋は、必死にそう訴えた…

出鬼杉ミチル　ありがとうな…東屋。お前と一緒に甲子園を目指せて、俺は幸せ者だぜ…もう、何も悔いはない…

ナレータ　　出鬼杉は、思わず涙を浮かべた…

東屋大吉　　止めろ…そんな縁起でもないことを言うな！

ナレータ　　東屋は、体を震わせながら、必死に叫んだ…だが、むなしく、その声が球場内に響き渡ると、

出鬼杉ミチル　あ、東屋…後は、頼んだぞ…

ナレータ　　出鬼杉は、前のめりになって倒れたのであった…

東屋大吉　　ミ、ミッチー！！

ナレータ　　東屋の叫び声が、球場をこだました…

その１７

ナレータ　出鬼杉は、すぐさま救急車で運ばれていった…と、彼がいなくなった球場で、東屋は静かに佇んでいた…

東屋大吉　ミ、ミッチー…お前は、俺たちのために命がけで、この試合に立ち向かってくれたんだよな…

ナレータ　東屋は、心の中で泣いていた…

東屋大吉　み、みんな…今まで、一緒に戦ってくれて、本当にありがとうな…

ナレータ　東屋は、疲れ果てた先掛高校野球部たちを見つめた…

東屋大吉　むっちぃー…お前のガッツは、決して無駄にはしないぜ…

ナレータ　すると、東屋の目に闘志の炎がともった…

東屋大吉　この命尽きるまで、俺は戦い続ける…

ナレータ　東屋は、静かにバットを持って、打席に向かった…

黒岩誠　はあ、はあ…ぜえ、ぜえ…

（黒岩が、打席に入ってきた東屋を見つめる）

黒岩誠　こ、これが本当の最後の勝負だな…さ、最後まで、ベストを尽くそうぜ…東屋…

東屋大吉　あ、当たり前だぜ…

（東屋が、ゆっくりとバットを構える）

東屋大吉　俺は手を抜くつもりは、さらさら無いぜ…俺を支えてくれたみんなのためにも、俺は全てを尽くす…

黒岩誠　俺も同じだ…お前を倒すために、全てを賭ける…

ナレータ　黒岩は、大きく振りかぶって、渾身の一球を投げてマウンドに倒れた…それに対して、東屋は、大きく空振りして倒れた…

主審　ストライーク！

黒岩誠　う、うぐぐ…

東屋大吉　がはっ…げほげほ…

ナレータ　東屋と黒岩は、必死に立ち上がった…

東屋大吉　よ、よし…お互い、立ち上がったな…

黒岩誠　お前を倒すまでは、死ぬわけにはいかないぜ…

（東屋と黒岩が、お互い見合って小さく笑う）

黒岩誠　い…いくぞ…

東屋大吉　お、おう…

（黒岩が、ふらつきながら思い切り振りかぶる）

黒岩誠　くらえ…

ナレータ　黒岩は、全てを振り絞って、ボールを放った…

東屋大吉　これが、先高魂だ…

ナレータ　と、東屋は、そのボールをジャストミートさせて思い切り振りぬいた…ボールは、高々と舞い上がり、飛距離をぐんぐん伸ばしていった…そして、スタンドの中に吸い込まれるように消えていったのであった…

藤谷譲二　は、入った…さよならツーラン・ホームランだ…

源五郎　や、やりおったわい…あのガキども…

ナレータ　先掛高校側の観客席から、大歓声が起こった…

黒岩誠　はあ、はあ…や、やられたか…お、恐れ入ったぜ…

ナレータ　黒岩は、前傾姿勢で苦しそうに息を切らした…

東屋大吉　ぜえ、ぜえ…く、黒岩…

ナレータ　力を振り絞りながら一周を歩き、ホームベースを踏み終えた東屋が、マウンドまでふらつきながら駆け寄ってきた…

黒岩誠　あ、東屋…おめでとう…

東屋大吉　　い、いい試合をありがとうな…黒岩…

ナレータ　　二人はそう言って、握手しようとしたが、よろけてその場で倒れ込んでしまった…しかし、二人は気を失いながらも、がっちりと固い握手をしていた…そして、その顔からは、爽やかな笑みがこぼれていたのであった…

三郎丸功　　く、黒岩…

猿渡匠　　キャプテン！

ナレータ　　両校の部員たちは、一斉に二人の下へ駆け寄ると、その場で大きな声をあげて泣き崩れたのであった…その様子を見た観客たちは、健闘した高校球児たちに拍手喝采した…

源五郎　　うむ、うむ…本当によくがんばったわい…お前ら…

ナレータ　　げんさんは、そう言って涙ぐんだ…

藤谷譲二　　お疲れ…東屋。お前たちの野球部は、最高だな…もう、誰もお前らの野球部を悪く言う奴はいないだろうぜ…

ナレータ　　こうして、先掛高校野球部は甲子園大会を制して、日本一の座に着いたのであった…

ナレータ　　余談となるが、その後、出鬼杉と六井は、順調に回復し、無事に退院したことを最後に報告して、物語を終えたいと思う…

～完～